

日本地質学会 News

Vol.10 No.5 May 2007



出版物在庫案内

ご希望の方は代金を添えて本会事務局宛お申込みください。なお、2冊以上のお申込みにつきましては送料をお問い合わせください。

現金書留または郵便振替 00140-8-28067

No. 38以前の論集：院生・学生は4割引、正会員は2割引 No. 40以降の論集：院生・学生のみ2割引

地質学論集

- 第 21 号 続・日本列島の基盤. 加納 博ほか編, 331pp., 1982年4月刊, 会員価格2,400円, ￥340円
第 26 号 白亜系の国際対比—現状と問題. 平野弘道編, 172pp., 1985年3月刊, 会員価格2,000円, ￥290円
第 30 号 日本の第四紀層の層序区分とその国際対比. 市原 実ほか編, 221pp., 1988年4月刊, 会員価格2,000円, ￥340円
第 33 号 西南日本内帯高圧変成带とテクトニクス. 西村祐二郎ほか編, 357pp., 1989年4月刊, 会員価格3,000円, ￥340円
第 34 号 堆積盆地と褶曲構造—形成機構とその実験的研究—. 三梨 ほか編, 209pp., 1990年3月刊, 会員価格2,500円, ￥340円
第 37 号 古日本海東縁の新第三系—層序・古地理・古環境. 小林巖雄ほか編, 326pp., 1992年3月刊, 会員価格3,000円, ￥340円
第 38 号 変動帶における碎岩類の組成と起源—日本列島を例として—. 君波和雄ほか編, 401pp., 1992年3月刊, 会員価格3,500円, ￥340円
第 40 号 中央構造線のネオテクトニクス—その意義と問題点—. 岡田篤正ほか編, 250pp., 1992年12月刊, 会員価格3,200円, ￥340円
第 42 号 西南日本の地殻形成と改変. 小松正幸ほか編, 357pp., 1993年4月刊, 会員価格3,100円, ￥340円
第 43 号 浅部マグマ溜りとその周辺現象の地球科学. 村岡洋文ほか編, 177pp., 1994年4月刊, 会員価格2,000円, ￥340円
第 44 号 島弧火山岩の時空変遷. 周藤賢治ほか編, 335pp., 1995年11月刊, 会員価格2,800円, ￥340円
第 45 号 シーケンス層序学—新しい地層観を目指して. 斎藤文紀ほか編, 249pp., 1995年8月刊, 会員価格2,500円, ￥340円 (売り切れました)
第 46 号 火山活動のモデル化. 佐藤博明ほか編, 162pp., 1996年9月刊, 会員価格1,900円, ￥290円
第 47 号 日高地殻—マントル系のマグマ活動. 荒井章司ほか編, 323pp., 1997年4月刊, 会員価格3,000円, ￥340円
第 48 号 Cretaceous Environmental Change in East and South Asia (IGCP350) Contributions from Japan— 岡田博有ほか編, 188pp., 1997年6月刊, 会員価格2,100円, ￥340円
第 49 号 21世紀を担う地質学. 新妻信明ほか編, 232pp., 1998年3月刊, 会員価格2,500円, ￥340円
第 50 号 構造地質 特別号—21世紀の構造地質学にむけて—. 狩野謙一ほか編, 263pp., 1998年7月刊, 会員価格2,500円, ￥340円
第 51 号 地震と地盤災害—1995年兵庫県南部地震の教訓—. 岡田博有ほか編, 162pp., 1998年3月刊, 会員価格3,000円, ￥340円
第 52 号 オフィオライトと付加体テクトニクス. 宮下純夫ほか編, 316pp., カラー 10pp., 1999年9月刊, 会員価格3,000円, ￥340円
第 53 号 本州弧下部地殻と珪長質マグマの生成・活動システム. 加々美寛雄ほか編, 401pp., 1999年11月刊, 会員価格3,900円, ￥450円.
第 54 号 タフォノミーと堆積過程—化石層からの情報解読—小笠原憲四郎ほか編, 197pp., 1999年12月刊, 会員価格2,900円, ￥340円.
第 55 号 デュラ紀付加体の起源と形成過程. 木村亮巳ほか編, 221pp., 2000年1月刊, 会員価格2,800円, ￥340円. (売り切れました)
第 56 号 古領家帯と黒瀬川帯の構成要素と改変過程. 高木秀雄ほか編, 253pp., 2000年3月刊, 会員価格2,900円, ￥340円.
第 57 号 碎屑岩組成と堆積・造構環境. 公文富士夫ほか編, 240pp., 2000年9月刊, 会員価格2,800円, ￥340円.
第 58 号 地震イベント堆積物—深海底から陸上までのコネクション—藤原 治ほか編, 169pp., 2004年12月刊, 会員価格2,900円, ￥340円.
第 59 号 沖積層研究の新展開 井内美郎ほか編, 212pp., 2006年5月刊, 会員価格2,400円, ￥340円.

リーフレットシリーズ

大地の動きを知ろう—地震・活断層・地震灾害— 1995年4月発行 会員価格200円 (非会員300円)

大地のいたみを感じよう—地質汚染Geo-Pollutions 1997年2月発行 会員価格 200円 (非会員300円)

大地をめぐる水—水環境と地質環境— 2001年5月発行 会員価格300円 (非会員400円)

下敷き：「干渉色図表」・「偏光顕微鏡による鉱物鑑定表」(英語版) 1枚200円 (非会員300円)

講演要旨集ほか

- 第109年学術大会講演要旨集 (2002年9月刊, 新潟) 会員価格3,500円, ￥500円
第110年学術大会講演要旨集 (2003年9月刊, 静岡) 会員価格3,500円, ￥500円
第110年見学旅行案内書 (2003年9月刊, 静岡) 会員価格1,500円, ￥350円 (静岡大会セット購入の場合送料実費請求)
第111年学術大会講演要旨集 (2004年9月刊, 千葉) 会員価格3,500円, ￥500円
第111年見学旅行案内書 (2004年9月刊, 千葉) 会員価格2,000円, ￥350円 (千葉大会セット購入の場合送料実費請求)
第112年見学旅行案内書 (2005年9月刊, 京都) 会員価格2,000円, ￥350円

フィールドノート：学会オリジナル. 12×19cm. ハードカバー. レインガード使用 会員価格1冊500円.

札幌大会予告記事

2007年日本地質学会年会は、「北からの変革—2007地質学会札幌大会—」をキヤッチフレーズに、北海道大学を中心に北海道支部の会員にご協力をいただき開催いたします。例年のとおり一般発表のほか、シンポジウム、見学旅行、普及行事として地質情報展、市民講演会などの催しが企画されています。一般発表は、各専門部会を中心に提案された22件の定番セッションと4件のトピック・セッションが準備されています。また今年も小・中・高校の地学クラブの展示発表がポスター会場で行われます。

今大会での各種の申込みおよび費用の振込み先と方法は、前回大会とほぼ同じですが、クレジットカードによる支払いが可能となりました。発表関係以外の申込みと費用振込の取扱いを近畿日本ツーリスト（株）札幌事業部に依頼しました。発表についても昨年同様、web（インターネット）上での申込みを受けます。なお、大会準備がスムーズに運ぶよう、締切日の厳守をお願いいたします。

札幌大会に関する最新情報は、学会のホームページ (<http://www.geosociety.jp/>) の「2007年札幌大会HP」に掲載されています。

1. 日 程

9月7日（金）～9日（日）：地質情報展

9月8日（土）：見学旅行、就職支援プログラム

9月9日（日）：シンポジウム、一般発表（口頭、ポスター）、表彰式・記念講演会、懇親会、同窓会、関連普及行事・市民講演会、関連普及行事・生徒「地学研究」発表会

9月10日（月）：シンポジウム、一般発表（口頭、ポスター）、部会ランチョン、夜間小集会

9月11日（火）：シンポジウム、一般発表（口頭、ポスター）、部会ランチョン、夜間小集会

9月12日（水）～14日（水）：見学旅行

2. 会 場

一般発表、シンポジウム、表彰式・記念講演会、関連普及行事・生徒「地学研究」発表会：北海道大学札幌キャンパス、高等教育機能開発総合センター（札幌市北区北17条西8丁目）

市民講演会：北海道大学札幌キャンパス理学部5号館大講義室（2-03, 3-03）（札幌市北区北10条西8丁目）

地質情報展：北海道大学札幌キャンパス、クラーク会館（札幌市北区北8条西8丁目）

なお、北海道大学札幌キャンパスの施設位置図は、北海道大学のホームページ <http://www.hokudai.ac.jp/bureau/gaiyou/2006/sapporo.html> を参照して下さい。

北海道大学札幌キャンパスまでの公共交通機関は以下の通りです（詳しくは、北海道大学のホームページ http://www.hokudai.ac.jp/footer/ft_access.html 参照）。

<JR利用の場合>

JR札幌駅北口から大学構内まで徒歩約10分です。

<地下鉄利用の場合>

地下鉄南北線の場合、北12条駅から構内まで徒歩約5分、北18条駅、さっぽろ駅から構内まで約10分です。地下鉄東豊線の場合は、さっぽろ駅または北13条駅（徒歩約15分）で下車して下さい。

<新千歳空港から>

新千歳空港からJR札幌駅までは、JRおよびバス（中央・北都交通）が運行しています。所要時間は、JR・快速エアポートで約40分、普通で約50分、バスで約1時間10分です。運賃はJRで1040円、バスで1000円（2007年4月現在）です。新千歳空港の案内、JR・バスの時刻表等については、新千歳空港のホームページ (<http://www.new-chitose-airport.jp/>) を参照して下さい。

*大学構内の駐車場は学会用には確保できません。年会へは公共交通機関を利用して下さい。

3. 学会各賞表彰式・記念講演

日程：9月9日（日）15：30～17：30

会場：北海道大学札幌キャンパス理学部5号館大講義室（2-03, 3-03）

4. 普及行事

(1) 地質情報展2007北海道－探検！熱くゆたかなぼくらの大地－

日程：9月7日（金）～9日（日）9：00～17：00（入場無料）

会場：北海道大学クラーク会館 3階展示室、大集会室、2階集会室、1階講堂

主催：産業技術総合研究所地質調査総合センター、北海道立地質研究所、日本地質学会

展示内容：地質調査総合センターなどが有する日本全国の各種地質情報の中から、特に北海道に関する様々な研究成果を、展示パネルや映像を使って紹介するとともに、小さなお子さんにも楽しく地学を学んでもらうために体験学習コーナーを用意しています。

問い合わせ先：産業技術総合研究所地質調査総合センター

谷田部信郎、吉田朋弘 TEL：029-861-3754 e-mail：g07event@m.aist.go.jp

(2) 市民講演会「地質遺産の活用でまちおこし－ジオパークの試み－」

日時：9月9日（日）13：00～15：00（入場無料）

会場：北海道大学札幌キャンパス理学部5号館大講義室（2-03, 3-03）

札幌大会実行委員会・ジオパーク設立推進委員会 共催

嵯峨山 積*（北海道立地質研究所, tsaga@gsh.pref.hokkaido.jp）・古沢 仁（札幌市博物館）・松枝大治（北大博物館）

日本地質学会はジオパーク設立推進委員会を設置し、「地質遺産の保全とその教育・普及・観光への利用が地域の振興と活性化につ

ながる」という理念に基づき、適切に地質遺産が保全・活用されるよう、各方面に働きかけています。本講演会では「ジオパーク」を取り上げ、広く豊かな北海道の自然を地質遺産として活用していく意義などを、広く市民や会員とともに考え、今後の「ジオパーク」普及の大きな弾みとしていきたいと考えています。※講演の一般公募はありません。

(3) 小さなEarth Scientistのつどい～第5回 小、中、高校生徒「地学研究」発表会～

日本地質学会地学教育委員会では、4年前から地学普及行事の一環として、地学教育の普及と振興を図ることを目的として、学校における地学研究を紹介する「地学研究」発表会をおこなっています。札幌大会でも、小・中・高等学校の地学クラブの活動、および授業の中で児童・生徒が行った研究の発表を募集いたします。札幌市周辺、また北海道内の学校、さらには全国の学校の参加をお待ちしています。会場は研究者も発表するポスター会場内に、特設コーナーを用意いたします。同時並行で研究者の発表も行われますので、児童・生徒同士のみならず、研究者との交流もできます。この会を通じて生徒、研究者、市民の交流が進み、地質学、地球科学への理解が深まって、未来を担う生徒たちの学習意欲への良い刺激と励みになることを願っております。

なお、参加証とともに、優秀な発表に対しては審査のうえ、「優秀賞」を授与いたします。

下記の要領にて参加校を募集します。

1) 日時 2007年9月9日(日) 9:00～16:00

2) 場所 日本地質学会年会ポスター会場(北海道大学)

3) 後援 北海道教育委員会・札幌市教育委員会

4) 参加対象

・小、中、高校地学クラブならびに理科クラブ等の活動成果の発表

・小、中、高校の授業における研究成果の発表

・活動、研究内容は地学的なもの(地質や気象などの地球科学・環境科学、天文など)

5) 申し込み 7月20日(金)締め切り、下記、日本地質学会 地学教育委員会あてにお申し込みください。

6) 発表形式 ポスター発表(展示パネルは幅90cm×高さ180cm程度)

パネルのほかに標本等を展示される場合には、パネルの前に机を用意します。参加申込書にその旨を記載してください。その場合は展示パネルの下側が隠れる事をご了承ください。発表者は決められた時間(および随時)パネルの前に待機し説明をしていただきます。なお、遠隔地および学校行事等のために児童・生徒が参加できない場合は、発表ポスターのみをお送りいただいても結構です。

発表の具体的な準備については、申し込み後に各校あてご連絡いたします。

7) 参加費 無料(参加者・引率者とも)、開催中の研究者の発表、講演も聴くことができます。

8) 派遣依頼 参加者・引率者については学校長宛、日本地質学会より派遣依頼状を出します。

9) 問い合わせ・申し込み先: 参加申し込みは、別紙書式(本誌p.8参照)をFAXしてください。E-mailでも結構です。

日本地質学会地学教育委員会(担当三次)

〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-8-15 井桁ビル6F

TEL:03-5823-1150 FAX:03-5823-1156 e-mail:main@geosociety.jp

5. 企業・研究機関等関係団体による展示会の出展募集_く申込締切 8月10日(金), 実行委員会扱い>

地質関係機関、企業の活躍を地質学会会員に紹介するためのパネル・展示物の展示会場を設置いたします。会社紹介、研究紹介など内容は自由に構成していただき、多くの企業、機関、団体がご参加下さるようお待ちしています。展示パネルは幅90cm×高さ200cmを単位とし、出展費は1単位あたり1万円、複数単位も可能です。ブースの場合は、間口4m×奥行2mを単位として、1ブースあたり5万円をいただきます。会場設備の都合上、電源を必要とする機器を持ち込みされる場合には、7月13日(金)迄に展示会場係にご相談下さい。この他色々なバリエーションについてもご相談に応じます。なお、本大会への協賛企業・日本地質学会賛助会員は出展料が無料です。

参加・展示の申込みは、8月10日(金)までに下記へ電話、FAX、e-mailいずれかでお願いします。

〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目 北海道大学大学院理学院自然史科学専攻地球惑星システム科学講座内

出展申込先: 2007年札幌大会実行委員会パネル・展示会場係、阿波根直一(TEL 011-706-4640, FAX 011-746-0394, e-mail: ahagon@mail.sci.hokudai.ac.jp)

6. シンポジウムについて<演題および原稿締切 オンライン: 7月3日(火) 17:00, 郵送: 6月26日(火)必着, 行事委員会扱い>

下記13件のシンポジウムを開催します。9月9日～11日の3日間(いずれも午前)，各日4-5件ずつ行いますが、原則として一般公募はありません(今回は5件で一般公募があります)。シンポジウムの講演者には、一般講演の一人1件の制約は及びませんので、別途一般講演を申し込むことは差し支えありません。なお一般公募の採択・不採択は、コンビーナによって決定されます。講演要旨原稿は、一般講演と同じ分量ですので、(5)ページの7項(5)を参照して原稿の作成をお願いします。やむを得ず郵送で講演要旨を送る場合は、一般講演の申込フォームをご利用下さい。「シンポジウム」と書き添えた上、必要事項を記入し、保証書・同意書とともに6月26日必着で行事委員会宛にお送り下さい。

●シンポジウム(13件)

1) 海底地すべり(地すべり学会共催)

川村喜一郎(深田研・kichiro@fgi.or.jp)・藤田勝代(深田研)、目代邦康(産総研)

日本は、地すべり災害を軽減させるべく、世界に先駆けて地すべり学会を発足させ、世界をリードする地すべり研究のメッカとなつた。一方、海底にも日本周辺には多くの地すべり地形が見られ、これらの海底地すべりは、海底での複雑な堆積作用の要因となるばかりでなく、津波の発生要因となることが指摘されている。さらには、海底に構造物を建設する場合に問題となると言われている。それにも関わらず、そのプロセスやメカニズムに関してはよくわかっておらず、海底地すべりの抑止や予測に関する研究は進んでいない。

国際惑星地球年（IYPE）日本委員会パンフレットにも津波災害がふれられており、全世界的に見て、海洋・陸上におけるGeohazard研究は注目されている。このシンポジウムでは、海底地すべり研究の現状を議論し、陸上地すべりで得られている知見からも海底のそれを検討する。陸上地すべり、海底地すべりに関するあらゆる発表を歓迎する。（一般公募あり）。

2) 海洋地殻・マントルの“その場研究”の進展と今後の展望：21世紀モホール計画の実現を目指して

新井田清信（北海道大）・前田仁一郎（北海道大学・jinmaeda@mail.sci.hokudai.ac.jp）・宮下純夫（新潟大）・海野 進（静岡大）・阿部なつ江（JAMSTEC）・荒井章司（金沢大）

日本のハードロック海洋底掘削の関心は、これまでどちらかというとIBMや日本海などといった日本周辺の島弧・背弧海盆系にあったように思われるが、近年、中央海嶺系の掘削にも多くの研究者が加わるようになった。また日本で建造された「ちきゅう」を用いた21世紀モホール計画が具体的に準備されるようになった今日、これまでに行われた中央海嶺系での掘削とそれに関連する成果をとりまとめて報告し、この分野の将来の検討課題や展望などを議論することは、大変意義のあることである。また、このシンポジウム開催が、21世紀モホール計画を支える我が国の研究体制作りに資することを期待する。

3) 地震探査から見た日本列島の地殻構造（日本地震学会・Seismix 2006組織委員会 協賛）

佐藤比呂志（東京大, satow@eri.u-tokyo.ac.jp）・伊藤谷生（千葉大）・岩崎貴哉・小平秀一

反射法地震探査による大陸地殻の詳細なイメージングは、大陸地殻の形成と進化の理解に重要な貢献を果たしてきた。日本列島の陸域においても、とくに兵庫県南部地震以降、大規模な地殻構造探査が実施されるようになり、地殻構造形成の成り立ちを理解する上で、重要な知見が得られつつある。本シンポジウムでは、これまで地震予知計画・科学研究費・大都市大震災軽減化特別プロジェクトなどで実施された、主として反射法地震探査による地殻構造探査の成果を紹介するとともに、地質学・岩石学的な観点から日本列島の地殻構造とその形成史について討論する。発表は招待講演とし、北海道中軸帯断面、東北日本断面、関東-近畿地域の測線群、西南日本断面、海域の沈み込み帯の構造断面についての最新成果が発表される。それぞれの断面について地質学あるいは岩石学を専門とする研究者の発表を配する。最新の地震探査断面の紹介と、多方面からの意見交換によって、日本列島の地殻構造形成史についての新たな問題を明らかにしたい。

4) 大規模カルデラ火山-構造・噴火-堆積プロセス・長期予測

及川輝樹（産総研）・下司信夫（産総研）・古川竜太（産総研）・長橋良隆（福島大）・萬年一剛（神奈川県湿地研）・三浦大助（電中研, dmiura@cripi.denken.or.jp）

2005年度放送されたBBC「Supervolcano」や、小説「死都日本」におけるカルデラ噴火の生きしい描写は記憶に新しい。最近では、専門家による特集号が組まれるなど（Huppert and Sparks (eds), 2006; 月刊地球293; 320:322），カルデラ火山活動に対する人々の耳目は高まりつつある。このようなカルデラ火山は、2007年開催地の北海道に複数認められ、地域にとっては身近な存在といえる。そこで大会では、カルデラ火山の「構造・噴火-堆積プロセス・長期予測」をシンポジウムテーマとしてとりあげる。現代社会が目撃したことがない巨大噴火の実態について、地下から地表へ、給源から遠方へ、そして過去から未来へと続く全容を理解するため、最新の地質学的成果を中心とした幅広い分野の講演を行う。

5) プレート収束境界における岩石の沈み込み・上昇テクトニクス：造山帶（変成帶）形成過程研究の新展開

竹下 徹（北海道大, torutake@mail.sci.hokudai.ac.jp）・板谷徹丸（岡山理大）・榎並正樹（名古屋大）・植田勇人（弘前大）

プレートテクトニクスの登場によって、造山帶（変成帶）は地向斜ではなくプレート収束境界で形成されることが60年代に判明して以降、造山過程の研究は今日なおエキサイティングな研究であり続けている。今日、造山帶テクトニクスの研究は、変成岩岩石学、構造地質学および放射年代学の進歩と相まって、温度-圧力-変形-時間履歴の精密な解析に基づいてテクトニクスを推論するという実証科学に成長した。一方で、造山帶形成場であるプレート収束境界の実態について、我々は今日なおその本質を十分理解しているわけではない。最近、Beaumontほか（2004）は、ヒマラヤの変成岩を対象にプレート収束境界ではチャネル流れが生じ、チャネル流れを被った岩石が変成岩として地表に露出するという数値計算を示した。本シンポジウムでは、同論文で議論されているいくつかの重要な問題を取り上げ、それらと直接関連する実際の変成帶からの新知見を各研究者が紹介し、造山過程やプレート収束境界の実態について議論することを目的とする。議論される問題は、（1）チャネル流れの深部過程：チャネル流れに巻き込まれる上部マントルとエクロジヤイトの形成・上昇、（2）変成岩の温度-圧力-変形-時間履歴の空間分布こそが造山帶テクトニクスの本質を語る、（3）変成岩の最終的上昇過程・機構を支配する上部地殻の断層形成とレオロジー、などである。（一般公募あり。3件程度）

6) 地質学の社会教育・普及へ研究者に求められるもの

里口保文（琵琶湖博物館, satoguti@lrbm.go.jp）・柴 正博（東海大自然史博）・川端清司（大阪市立自然史博）

学校での授業数や一般への地質学の普及状況は、良い状態であるとは言い難い。これまでの普及・教育に関するシンポジウムでは、所属団体の活動例や学校教育に関する問題点を整理する事から今後の活動についても検討した。今回は各研究者が所属する団体を通して、また研究者個人でできることや、学校・社会に求められているものは何か？をいくつかの事例から議論したい。

7) 内陸地震の震源下限深度における岩石-流体相互作用：地質時代のブライトレイヤーから読み解く地殻内流体の挙動

寺林 優（香川大, tera@eng.kagawa-u.ac.jp）・岡本和明（埼玉大学）・山本啓司（鹿児島大）

地震の発生と沈み込んだスラブ由来の流体との関係が、地震学的や地球化学的な観測によって注目されている。1995年兵庫県南部地震の本震の震源直下には、地震波速度が低くボアソン比が高い異常領域が存在し、流体の貯留が推定されている。それ以外にも地殻深部における流体の挙動が、内陸地震の発生やテクトニクスに大きな影響を与えていていると考えられ始めている。その流体の実体の解明における地質学の役割は大きく、地質時代の震源域、いわゆる地震の化石をフィールド科学と物質科学の両面から迫ることが求められている。本シンポジウムでは、スラブから放出された流体が、ウェッジマントルを経由して、中部地殻のブライトレイヤーで貯留され、地表に現れるまでを議論することを目的とする。（一般公募あり。2件程度）

8) 最終間氷期の環境変動-日本列島陸域と周辺海域の比較と統合-

公文富士夫（信州大）・山本正伸（北海道大）・長橋良隆（福島大）・青池 寛（JAMSTEC）

IMAGEコア試料を代表とする海洋堆積物についての高分解能の研究が進み、日本列島周辺海域の堆積物に基づいた高精度、高分解能の古気候・古海洋資料が急速に集積されている。一方、湖沼堆積物に基づいた陸域の古気候解析も大きな進展を見せており、そして、両者をつなぐ指標テフラの確認もすすみ、陸域と海域を総合的につきあわせることが可能となっている。広義の最終間氷期（MIS 5）の時代を中心に、その前後の時代を含めながら、日本列島とその周辺海域における古環境情報を統合する場として、本シンポジウムを

提案する。なお、学生会員向けの古気候変動に関する入門的な講演を挿入する予定である。(一般公募あり)

9) 遺跡形成における地質現象（北海道考古学会・低湿地遺跡研究会 共催）

松田順一郎（東大阪市鴻池新田会所管理事務所）・出穂雅実（札幌市埋蔵文化財センター・北海道考古学会）・井上智博（(財)大阪府文化財センター・低湿地遺跡研究会）・趙 哲済（(財)大阪市文化財協会）・別所秀高（東大阪市鴻池新田会所管理事務所）・小倉徹也（(財)大阪市文化財協会）・渡辺正巳（文化財調査コンサルタント（株）, info@cons-ar.co.jp）

本シンポジウムでは、考古遺跡形成過程において生じ、かつ考古学的解釈に影響を与える地質現象の事例を検討する。考古学では、発掘調査によって得られた遺構・遺物を含む特定層準の情報から、過去の人間活動を復元する。しかし、発掘調査によって掘り出された遺構・遺物とそれをとりまく地層構成物質が、遺構・遺物が機能していた当時の状態を、完全に保持していないことは明らかである。ところが、人間活動が始まる以前から現在までに遺跡領域がこうむった自然営力と人為による変容が、考古学者、地質学者に十分に理解されているとは言い難い。「環境考古学」が一般的な研究分野となった今でも、このことは遺跡独特のタフォノミーという側面で課題として残る。具体的には、地域的あるいは局地的な堆積・侵食作用、マス・ムーブメントとそれらにともなう地形発達、土壤生成にともなう物質移動や生物擾乱、火山・地震活動や気候を要因とする遺跡構成物質の変形、人間活動による自然および人為堆積物の擾乱などを地質現象とみなす。これらの地質現象が、とくに遺構、遺物の分布と層序認定、過去の地表環境の復元とどうかかわるかを本シンポジウムでの話題の中心とする。

10) 地球温暖化は悪いのか？

丸山茂徳（東工大, smaruyam@geo.titech.ac.jp）・鈴木和博（名古屋大）・酒井治孝（九州大）

近年、地球温暖化が国際社会の大きな問題としてクローズアップされ、その原因が化石燃料による二酸化炭素とされている。この問題は、日本地質学会にとって、存在価値を主張する緊急かつ重大な課題でもあり、1) 地球温暖化は人類にとって善なのか悪なのか、2) 温暖化の原因は二酸化炭素なのか、3) もっと深刻な地球化学環境、及び4) 地球環境の近未来予測、について議論すること目的としたシンポジウムを提案する。(一般公募あり。数件程度)

11) 沖積層研究の新展開－地質学と土質工学・地震防災との連携－（共催 第四紀学会、地盤工学会北海道支部（要請中）、北海道地質調査業協会（要請中））

井内美郎（早稲田大）・木村克己（産総研・k.kimura@aist.go.jp）・北田奈緒子（地質地盤環境研）・岡 孝雄（道地質研）・斎藤文紀（産総研）・田辺 晋（産総研）・卜部厚志（新潟大）

沖積層について、近年、シーケンス層序・高密度¹⁴C年代解析、GPR等の探査技術、大量のボーリングデータベースと情報処理技術などの新しい観点と研究手法に基づいて、高精度な時間・空間・堆積環境の解析が行われてきている。その中で、沖積層の堆積・地盤モデルの3次元化、構造運動やイベント堆積物の抽出、時間分解能などの手法の高度化などの研究課題がクローズアップされている。そして、学会内外からは、各地域の沖積層の対比と沖積層層序の改訂・標準化の必要性が指摘され、土壤汚染・建築地盤・地震動の高精度な評価のために、それに貢献できる精度と内容をもった地質・地盤図やデータベースの構築が求められている。本シンポでは、日本を代表する石狩平野、越後平野、大阪平野、関東平野などでの沖積層研究の最新成果や応用地質学的研究の事例をとりあげて、研究の到達点と今後の課題を整理するとともに、沖積層層序の改訂・標準化、社会に貢献できる地質・地盤図のあり方について議論する機会としたい。

12) 地質環境の将来予測と地層処分：予測科学としての地質学

吉田英一（名古屋大）・高橋正樹（日大, takama@chs.nihon-u.ac.jp）・梅田浩司（原子力機構）・岡 孝雄（道地質研）

地質環境の精度の高い将来予測はこれからサイエンスとしての地質学にとってきわめて重要な課題である。本シンポジウムでは地質環境の将来予測の可能性について議論を深めたい。特に北海道をケーススタディとして、地質環境の将来予測について、幌延における深地層研究の成果などを参考にして議論を行う。地質環境の将来予測は高レベル放射性廃棄物の地層処分にも大きな関わりを持っている。ここでは、地質環境の将来予測と地層処分との関わりについても議論する予定である。

13) 温室期の気候変動

西 弘嗣（北海道大, hnishi@mail.sci.hokudai.ac.jp）・高嶋礼詩（北海道大）

地球温暖化が進行していったとき地球の環境がどうなるのか、その未来像を求める様々な研究が行なわれている。一方、過去の地球気候の研究からは現在よりもはるかに温暖な時期がむしろ多いことが知られており、これらの時期の研究を行なえば温室地球の未来像を得ることは可能である。特に、約1億年前の白亜紀中期と約5000万年前頃（初期始新世）は、最近の地球史で最も温暖化が進んだ時期として知られている。統合深海掘削計画（IODP）でも「極限気候の解明」として、これらの時期の掘削が重要な初期科学目標としてあげられている。このような背景から、本シンポジウムでは温室期の地球環境に焦点をあて、海洋循環、深層水循環、物質循環、生物相の変化などを議論することが目的である。また、このような温室地球からどのようにして両極に氷床のある冷室の世界へと移行したのかも合わせて考察する。

7. 一般発表の募集について<演題および原稿締切 オンライン：7月3日（火）17:00, 郵送：6月26日（火）必着, 行事委員会扱い>

9月9日～9月11日の3日間（いずれも午後）での一般発表を募集します。下記の要領にて口頭、ポスター発表を募集します。できる限りオンラインでの申込みにご協力下さい。やむを得ず郵送で申込む場合は、申込フォームに必要事項を記入の上、返信用（自分宛）の官製ハガキ、保証書・同意書、講演要旨とともに6月26日必着で行事委員会宛にお送り下さい。プログラムの編成が終わり次第、発表セッションや発表日時などをe-mailで通知します（郵送の場合は返信ハガキ）。なお、発表セッションや会場・時間などのプログラム編成につきましては、各セッションの世話人の協力を得て、行事委員会が決定します。

(1) セッションについて

本年会は、9月9日（日）～9月11日（火）の3日間で一般発表を行います。専門部会の提案などにより22件の定番的セッションと、4件のトピック・セッションを設けました（p. (14)～(16) 表1参照）。

(2) 講演に関する条件

日本地質学会の会員は、口頭発表かポスター発表かのいずれかの方法で、1人1題に限り講演を行うことができます。共同発表の場合は上記の条件を講演者（=筆頭発表者）に適用します。非会員は筆頭発表者になれませんので、必ず6月26日までに入会手続きを

行って下さい。入会申込書が届いていない場合は、講演申込みは受理されません。

(3) 招待講演について

トピック・セッションに認められる招待講演は非会員のみとします。招待講演は1セッションにつき、半日あたり1講演に限ります。招待講演についても申込期日までに一般発表と同様にお申込下さい（世話人が取りまとめでオンライン入力をする事は可能です）。

(4) 講演申込上の注意

- 1) オンライン申込みは大会ホームページにアクセスし、オンライン入力のフォームに従って入力して下さい。
- 2) 講演方法については、「口頭」「ポスター発表」、「どちらでもよい」のいずれかを選択して下さい。ただし、申込締切後の変更はできません。
- 3) 発表題目、発表者氏名について、必ず登録フォームと講演要旨の両方を一致させて下さい。
- 4) 共同発表の場合は全員の姓名を完記して下さい。
- 5) 発表を希望するセッションを第2希望まで選んで下さい。
- 6) コメント欄について：発表の対象とする地域の記入を要するセッションについてはこの欄に国名・県名等を入力して下さい。また、関係する一連の発表があるときは、その順番希望などもこの欄に入力して下さい。
- 7) 口頭発表会場には液晶プロジェクターとWindowsパソコンを用意します。ただし講演申込時に、講演申込書の発表方法欄のOHPあるいはスライドをチェックされた方は、オーバーヘッドプロジェクター（OHP）あるいは35mmスライドプロジェクターを使用することができます。また液晶プロジェクターを使用される方は、緊急の場合に備え、発表用OHPを用意されることを推奨いたします。Macパソコンを使用される方は世話人とご相談下さい。

(5) 講演要旨原稿の投稿について<原稿締切 オンライン：7月3日（火）17:00、郵送：6月26日（火）必着>

例年と同様に講演要旨をAdobe社が策定したPortable Document Format (PDF) のファイルで電子投稿していただきます。一般講演およびシンポジウムの原稿はA4判1枚(p.(16)のフォーマット参照)で、印刷仕上がり0.5ページ分です。1ページに2件分ずつ印刷します。原稿はそのまま版下となり、70%程度に縮小して印刷されます。文字サイズ、字詰めおよび鮮明度には十分配慮し、PDFファイルを作成して下さい。やむを得ず郵送する場合は、オリジナルか、鮮明にコピーした現物を1枚だけ郵送（差し支えなければ折りたたみ可）して下さい。FAXやe-mailでの原稿送付は受け付けません。

8. 講演要旨原稿の倫理責任と著作権管理、引用方法、校閲について

(1) 講演要旨原稿の倫理責任と著作権管理

2003年1月から日本地質学会の出版物への投稿原稿に対して、その倫理性について著作者に保証して頂くために「保証書」に、また著作権を日本地質学会に譲渡することを同意する「著作権譲渡同意書」に、それぞれ署名捺印をして提出していただくことになりました。本大会では、電子投稿のため、画面上で「保証書」と「著作権譲渡等同意書」に同意していただいた場合に限り、電子投稿の画面に進むことができるようになっています。郵送の場合は、p.(13)の保証書及び同意書に署名捺印をして、講演要旨と共に送り下さい。「保証及び著作権譲渡等同意書」が同封されていない講演申込みは受け付けられません。

(2) 講演要旨における文献等引用方法

要旨においては引用文献の記載方法は簡略化することが慣習として認められていますが、著者名、発表年、掲載誌名などを明記し、引用文献が特定できるようにして下さい。

(3) 講演要旨の校閲

行事委員会は、申し込まれた講演について、会則第4条に示されている日本地質学会の目的ならびに日本地質学会倫理綱領に反していないかということについてのみ校閲を行います。校閲の結果、いずれかの条項に反していると判断された場合には、行事委員会は講演内容の修正を求めるか、あるいは講演申込を受理しないことがあります。行事委員会の措置に同意できない場合には、当該講演申込者は法務委員会（東京都千代田区岩本町2-8-15井桁ビル 日本地質学会事務局気付）に異議を申し立てることができます。法務委員会は直ちに審理し、結論を行事委員会ならびに異議申立者に伝えることになります。

この受理方法は、招待講演者にも適用されます。異議申立てに関する詳細は大会HPに掲載されます。

9. 発表要領

(1) 口頭発表

- 1) 講演時間は1題あたり15分（討論時間3分を含む）です。講演者は、討論など待ち時間を十分考慮し余裕を持って講演を行って下さい。
- 2) 各会場には、液晶プロジェクター、Windowsパソコンを各1台とスクリーン1幕を設置します（7. 一般発表の募集について(4)-7)を参照）。

(1) ポスター発表

- 1) 1題について1日間掲示できます。各日とも発表者はコアタイム（開催日によって異なる）にその場に立会い、説明をするものとします。設置、撤去時間等については、本誌8月号に掲載されるプログラムを御覧下さい。
- 2) ボード面積は1題あたり、縦210cm、横90cmです。
- 3) 発表番号・発表名・発表者名をポスターのタイトルとして明記して下さい。
- 4) 掲示に必要な画鋲等は、発表者がご持参下さい。
- 5) ポスター会場では、コンピューターによる発表や演示等も許可しますが、使用する機器については発表者がご準備下さい。また、電源は確保できませんので、予備のバッテリーをご用意下さい。講演申込みの際に機器使用の有無や小机の必要性をコメント欄に記入し、事前に世話人とご相談下さい。
- 6) 運営細則第11条（6）項により、優れたポスター発表に対して「日本地質学会優秀講演賞」を授与いたします。具体的な事柄については、プログラムに掲載しますのでご注目下さい。

(3) 発表者の変更

あらかじめ連記されている共同発表者内での変更は認めますが、必ず事前に行事委員会へ連絡して下さい。この場合も筆頭講演者に

については7項の(2)の条件が適用されます。

(4) 口頭発表の座長の依頼について

セッションによっては各会場の座長を参会者にお願いすることになります。あらかじめ座長依頼を差し上げることになりますが、その際にはぜひともお引き受けいただきたく、ご協力をお願いします。

10. ランチョン申込要領<申込締切 7月3日(火)必着、行事委員会扱い>

9月10日(月)、11日(火)にランチョンの開催を希望する方は、(1)集会の名称、(2)世話人氏名、(3)集会内容等、をハガキに明記して(e-mailも可)行事委員会(東京)宛に申込んで下さい。申込締切は7月3日(火)です。なお、世話人の方は、終了後集会の内容をニュース誌の大会記事用原稿としてご投稿下さい(800字以内、原稿締切10月15日)。

11. 夜間小集会の申込要領<申込締切 7月3日(火)必着、行事委員会扱い>

9月10日(月)は18:00~20:00、11日(火)は17:30~19:00(予定)です。夜間小集会の開催を希望する方は、(1)集会の名称、(2)世話人氏名、(3)集会内容(50字以内)、(4)参加予定人数、(5)OHP・液晶プロジェクターの要・不要、(6)その他特記すべきこと、をハガキに明記して(e-mailも可)、行事委員会(東京)宛に申込んで下さい。申込締切は7月3日(火)です。なお、世話人の方は、終了後集会の内容をニュース誌の大会記事用原稿としてご投稿下さい(800字以内、原稿締切10月15日)。

12. 各種申込とお支払について

(1) 申込方法

オンラインによる参加登録申込等を受けます。申込は近畿日本ツーリスト(株)札幌事業部(以下KNT)が窓口となります。大会参加登録ホームページ(HP)又はp.(21)に掲載の大会申込用紙にてお申込下さい。参加登録・見学旅行・懇親会・講演要旨集追加注文・お弁当及び割引航空券・宿泊を同時に申込可能です。

- (a) 大会登録専用HPによる申し込み: 申込フォームに必要事項を記入して送信
- (b) FAXによる申し込み: 申込用紙に必要事項を記入の上、KNT(011-280-2732)宛送信

(2) 申込受付受理

申込受付後、KNTより「受付確認書」をe-mail又はFAXにてご連絡申し上げます。その際、「登録番号」が必ず記載されております。こちらの「登録番号」はその後の問合せ、変更、取消等に必要となりますので、恐れ入りますが失念されぬようお願い致します。

(3) 申込締切

8月8日(水)18:00

(4) お支払方法

銀行振込・クレジットカード決済をお選び頂けます。申込締切後、参加者の皆様へ「予約内容確認・ご請求書」を送付致します。銀行振込ご希望の方は、請求書に記載されている振込口座へ指定期日までにお振込み下さい。クレジットカード決済希望の方は、登録申込の際必ずクレジット番号などの必要事項をご記入下さい。振込期日に合わせてご指定のクレジットカードに課金致します。カード会社よりお客様に送付される明細には学会名ではなく「近畿日本ツーリスト(株)」と表示されます。

(5) 参加証・各種クーポンの送付

振込期日後、お支払いの確認が取れている方へ順次発送致します。大会開催1週間前には参加者の皆様のお手元に届くようお送り致します。お支払いの確認が取れていない方へはご送付できませんので、皆様の振込期日厳守を何卒よろしくお願い致します。

(6) 取消に関わる返金

所定の取消料の他に返金振込料を差し引いた額を大会終了後お返し致します。クレジットカードにてお支払の場合は、ご利用頂いたカードへご返金となります。

(7) 申込後の変更・取消

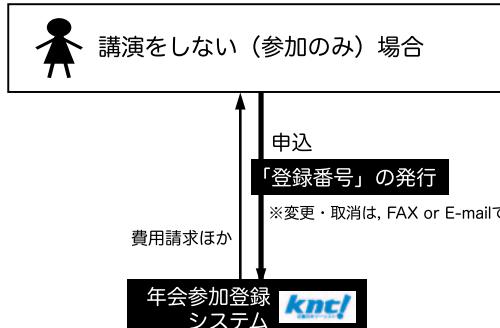
申込後に変更・取消が生じた場合は、KNT宛FAX又はe-mailにてご連絡下さい。その際申込受付時に案内される「登録番号」及び「大会名」「氏名」を必ず明記下さい。

13. 参加登録申込および参加登録費(講演要旨集付き)について<申込締切 8月8日(水)、近畿日本ツーリスト(株)扱い>

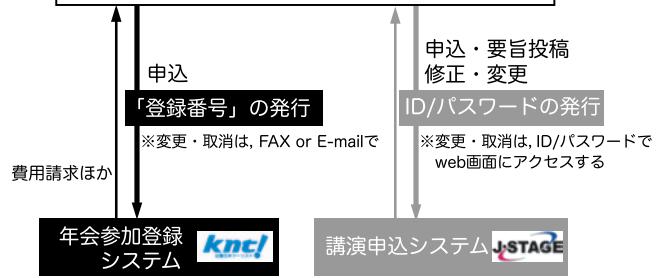
当日会場受付での混雑緩和のため、事前に参加登録申し込みをお願いします。大会参加登録およびそれに伴う参加費は、全ての参加者

<オンライン参加登録/講演申込システム>

※いずれも大会HPからアクセスできます。



講演をする場合 ※2種類の申込 (画面操作) を行う。



★両システムはそれぞれ独立しています。「登録番号」とIDは共通ではありません。

★講演申込システムは、締切日まで、画面上で自由に変更・修正が可能です。

(見学旅行のみの場合も)に必要な基本的なお申し込みです。ただし、会員が同伴する非会員の配偶者ならびに子供については必要ありません。

申し込みは、Web上もしくはp. (21)に掲載の申込用紙で一括申し込みできます。申込は、「12. 各種申し込みと費用について」を参照し、申し込んで下さい。

参加登録費（講演要旨集付です。講演要旨集が不要の場合でも割引はありません。なお、学生会員・名誉会員・50年会員・非会員学部学生の参加費には、講演要旨集は含まれません。ご希望の方は、別途ご購入下さい）

正会員：7,500円（当日払い：9,500円）

院生割引会費適用正会員：4,500円（当日払い：6,500円）

学生会員・名誉会員・50年会員・非会員学部学生：500円（当日払い：500円）

非会員（一般・院生）：12,000円（当日払い：15,000円）

*なお、大会に参加できなかった場合は、大会後に講演要旨集をお送りします。参加登録費用の返却はいたしませんのでご了承ください。
*シンポジウムの共催・協賛団体に会員として所属する方の参加登録費は学会員と同額になります。

14. 講演要旨集のみの予約頒布について＜予約締切 8月8日（水）、近畿日本ツーリスト（株）扱い＞

大会参加費には講演要旨集の代金が含まれていますので、大会に参加される場合は別途購入の必要はありません（ただし、学生会員・名誉会員・50年会員・非会員学部学生の参加費には、講演要旨集は含まれません。ご希望の方は、別途ご購入下さい）。大会に参加されない方ならびに参加する方が複数の講演要旨集を購入される場合の予約頒布です。申込は、「12. 各種申込とお支払いについて」を参照し、申し込んで下さい。要旨集の受け取り方法には、(1) 大会後に送付、(2) 会場で受取り、があります。(1) の場合は、別途送料が必要です。(2) の場合は、大会受付にて確認書の提示が必要となりますので、必ずご持参下さい。残部があれば大会当日あるいは大会後にも頒布します。売り切れの場合はご容赦下さい。

*前金予約：会員 3,000円／冊、非会員 4,000円／冊（送付の場合は下記の送料を付加して下さい。）

送料：1冊 500円、2冊 600円、3冊 800円、4冊 1,000円、5冊 1,200円

*予約外（当日販売）：会員 4,000円／冊、非会員 5,000円／冊

15. 見学旅行参加申込要領＜申込締切 8月8日（水）、近畿日本ツーリスト扱い＞

総計14コースの見学旅行（A～N班）を計画しました（p. (17)・(18) 参照）。見学旅行の参加申し込みは、「12. 各種申込とお支払いについて」を参照し、申し込んで下さい。参加希望の方は、Web申込手続き手順に従って参加申込を行ってください。FAXでのお申し込みは、p. (21)の申込用紙を用い、近畿日本ツーリスト宛に大会参加申込みと一緒に申込んで下さい。見学旅行だけに参加する場合も大会参加登録ならびに参加登録費は必要です。見学旅行と大会参加登録の申込みを合わせて行って下さい。申込締切後、近畿日本ツーリストから料金を請求いたします。

(1) 申込みに際し、希望の班が満員の場合に備え、①キャンセル待ち、②第2希望の班の指定、③他班希望なくキャンセル待ちせず、のいずれかを必ず指定して下さい。

(2) 参加申込人数が各見学コースの実施最小人数に達しなかった場合、見学旅行を中止することがありますので、早めに申込んで下さい。

(3) 非会員の方は、申込締切時点で定員に余裕があれば参加可能となりますので、あらかじめ申込んでおいて下さい。

(4) 日本地質学会ならびに同札幌大会実行委員会は見学旅行参加者に対し、見学旅行中に発生する病気、事故、傷害、死亡等に対する責任・補償を一切負いません。これらについては、見学旅行費用に含まれる保険（国内旅行傷害保険団体型）の範囲でのみまかなわれます。

(5) 子供同伴など特別な事情がある場合は、申込前に見学旅行係へあらかじめ問い合わせて下さい。

(6) 参加取消しの場合は必ずFAX又はe-mailにて近畿日本ツーリスト宛連絡して下さい。その際、大会名・氏名・登録番号・内容を必ずご記入下さい。費用送金の如何にかかわらず、申込み受付後は取消料が発生します。申込受付締切後出発の3日前までは参加費用の50%（出発の2日前以降の場合は全額）を取消料としていただきます。万一、費用の振込み後に取消しされた場合は、所定の取消料、返金振込料を除いた金額をお返しすることになりますのでご了承下さい。カードにて支払をされた方へは、カードに返金いたします。

(7) 集合・解散の場所、時刻などを変更することもありますので、大会期間中は掲示などの案内に注意して下さい。

(8) 見学旅行の解説は案内書を使って行います。参加申込時に「16. 見学旅行案内書の予約頒布について」を参照し、あらかじめ予約購入してください。

16. 見学旅行案内書の予約頒布について＜予約締切 8月8日（水）、近畿ツーリスト扱い＞

大会に参加されない方でもご購入いただけます。申込は、「12. 各種申込とお支払いについて」を参照し、申し込んで下さい。なお、見学旅行案内書は、地質学雑誌の補遺版（CD）として、12月号刊行時に会員配布されます。

案内書の受け取り方法には、(1) 大会後に送付、(2) 会場で受取り、があります。(1) の場合は、別途送料が必要です。(2) の場合は、大会受付にて確認書の提示が必要となりますので、必ずご持参下さい。大会前日（9月8日）の見学旅行参加者は旅行中に、大会後（9月12-14日）の見学旅行参加者は会場の受付にて受取って下さい。

残部があれば、大会当日あるいは大会後にも頒布します。売り切れの場合はご容赦下さい。

*価格：2400円／冊（送付の場合は下記の送料を付加して下さい。）

送料：1冊 500円、2冊 600円、3冊 800円、4冊 1,000円、5冊 1,200円

17. 懇親会参加申込要領＜申込締切 8月8日（水）、近畿日本ツーリスト（株）扱い＞

懇親会は、9月9日（日）表彰式・記念講演会終了後、北海道大学生協北部食堂で行います（18:00頃～19:30）。会費は正会員5,500円、名誉会員・院生割引会費適用正会員・学生会員および会員の家族は2,000円です。非会員の会費は会員に準じます。準備の都合上、前

金制の予約参加とします。北海道特産の料理（カニを含む）を準備して、たくさんの方々、特に院生・学生などの若手会員のご参加をお待ちしております。余裕があれば当日参加も可能ですが、予定数に達し次第〆ります。当日会費は1,000円高くなります。

予約申し込みは、「12. 各種申込とお支払いについて」を参照し、大会参加申し込みと合わせて8月8日（水）までにお申し込み下さい。当日は参加証を受付にご持参下さい。なお、参加取り消しの場合でも会費の返却はいたしませんのでご了承下さい。

18. お弁当予約販売く申込締切 8月8日（水）、近畿日本ツーリスト（株）扱い

9月9日（日）～9月11日（火）には昼食用のお弁当販売をいたします（1個700円、お茶付）。「12. 各種申込とお支払いについて」を参考し、大会参加申し込みと合わせて、8月8日（水）までにお申し込み下さい。また、お弁当利用日より9日前～前日までは50%，当日は100%のキャンセル料がかかります。

19. 同窓会く代表者申込締切 8月31日（金）、実行委員会扱い 注意：個人による事前申込は不要

今回新しい試みとして、懇親会終了後に各大学同窓会を開催します。実施要領は以下のとおりです。各大学はふるってご参加ください。

- (1) 日時・場所：9月9日（日）20:00-21:00、生協食堂南テラス（懇親会会場となり）。
- (2) 参加者は入場の際、どこの同窓会に参加するか、受付で申し出てください。
- (3) 各同窓会は、参加人数×500円（スナック・ソフトドリンク代・会場経費）を準備委員会に支払ってください。
- (4) 酒類はすべて参加者が準備して下さい。スナック、ソフトドリンク、紙コップは提供します。
- (5) 同窓会参加希望校代表者は、8月31日までに竹下（torutake@mail.sci.hokudai.ac.jp）までお申し込みください。各個人が、参加を事前に申し込む必要はありません。なお、当日は、旗や幟など学校名が遠目にもわかるものや、最近の活動を紹介するパンフレット等をご準備いただくと良いと思います。

20. 札幌駅周辺での宿泊・割引航空券の斡旋く申込締切 8月8日（水）、近畿日本ツーリスト（株）扱い

札幌駅周辺での宿泊、割引航空券の斡旋になります。詳細はp. (19) 案内をご覧になり、「12. 各種申込とお支払いについて」を参考し、お申し込み下さい。

21. 書籍販売および見本展示、機器等の展示・販売申込みく申込締切 8月10日（金）、北大生協扱い

年会開催期間中の展示・販売等は、9月9日（日）～11日（火）（会場：北海道大学）の3日間とします。問い合わせおよび申込は、8月10日（金）までに直接北大生協（下記）へお願いします。

〒060-0808 札幌市北区北8条西8丁目 北海道大学生生活協同組合

担当：印刷・情報サービス部（高橋雅治），e-mail : takahashi@coop.hokudai.ac.jp, TEL. 011-747-8886

FAX. 011-756-7971

22. 保育室の開設く利用申込締切 8月24日（金）、株式会社コティ北海道統括部扱い

乳幼児・児童を同伴する大会参加者のため、大会会期中、下記の要領で保育室を開設します。利用希望の方は要領を参考に、申し込んでください。不明な点があれば、担当者まで問い合わせください。

(1) 保育室利用要領

1) 申し込み先：株式会社 コティ 北海道統括部 担当：国田

地質学会の第114年学術大会ホームページの「各種申込」からダウンロードできる「2007年日本地質学会託児室申込書」に必要事項を記入のうえ、下記アドレス宛にe-mailまたはFAXにて送付ください。

FAX : 011-231-7202 e-mail : kunita@coty.co.jp

※大会参加登録フォームからは申し込みできませんので、ご注意ください。

2) 申し込みの際の必要事項

1. 保護者氏名：地質学会員は学会登録名にてお願いします。パートナーと一緒に学会参加される方は、パートナー氏名もあわせて連絡ください。

2. 子供の氏名、性別、生年月日

3. 利用希望時間：9月9日（日）～11日（火）の3日間について、それぞれ利用希望時間。

※保育室の利用可能時間は9:00～20:00です。

4. 緊急連絡用の携帯電話等番号

5. アレルギーの有無、その他注意事項

3) 利用にあたり、事前に健康状態等に関する問診票の記入が必要です。所定の問診票に記入のうえ、当日、保育室までお持ちください。問診票の書式は、地質学会の第114年学術大会ホームページの「各種申込」からダウンロードできます。

4) 受付締切日以降の申し込みは原則としてお受けできません。必ず受付締め切り日までにお申し込みください。保育のキャンセル・時間変更等は、9月7日（金）までに株式会社コティ北海道統括部まで連絡ください。これ以降のキャンセルについては、キャンセル料がかかる場合があります。利用当日の時間変更・延長は、原則としてできません。

5) 授乳等で部屋の使用を希望される方、上記以外の時間に保育を希望される方は、事前にご相談ください。

6) 利用申込受け取り後に確認のご連絡をさせていただきます。申込されてから3日以内（土日除く）に確認の連絡がない場合は、お手数ですが（株）コティ北海道統括部（011-231-7201）までご連絡下さい。

(2) 保育室設置要領

1) 保育室の運営は、「株式会社 コティ 北海道統括部」がお世話をいたします。

2) 設置期間：9月9日（日）～11日（火） 9:00～20:00まで。

3) 保育対象年齢は生後満2ヶ月～小学校低学年（9歳）までとなります。障害をお持ちの子供の保育は、株式会社 コティ 北海道統括部（担当：国田）までお問い合わせください。学校法定伝染病などの場合には託児をお断りいたします。

- 4) 保育室：大会会場となる北海道大学高等教育センターの一室を使用します。部屋番号等が決定しだい、株式会社コティより利用希望者へ連絡いたします。大会受付にも保育室の場所等の情報を掲示する予定です。床にはパズルマットを敷き詰め、午睡用の寝具(布団、ベビーベッド等)、遊具を用意します。トイレは保育室の近くにあります。
※札幌コンベンションセンターには託児所はありませんので、ご注意願います。
- 5) 利用料金は一時間あたり800円程度（1名利用の場合）を予定しておりますが、年齢・利用者数により変動する場合があります。利用料金は、利用当日に保育室のシッターに、現金にて直接お支払いください。クレジットカード・銀行振込によるお支払いは受け付けておりません。
- 6) 上記の料金には、傷害保険料が含まれております。
- 7) 保育利用者数に応じてシッターの配置数を決定しますので、利用希望の方は必ず事前に申し込みください。
- 8) 病気・事故：日本地質学会ならびに北海道大会準備委員会は、保育時における病気・事故等に対する責任を一切負いません。保護者の責任において対応ください。事故の補償は、株式会社コティが加入する保険（ベビーシッター総合補償制度：対人賠償1事故最高5億円（1名あたり上限1億円）、対物賠償1事故最高500万円）の範囲でまかなければなりません。万が一事故が起きた場合は、その損害額は上記保険にて補填される限度とすることをご承諾ください。当該補填額を超える損害等については責任を負いかねますので、ご了承願います。
- (3) 保育室担当者**
- 1) 日本地質学会北海道大会準備委員会
担当：廣瀬 亘
〒060-0819 札幌市北区北19条西12丁目 北海道立地質研究所地域地質部
TEL: 011-747-2446 (直通) FAX: 011-700-5033 e-mail: wathiro@gsh.pref.hokkaido.jp
 - 2) 保育室運営・利用申し込み・問い合わせ先：
株式会社 コティ 北海道統括部 担当：国田
〒060-0003 札幌市中央区北3条西2丁目 MID北3条ビル7F
TEL: 011-231-7201 FAX: 011-231-7202 フリーダイヤル0120-552-415 (月～金 9:00-18:00) e-mail: kunita@coty.co.jp

なお、託児当日の手続きや持ち物などについての詳細は、大会ホームページにてご確認下さい。

23. 実行委員会組織

諸連絡の代表窓口は大会実行委員会事務局長の竹下 徹 (TEL 011-706-4636, FAX 011-746-0394, e-mail : torutake@mail.sci.hokudai.ac.jp) です。また、内容によって、それぞれ担当が決まっていますので、下記の中で該当する係（代表者）に直接ご連絡下さい。複数で担当の場合、＊印が代表者です。下記氏名の次のカッコ内は、各係の連絡先（TEL, e-mail）を示しています。委員の所属が特に記入されていない場合は、北海道大学の所属です。電話番号の市外局番は、明記されていないものは011です。

実行委員会

委員長：岡田尚武 (706-3537, okavp@general.hokudai.ac.jp)
事務局長：竹下 徹 (706-4636, torutake@mail.sci.hokudai.ac.jp)
委員：鈴木徳行・宮坂省吾（株式会社アイピー）・都郷義寛（北海道教育大岩見沢校）・雁沢好博（北海道教育大函館校）・池田保夫（北海道教育大釧路校）・和田恵治（北海道教育大旭川校）・後藤芳彦（室蘭工業大）・前田寛之（北見工業大）・石井正之（明治コンサルタント）
総務：西 弘嗣* (706-3538, hnishi@mail.sci.hokudai.ac.jp)・前田仁一郎 (706-4639, jinmaeda@mail.sci.hokudai.ac.jp)・吉本充宏 (706-2723, m-yoshi@mail.sci.hokudai.ac.jp)
会計：川村信人* (706-3424, mkawa@mail.sci.hokudai.ac.jp)
プログラム：中川光弘* (706-3520, mnakagawa@mail.sci.hokudai.ac.jp)・岡 孝雄 (747-2440, takao@gsh.pref.hokkaido.jp 道立地質研)
会場：阿波根直一* (706-4640, ahagon@mail.sci.hokudai.ac.jp)・中川 充 (857-8454, nakagawa.gsj@aist.go.jp 産総研)・岡村 聰 (778-0386, okamura@sap.hokkyodai.ac.jp 北海道教育大札幌校)
機器：渡邊 剛* (706-4637, nabe@mail.sci.hokudai.ac.jp)
見学旅行：新井田清信* (706-2729, kiyo@mail.sci.hokudai.ac.jp)・川上源太郎 (747-2447, kawakami@gsh.pref.hokkaido.jp 道立地質研)
懇親会：西 弘嗣* (706-3538, hnishi@mail.sci.hokudai.ac.jp)・入野智久 (706-2226, irino@ees.hokudai.ac.jp)
普及・企画（市民講演会）：嵯峨山 積* (0134-24-3829, tsag@gsh.pref.hokkaido.jp 道立地質研)・古沢 仁 (200-5002, hitoshi.furusawa@city.sapporo.jp 札幌市博)・松枝大治 (706-2754, matsueda@museum.hokudai.ac.jp 北大博)
ポスター：沢田 健* (706-2733, sawadak@ep.sci.hokudai.ac.jp)・山本正伸 (706-2379, myama@ees.hokudai.ac.jp)
広報・ホームページ：沢田 健* (706-2733, sawadak@ep.sci.hokudai.ac.jp)
展示会場：北海道大学生活協同組合、担当：印刷・情報サービス部（高橋雅治）, (TEL 747-8886, FAX. 011-756-7971, takahashi@coop.hokudai.ac.jp)
涉外：吉本充宏 (706-2723, m-yoshi@mail.sci.hokudai.ac.jp)
宿泊・交通：近畿日本ツーリスト（株）札幌事業部 日本地質学会札幌大会 受付担当デスク (TEL 280-8855, FAX 280-2732, hkd-ec@or.knt.co.jp)
保育室：廣瀬 亘 (747-2446, wathiro@gsh.pref.hokkaido.jp 北海道立地質研究所)・コティ（株）北海道統括部 担当：国田 (231-7201, kunita@coty.co.jp)
生徒「地学研究」発表会担当：岡村 聰 (778-0386, okamura@sap.hokkyodai.ac.jp 北海道教育大札幌校)・岡本 研 (631-4405, fossil@hokkaido-c.ed.jp 北海道立理科教育センター)
地質情報展担当：中川 充 (857-8454, nakagawa.gsj@aist.go.jp 産総研)・田近 淳 (747-2442, jun@gsh.pref.hokkaido.jp 道立地質研)

24. 申込み先と締切日<締切日厳守>

(1) 行事委員会（東京）に申込むもの

- 1) 一般講演 郵送 6月26日（火）必着、オンライン 7月3日（火）17:00
- 2) 講演要旨原稿提出 郵送 6月26日（火）必着、オンライン 7月3日（火）17:00
- 3) ランチョン・夜間小集会 7月3日（火）

(2) 実行委員会（北海道大）に申込むもの

- 1) 賛助会員・企業等団体展示会（係代表者へ） 8月10日（金）
- 2) 各大学同窓会（各大学代表者が竹下へ） 8月31日（金）

(3) 地学教育委員会（東京）に申込むもの

- 1) 小さなEarth Scientistのつどい 7月20日（金）

(4) 近畿日本ツーリスト（株）札幌事業部に申込むもの（web申込・申込書を郵送またはFAX）

- 1) 見学旅行・見学旅行案内書 8月8日（水）18:00
- 2) 宿泊・交通 8月8日（水）
- 3) 大会参加（参加登録費・講演要旨集代の支払い） 8月8日（水）18:00
- 4) 講演要旨集頒布（大会に参加しない方および複数購入用） 8月8日（水）18:00
- 5) 懇親会・弁当 8月8日（水）18:00

(5) 北大生協に申し込みもの

- 1) 書籍販売および見本展示、機器等の展示・販売申込み 8月10日（金）

(6) コティ（株）に申し込みもの

- 1) 保育室利用 8月24日（金）

日本地質学会行事委員会／地学教育委員会

〒101-0032 東京都千代田区岩本町2丁目8-15 井桁ビル6F
TEL 03-5823-1150,

FAX 03-5823-1156

e-mail : main@geosociety.jp

大会HP : <http://www.geosociety.jp/2006kochi/kochi-index.html>

日本地質学会第114年年会（札幌大会）実行委員会

北海道大学理学院自然史科学専攻地球惑星システム科学講座気付
〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目

TEL 011-706-4636（竹下）

FAX 011-746-0394（講座事務室）

e-mail : torutake@mail.sci.hokudai.ac.jp

近畿日本ツーリスト（株）札幌事業部

日本地質学会札幌大会 受付担当デスク

〒060-0003 札幌市中央区北3条西1丁目1-1 札幌パナソニックビル4F

e-mail : hkd-ec@or.knt.co.jp

TEL 011-280-8855

FAX 011-280-2732

営業時間：（月～金）9:00～17:45

（営業時間終了以降のお申込み・変更・取消は翌日扱いとなります）

変更・取消のご連絡はFAX又はe-mailにてご連絡下さい。

お電話でのご連絡はお受け致しかねますので、ご協力よろしくお願い致します。

講演要旨の作成・投稿の注意点とPDFファイルの作り方

講演要旨を作成する際、著者には「保証及び著作権譲渡同意書」第1項の「保証」内容内容を守って頂きます。行事委員会は、要旨の内容については閲知しませんが、当該「保証」内容を逸脱するものがなければ校閲します。その結果、不適切とみなされる場合は、修正されるまで講演要旨の受理はされません（不服の場合は法務委員会に訴えることが可能です）。

例年最も多い問題点は、引用文献の表示がない場合です。論文のように細かに引用文献を記載することはスペースの都合上不可能なので必要としませんが、雑誌名、号、ページ等、その文献にたどり着ける最低限の情報は記載して下さい。

また、要旨の体裁を無視している場合、印刷できませんので体裁を整えて頂くことになります。さらに図等の改変については、著作権法、地質学会著作物取り扱い規程等に従って下さい。

このほか、修正しないと即不受理とはなりませんが、PDFファイルにフォントを埋め込んでいないもの（印刷時にずれることができます）、要旨作成時に講演番号のスペースがなかったり、余白に無理があるといった場合、体裁を整えるため修正をお願いしています。

これらの問題点があった場合、各コンビーナから投稿締め切り日から1週間をめどに修正依頼が届きます。ただ、その労力はセッションによっては膨大になりますので、最初から著者で完全なものを投稿するようご協力下さい。あわせて講演要旨投稿手順のチェックシートもご参照下さい。

【講演要旨PDFファイル作成のコツ】

1. 講演要旨原稿はAdobe Acrobat Reader 4.0以上で表示・印刷可能なPDFファイルで投稿することが必要です。
2. ファイルサイズは3.0Mバイト以内で作成して下さい。
3. 発表（講演）番号は事務局にて左上に付記するので原稿内には記載しないで下さい。
4. PDFファイルのセキュリティ設定は「なし」にして下さい。
5. フォントは必ず「埋め込み」にして下さい。MacOSX以上は標準でフォント埋め込みが用意されます。MacOS9.2.2以下、Windowsでは下記のソフトが必要です。その際、「すべてのフォント埋め込み」、ないし「ハイクオリティー」等、それぞれのソフトの使用説明書に従った指定を必ずして下さい。文字数にもよりますが、**できたPDFファイルのサイズが100KB未満の場合、フォントが埋め込まれなかつた可能性がありますので確認して下さい。**
6. 作ったPDFファイルを自分で印刷し、図表に充分な解像度があるか、文字化けはないか確認して下さい。
7. PDFファイルを自分のパソコンに、必ず「.pdf」の拡張子をつけて保存して下さい（Mac、Windowsとも）。PDFファイル以外は、アップロードできません。

【講演要旨の投稿：画面操作方法】

大会参加申し込みも昨年よりオンライン化されましたので、大会参加

申し込みのあと、そこからリンクのはられている、講演申し込み画面から、講演申し込みの手続きをします。操作が完了すると、ログイン用のIDが表示された完了画面ができます（参加申込と講演申込のIDは異なりますのでご注意下さい。パスワードは任意で設定できます）。あわせて、講演申込者には、メールアドレスに「講演申込のお知らせ」のメールが配信されます。

申込後は、IDと申込時に自分で設定したパスワードを用いてご自分の申込画面にアクセスし、締切まで、自由に内容の修正・変更ができます。申込手続きを先に行い、後日講演要旨を投稿する事もできます。

講演要旨を投稿する際は、申込画面の最下段の「ファイルを選択」ボタンをクリックし、ご自分のパソコンに保存されている講演要旨PDFファイルを選択します。これにより講演申し込みサーバーにPDFファイルがアップロードされます。要旨原稿も締切まで、自由修正・変更ができます。

講演申込の修正・変更の際は、その都度「講演申込内容変更のお知らせ」のメールが配信されます。また変更履歴は、申込画面下方に一覧としてすべて表示されます。

【参考情報：PDF（Portable Document Format）ファイルの作り方】

PDFファイルの作成方法は「PDF原稿作成ガイド」<http://www.gakkai-web.net/pdf/>を参考にすると良いでしょう。

ソフトの紹介希望が多いので、下記にいくつか参考例を挙げます。また、「PDF作成サービス」を行う有料、無料のサイトがあります。ソフト、サイトとも検索してみて下さい。

なお下記について動作確認等しておりません。また推奨するものではありません。使用は自己責任でお願いします。

Mac OSX以上の場合

フォント埋め込み型のPDF作成機能が標準で用意されています。新たなソフトは必要ありません。

Mac OS 8.6-9.2の場合

Adobe Acrobat（それぞれのOS対応品、現在販売されているか不明）EGWORD Ver.12 for Mac OS X/9/8.6（現在販売されているか不明）

Windows対応品

PrimoPDF FreeのPDF変換ソフト <http://www.primopdf.com/>

XelopDF FreeのPDF変換ソフト

<http://xelo.jp/xelopdf/>（有料ソフトあり）

いきなりPDF 2000円弱

<http://www.sourcenext.com/products/pdf/>

Adobe Acrobat Elements 5000円弱 <http://www.adobe.co.jp/>

MacOS9.2.2、MacOSX、Windows対応

Adobe Illustrator <http://www.adobe.co.jp/>

Kacis マイノート

<http://www.e-frontier.co.jp/products/documents/kacis/mynote2/>

講演要旨オンライン投稿手順チェックシート

講演要旨の投稿手順および基本的注意事項です。投稿していただく前に各自でご確認下さい。

1. Word等のソフトで講演要旨原稿を作成します。

- 「保証及び著作権譲渡同意書」第1項の「保証」内容は守られていますか？
- 引用文献は表示されていますか？
- 要旨の体裁は守られていますか？（詳細は、p. (12) の原稿フォーマットをご確認下さい）

2. 原稿をPDFファイルにします。

PDFファイルの作成方法については、前頁の「PDFファイルの作り方」を参照して下さい。

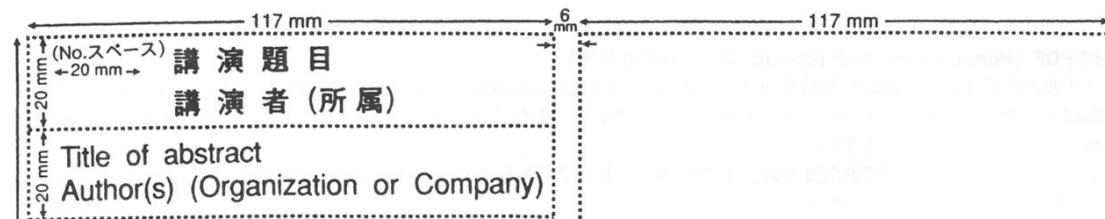
- フォントは「埋め込み」になっていますか？（できたファイルサイズが100KB未満の場合、フォントが埋め込まれなかった可能性がありますので確認して下さい）
- ファイルサイズは3.0MB以内になっていますか？
- 作成したPDFファイルを印刷し、図表に充分な解像度があるか、文字化けはないか確認して下さい。また、PDFファイルを自分のパソコンに、必ず.pdfの拡張子をつけて保存して下さい。

3. 原稿をオンライン投稿します。

- web画面から参加申し込みを行いましたか？
- 講演申し込みページで、講演申し込みの手続きをしましたか？
- 講演要旨（PDFファイル）をアップロードしましたか？
- 申込完了画面が表示されましたか（ログイン用のIDが表示されましたか）？
- 「講演申込のお知らせ」のメールが配信されましたか？

4. 一度投稿した原稿を修正したい場合

- ご自分の申込画面に、IDと申込時に設定したパスワードを用いてアクセスします。
- 画面中のPDFファイルのアイコンをクリックし、要旨原稿投稿画面を開きます。書き直した要旨のファイル選択し、投稿動作をします。
- 修正原稿が受け付けられると、「申込内容変更のお知らせ」メールが配信されます。（締切まで何度でも修正できます）。



講演要旨原稿フォーマット

(A4用紙 横置き 2段組)

1. 一般講演要旨原稿は、図表を含め1枚で、刷り上がりは0.5ページです。
2. 原稿構成は、A4用紙を横置きにし、左右2段組み、おおよその寸法は点線枠で示したとおりです。
左右別々にプリントアウトして、貼り合せた原稿でもよいです。
3. 字数は講演題目、講演者等の記入欄を除く、10ポイントの大きさで横33文字、左右合わせて約57行
約1900文字入ります。
4. 貼り付け原稿の場合は、化学糊を用い、セロテープは使用しないで下さい。
5. 印刷は原稿をそのまま版下にする、ダイレクト印刷です。写真やコンピューターで描いた絵は、
鮮明度が落ちますので予めご了承下さい。

<郵送の場合は原稿に必ず添付して下さい>

保証及び著作権譲渡等同意書

著作者（代表者）は、日本地質学会によって発行される第114年学術大会「講演要旨」・「見学旅行案内書」に掲載する下記表題の原稿（以下「本原稿」という。）について、以下のとおり保証し、かつ著作権を譲渡等いたします。

第1 保証

著作者は、本原稿について、以下の各号記載の事項を保証し、確約します。

- 1) 本原稿が著作者自身の著作物であり、既にいずれかで出版公表されているものと同一ではないこと。
- 2) 本原稿が既存の出版公表物などに対する知的財産権のいかなる侵害も含まないこと。
- 3) 本原稿中に他から転載されているすべての図表について、転載許可を得ていること。
- 4) 本原稿中、他の論文等の引用がある場合には、当該引用が公正な慣行に合致し、目的上正当な範囲内であること。
- 5) 本原稿には、日本地質学会の名誉を傷つけ、その信用を毀損する盗用データ、捏造データ、その他学会の倫理綱領に反するものを含まないこと。
- 6) 本原稿が共同著作物である場合には、代表して本書に署名捺印する者が、すべての共著者から、本書に署名捺印することについて同意ないし必要な権利を得ていること。
- 7) 本原稿についての問い合わせ、苦情、紛争などが発生した場合、署名者はすべての責任を負うこと。

第2 著作権譲渡等

著作者は、本原稿について、以下の各号記載に同意します。

- 1) 本原稿のすべての著作財産権（著作権法27条、同29条に定める権利を含む）を日本地質学会へ譲渡すること。
- 2) 本原稿について、日本地質学会ならびに日本地質学会から正当に権利を取得した第3者及び当該第3者から権利を承継した者に対し、著作人格権（公表権、氏名表示権、同一性保持権）を行使しないこと
- 3) 本原稿の下記の各利用形態に関する権利を日本地質学会が排他的に行使すること。
 - a) 複製、翻訳、翻案（出版、電子出版、翻訳出版、データベース化、ビデオグラム化、その他すべての記録メディアへの記録・掲載などを含む）
 - b) 展示・上映
 - c) 放送、有線放送、自動公衆送信（地上波、CATV放送衛星、通信衛星、インターネット、パソコン通信、その他あらゆる送信媒体及び将来開発されるすべての送信媒体による公衆送信を含む）
 - d) 頒布、譲渡、貸与
 - e) その他、本著作物に関する一切の利用（技術の進歩により将来生じうる利用形態を含む）

以上

日付 2007年 月 日

本原稿表題

著作者（代表者） 印

署名者が代表する共著者すべての氏名

行事委員会記入

講演番号 O / P / S -

表1. セッション一覧

- ・セッションテーマ、(提案部会名) (地域名等特記事項), 世話人 (*印責任者), 趣旨の順に掲載.
- ・特に断りのないセッションは口頭とポスターの両方を募集します.
- ・提案部会に関わりなく, 会員はいずれのセッションにも応募できます. ただし, 応募は口頭かポスターのいずれか1件に限ります.
- ・「地域名必要」の記載があるセッションは, 申込書に研究対象の地域名を記入してください.
- ・口頭発表会場には液晶プロジェクターとWindowsパソコンを用意します. ただし講演申込時に, OHPあるいはスライドを申し込まれた方は, OHPあるいは35mmスライドプロジェクターを使用することができます. また液晶プロジェクターを使用される方は, 緊急の場合に備え, 発表用OHPを用意されることを推奨いたします. Macパソコンを使用される方は世話人とご相談下さい.

【トピックセッション：4件】

1. 地球史とイベント大事件3：地球の変化に迫る。

清川昌一* (九州大・kiyokawa@geo.kyushu-u.ac.jp)・山口耕生・黒田潤一郎・小宮 剛

地球史を考えるとき, 地球は数々の事件を経験しながら現在に至っている. それらの事件はどのようなもので, またそれに対した地球の姿を知ることは, 地球の未来に向かっての大きな礎になる. 最新の調査に基づいた地球史のイベントに迫る.

2. ジュラ系+

松岡 篤* (新潟大学・matsuoka@geo.sc.niigata-u.ac.jp)・八尾 昭・小松俊文・近藤康生・堀 利栄・尾上哲治

2002年の新潟大会プレシンポジウム以降, 每年開催しているトピックセッション「ジュラ系+」の成果を踏まえ, ジュラ系および隣接する地質系統の研究に関する到達点を共有するとともに, わが国がジュラ系研究の拠点となることを目指す. ジュラ系のいくつかの階についてはGSSPの決定が最終段階にある. 2008年8月にはノルウェーでIGCが開催される. IGCに向けて新たな地質年代尺の構築も進んでいる. このような国際的な動きに対して, アジアから何が発信できるのか議論したい.

3. 新しいカルデラ像を探る

古川竜太* (産総研・furukawa-r@aist.go.jp) 及川輝樹・下司信夫・長橋良隆・萬年一剛・三浦大助

最近高まりつつあるカルデラ研究において地質学に期待される役割はきわめて大きい. そこでカルデラや大規模火成活動に関する地質学的, 防災学的側面からの発表を募集する. なお, 本セッションはシンポジウム「大規模カルデラ火山」の一般募集セッションとして位置づける.

4. 東南アジアの地殻形成史とテクトニクス：地質学・岩石学からのアプローチ

小山内康人・久田健一郎・上野勝美・小嶋 智・大和田正明* (山口大・owada@sci.yamaguchi-u.ac.jp)

アジア大陸の形成過程に関する地質情報は近年急速に増え, 微小大陸の衝突による古生代末から中生代初期にかけてのテクトニクスに関する理解が進んできた. 特に付加体地質学を基盤とする地殻浅所と変成・火成作用の解析による深部地殻の形成に関するデータの蓄積によって大陸形成過程のテクトニクス像が具体的に議論される段階に入った. このような背景のもとに本セッションでは, 微化石データや数値年代データを含め, 地質学・岩石学分野の研究者が東南アジア（ヒマラヤ, 極東ロシアを含む）の地質をテーマとして, 地殻の浅所から深部にかけての包括的な地殻形成テクトニクスについて議論する.

【定番セッション：22件】

5. 地域地質・地域層序 (地域地質部会・層序部会) (地域名必要) (スライドプロジェクター不可)

吉川敏之 (産総研・t-yoshikawa@aist.go.jp)・岡田 誠 (茨城大)・斎藤 真 (産総研)

国内, 海外問わず各地域に関係した地質や層序の発表を広く募集. 地域的な年代, 化学分析, リモセン, 活構造, 応用地質等の発表も歓迎. 地質災害地の地質, 惑星地質もここに含まれる. 地域を軸にした討論を期待する. 地質図や断面図のポスター発表を特に歓迎.

6. 地域間層序対比と年代層序スケール (層序部会) (地域名不要) (スライドプロジェクター不可)

里口保文 (琵琶湖博物館・satoguti@lmb.go.jp)・岡田 誠 (茨城大)

テフラ等の鍵層を用いて異なる地域間の層序対比に主体をおく研究や, 鍵層そのものを主体とした研究, または複合的層序学等によるグローバルな年代層序スケールの構築に寄与するような研究についての講演を歓迎します.

7. 海洋地質 (海洋地質部会) (地域名必要) (スライドプロジェクター不可)

片山 肇* (産総研・katayama-h@aist.go.jp)・藤岡換太郎 (JAMSTEC)・芦 寿一郎 (東大海洋研)・小原泰彦 (海上保安庁)

海洋地質に関連する分野（海域の地質・テクトニクス・堆積学・海洋学・古環境学・陸域地質での海洋環境変遷研究など）の研究発表を募集する. 調査速報・アイデアの公表・海底地形地質・画像データなどのポスター発表も歓迎する.

8. 碎屑物組成・組織と統成作用 (堆積地質部会) (地域名必要) (スライドプロジェクター不可)

野田 篤* (産総研・a.noda@aist.go.jp)・太田 亨 (早稲田大)

碎屑物を構成する個々の粒子の特性（形態や化学組成）から碎屑物（岩）の組織・組成を対象とし, 碎屑物（岩）の形成・統成過程の復元, 後背地や古環境, 地質体の発達史を議論する. データ解析手法, 現世碎屑物の組成, 初期統成過程についての発表も歓迎する.

9. 炭酸塩岩の起源と地球環境 (堆積地質部会) (地域名必要) (スライドプロジェクター不可)

井川敏恵* (産総研・toshi-igawa@aist.go.jp)・川合達也 (広島大)

炭酸塩岩・炭酸塩堆積物の堆積作用, 組織, 構造, 層序, 岩相, 生物相, 地球化学, 統成作用, ドロマイド化作用など, 炭酸塩に関する広範な研究発表を募集する. また, 現世炭酸塩の堆積作用・発達様式, 地球化学, 生物・生態学的な視点からの研究発表も歓迎する.

10. 堆積相と堆積システム・シーケンス (堆積地質部会) (地域名必要) (スライドプロジェクター不可)

廣木義久* (大阪教育大・hiroki@cc.osaka-kyoiku.ac.jp)・中条武司 (大阪市立自然史博物館)

各堆積環境における堆積相の形成過程と認定, 各堆積相の分類・記載, その時空分布をもとにした堆積システムの認定や解釈などを扱う. また, 堆積相解析を基礎にした堆積システム変遷の解析およびシーケンス層序学など, 地層の形成過程のダイナミックな復元に関連する研究発表と議論を行う.

11. 堆積作用・堆積過程（現行地質過程部会・堆積地質部会）（地域名必要）（スライドプロジェクター不可）

小松原純子*（産総研・j.komatsubara@aist.go.jp）・七山 太（産総研）

堆積作用や堆積過程に関して、実験・シミュレーション・現地観測および地層観察などに基づいた研究を募る。特定の地域や年代を超えて適応可能な新しい解析手法や多方面からのアプローチによる堆積関連の研究も募集する。

12. 石油・石炭地質学と有機地球化学（石油・石炭関係・堆積地質部会）（地域名必要）（スライドプロジェクター不可）

武田信徳*（石油資源開発・nobuyori.takeda@japex.co.jp）・金子信行（産総研）

国内外の石油・石炭地質および有機地球化学に関する講演を集め、石油・天然ガス・石炭鉱床の成因・産状・探査手法など、特にト ラップ構造、堆積盆、堆積環境、貯留岩、根源岩、石油システム、資源量、炭化度などについて討論する。

13. 岩石・鉱物の破壊と変形（構造地質部会）（地域名不要）（スライドプロジェクター不可）

西川 治*（秋田大・nisikawa@lfp03.mine.akita-u.ac.jp）・河野義生（愛媛大）

断層岩を含む岩石・鉱物の破壊および変形機構、変形微細構造、岩石・鉱物のレオロジーや物性に関する研究を募る。観察・観測・分析・実験・理論など多方面からのアプローチによる成果を歓迎するとともに、会場での活発な議論を期待する。

14. 付加体（構造地質部会）（地域名必要）（スライドプロジェクター不可）

橋本善孝*（高知大・hassy@cc.kochi-u.ac.jp）・坂口有人（JAMSTEC）

現世、過去を問わず、付加体に関するすべての講演を歓迎する。付加体の形成機構、形成史、微細構造、流体移動、シュードタキラ イト、温度圧力構造など、様々なアプローチによる成果をもとに議論する。

15. テクトニクス（構造地質部会）（地域名必要）（スライドプロジェクター不可）

丹羽正和*（日本原子力研究開発機構・niwa.masakazu@jaea.go.jp）・大坪 誠（産総研）

地球科学の多方面から、大小様々なスケールの地質構造の成因や形成機構・発達史に関する講演を広く募集する。

16. ノンテクトニック構造（応用地質部会・構造地質部会）

柏木健司*（富山大・kasiwagi@sci.u-toyama.ac.jp）、永田秀尚（風水土）

テクトニックではない構造（例：堆積物の未固結時変形やラングスライド・地震などによる一過性の構造、重力性の構造その他）の記載・解析・テクトニック構造との区別や比較・応用を議論する。最新の話題として、能登半島地震などを対象としたノンテクトニッ ク構造の調査結果も歓迎する。時代・時間やスケールを問わないので、さまざまな分野からの参加を期待する。

17. 古生物（古生物部会）（地域名不要）（スライドプロジェクター不可）

北村晃寿*（静岡大・seakita@ipc.shizuoka.ac.jp）・太田泰弘（北九州博）・三枝春生（兵庫県立人と自然の博）・須藤 斎（名古屋大）古生物に関する、または関連する研究の発表・討論を行う。

18. 噴火と火山発達史（火山部会）（地域名不要）（スライドプロジェクター不可）

廣瀬 倉*（道立地質研・wathiro@gsh.pref.hokkaido.jp）、宮坂瑞穂（北大）

マグマや熱水性流体の上昇過程、噴火様式、噴火経緯、噴出物の移動・運搬・堆積、特定火山あるいは火山地域の発達史、火山活動とテクトニクス、およびその他火山地質やモデル化に関する幅広い視点からの議論を期待する。

19. 深成岩・火山岩とマグマプロセス（火山部会・岩石部会共催）（地域名不要）（スライドプロジェクター不可）

岡村 聰*（北海道教育大札幌・okamura@sap.hokkyodai.ac.jp）、和田恵治（北海道教育大旭川）

深成岩および火山岩を対象に、マグマプロセスにアプローチした研究発表を広く募集する。発生から定置・固結に至るまでのマグマ の物理・化学的挙動や、テクトニクスとの相互作用について、野外地質学・岩石学・地球化学・年代学など様々な視点からの活発な議 論を期待する。

20. 変成岩とテクトニクス（岩石部会）（地域名不要）（スライドプロジェクター不可）

柴 正敏*（弘前大・shibamas@cc.hirosaki-u.ac.jp）、鈴木圭太郎（富山大）

国内および世界各地の変成岩を主な対象に、記載的事項から実験的・理論的考察まで、またマイクロスケールから大規模テクトニクスまで、あらゆる地球科学的分野を網羅して、様々な視点に立った斬新な話題提供と活発な議論を期待する。

21. 岩石・鉱物一般（岩石部会）（地域名不要）（スライドプロジェクター不可）

池田保夫*（北海道教育大釧路・ikeda@kus.hokkyodai.ac.jp）、中川 充（産総研）

岩石学、鉱物学、鉱床学、地球化学などの分野をはじめとして、地球・惑星物質科学全般にわたる岩石及び鉱物に関する研究発表を 広く募集する。地球構成物質についての多様な研究成果の発表の場となることを期待する。

22. 情報地質（情報地質部会）（地域名不要）ボスターセッションのみ、口頭講演なし

坂本正徳（国学院大・cigma@kokugakuin.ac.jp）

地質情報の数理解析、統計解析、データ処理、画像処理などの理論、応用、システム開発、利用技術など、最近の情報地質分野の研 究結果を対象とする。また、これらの成果の地質学の広い分野への応用・普及なども歓迎する。

23. 環境地質（環境地質部会）（スライドプロジェクター不可）

難波謙二（福島大）・風岡 修（千葉環境研）・三田村宗樹（大阪市大）・田村嘉之*（千葉環境財団・tamura-yoshiyuki@pop07.odn. ne.jp）

医療地質、地盤沈下、湧水、水資源、湖沼・河川、都市環境問題、法地質学、環境教育、地震動、液状化・流動化、地震災害、岩盤 崩落など、環境地質に関係する全ての研究の発表・討論を行う。

24. 応用地質学一般（応用地質部会）（地域名不要）（スライドプロジェクター不可）

上野将司*（応用地質（株）・ueno-shouji@oyonet.oyo.co.jp）・横田修一郎（島根大）

種々の地質ハザードの実態、調査、解析、災害予測、ハザードマップの事例・構築方法、土木構造物の設計・施工・維持管理に関する調査、解析など、応用地質学的視点に立った幅広い地質学研究について発表・討論を行う。

25. 地学教育・地学史（地学教育部会・地学教育委員会共催）（地域名必要）（スライドプロジェクターOK）

矢島道子*（東京医科歯科大・pxi02070@nifty.com）

地学教育の現場からの多くの会員諸氏の実践発表・問題提起を歓迎する。また、地学史からの問題提起は地学自身の発展を促す。貴 重な史的財産を参会者に示していただきたい。

26. 第四紀地質（第四紀地質部会）（地域名必要）

吉川周作*（大阪市大・yoshi@sci.osaka-cu.ac.jp）・雁沢好博（北海道教育大）・内山 高（山梨環科研）

第四紀地質に関する全ての分野（環境変動・気候変動・湖沼堆積物・地域層序など）からの発表を含む。また、新しい調査や研究、方法の開発や調査速報なども歓迎する。

〈一般発表申込書：郵送用〉

発表方法 (丸印をつける)	一般発表申込書					* 講演番号	
	ポスター	口頭	どちらでもいい	液晶プロジェクター	OHP		
発表題目							
発表者 (氏名のみ、 所属不要)							
(講演者が筆頭です)							
希望 セッション (番号：略記)	第1希望		第2希望		会員資格		
					正会員	正（院生割引）	準会員
					名誉会員	招待講演者	入会申込み中
責任 者連 絡先	氏名				コメント（対象地域（国・県）など）		
	住所	〒					
	Tel.	Fax.				E-mail	

日本地質学会行事委員会

行事委員長（06年度）久田健一郎（前担当理事）
(07年度) 斎藤 真（担当理事）
委 員 斎藤 真（地域地質部会）
岡田 誠（層序部会）
北村晃寿（古生物部会）
七山 太（堆積地質部会）

上野将司（応用地質部会）
斎藤文紀（現行地質過程部会）
坂本正徳（情報地質部会）
田村嘉之（環境地質部会）
石川正弘（構造地質部会）
前田仁一郎（岩石部会）

内山 高（第四紀地質部会）
片山 肇（海洋地質部会）
古川竜太（火山部会）
大久保進（石油、石炭関係）
阿部国広（地学教育関係）
2007.5.20現在

見学旅行一覧

- * 取消料は、申込締め切り後～出発3日前までは50%，2日前以降は全額となります。
- * 参加費用は旅行傷害保険（500円）が含まれています。
- * 集合地点まで、および解散地点は各自の負担となります。
- * 参加費用はあくまで概算の金額です。大きな過不足が生じた場合、見学旅行終了時に調整します。
- * 案内書は費用には含まれていません。解説は案内書を使って行ないますので、参加申込時に予約購入の手続きをあわせて行なってください。
- * 集合・解散の場所・時刻等に変更が生じた場合、学会期間中に掲示板に案内されます。
- * 参加人数が少ない場合、見学旅行が中止になることもあります。
- * レンタカーを使用する場合、参加者の皆様に運転をお願いします。

班	タイトル<略称>	見学コース	主な見学対象	日程	定員	案内者(所属)	概算費用	地形図(1/2.5万)	備考
A	札幌 豊平川沿いの新第三系層序・火山岩類とカギュウ化石 <豊平川>	8:00北大博物館前集合→藻岩山山頂→2番輪大橋下河床→3石山湿地公園(昼食)→4小金湯→5百松沢→6定山渓温泉→17:30地下鉄真駒内駅前解散	1札幌市街付近の地形と地下構造・藻岩山溶岩、2支笏湖流断面・硬石山岩体、4恵山層堆積相・カイギュウ化石英斑岩体・温泉街散策。	9/8(日帰り)	20名	岡 孝雄*(道立地質研・岡村 聰(北教大・札幌)・古沢仁一(札幌市博物館活動センター)・重野聖(明治コンサルタント)	¥4,000	札幌、石山、定山渓	①マイクロバス使用 ②小雨決行 ③各自昼食・飲み物を特参 ④長靴などが望ましいがスニーカーなども可
B	新第三紀溶岩台地縁辺の地すべり地形(手稲山から朝里峠へ)<手稲山>	8:00北大博物館前集合→前田森林公園→手稲山山頂→手稲山駅、増毛山脈、丰浦山脈、千歳山脈、岩屑山など堆積物の露頭を議論。その他の、溶岩台地とその隣接地、すべり微地形、すべり対策工などの見学。	9/8(日帰り)	25名	宮坂省吾*(アイビーズ)・英 弘・石井正之(明治コンサルタント)	¥6,000(昼食代を含む)	手稲山、銭函、張碓	①地形観察が主、双眼鏡・望遠付カメラの携行を推奨。 ②雨天時はぬかるむ。 ③ヘルメットは主催者側で準備。 ④天候不順の場合コース変更あり ⑤終了時に温泉入浴を予定	
C	日高スペチャル(日高衝突下部地盤の岩石構成と変形運動) <日高>	[1日目] 8:30北大博物館前集合→新ひだか町(静内)→静内川上流(べニカル沢)→ペテカリ山荘付近→道道小樽定山渓線第1ヘーピン地すべり→朝里川温泉へ浴→18:00北大博物館前解散	日高変成帯の高度変成岩類と部分溶蝕、日高地盤衝突時の変形運動(泥質および岩鉄質のグラニュライト、各種ユーノーム、マイロナイト、シースプール岩など)を見	9/12(水)～14(金) (2泊3日)	15名	小山内康人*(九州大)・太和田正明(山口大)・島剛志(新潟大)	¥21,000(夕食代を含む)	静内川上流、ヤオロコマツ岳、カムイ岳	①全コース歩き(健脚向き・渡歩および巻こぎを伴う) ②汎用シェルフ、食器、ヘッドランプ等、シュラフ、登山杖等を持参。 ③防寒対策が必要 ④2泊とも山小屋またはテント泊、自然 ⑤初日は各自昼食を特参
D	北海道中部の活断層と大規模地すべり地形 <ふらの>	[1日目] 8:30北大博物館前集合→千歳市泉郷→安平町富里→丘冠・赤岩トホル→赤岩層崎地すべり→[2日目] ベテカリ山荘→コイボクシェビチャリ川→「新ひだか町」→鹿河→元浦川上流・カムイ山荘(泊)[3日目] カムイ山荘→元浦川上流(ニシユオーマナイ沢)→浦河→16:00新千歳空港→17:30札幌解散	平原と部分溶蝕の変形、その上盤側に位置する大規模地すべり地形、石狩低地東縁断層地すべり地帯(連がよければノンテクトニック断層・大規模蛇紋岩地帯を貫く赤岩トンネル(完成駆逐)、初級の富良野盆地断層帯の地形とトレンド剥き取り様本を見	9/12(水)～13(木) (1泊2日)	15名	田近 淳*(大津町)・廣瀬 崇(道立地質研)・小坂清重一・川井武志(明治コンサルタント)	¥23,000(2日目) の昼食代を含む)	長都、追分、早来、千歳、ニニヴ、富良野、島ノ内、布部岳、布部(必要箇所は案内者がコピー配布)	①マイクロバス使用 ②初日は各自昼食を特参
E	十勝平野の更新統の堆積相 <十勝平野>	[1日目] 10:00JR新得駅集合→新得町→芽室町→音更町→十勝川温泉(泊)[2日目] 幕別→15:00とかち帯広空港経由→16:00JR帯広駅解散	褐岩層を挟在する池田層群最上部を観察(後背地堆積物、内陸堆積物、薄差延丘岩層など)、これらの地層浅海堆積物、芽室延丘岩層として見た場合の特徴や有効性なども考察。	9/12(水)～13(木) (1泊2日)	30名	高清水康博*・岡 幸雄(道立地質研)	¥18,000(2日目) の昼食代を含む)	十勝清水、桜井、芽室、東富良野、十勝川温泉、幕別、十勝川温泉、別子、帶広南部、大正別子(必要箇所は案内者がコピー配布)	①現地集合・現地解散(参考:往路Sとから1号、札幌08:02→新得09:55、復路10号、どちらも10号、帯広09:55、復路16:21→南千歳18:41→札幌19:14)②野外調査スタイル、長靴を推奨
F	北海道駒ヶ岳火山の噴火履歴 <駒ヶ岳火山>	[1日目] 8:00北大博物館前集合→鹿部町→七飯町→森町字赤井川民宿(泊)[2日目] 8:00磐→山頂火口原→森町役場→18:30新千歳空港	北海道駒ヶ岳火山の歴史時代噴火の噴出物、現地火山防災会議協議会の減災への取り組み、	9/12(水)～13(木) (1泊2日)	15名	吉本充宏*(北大)・宝田 良(道立地質研)	¥17,000(2日目) の昼食代を含む)	渡島森、松尾崎、駒ヶ岳、鹿部、大沼公園	①レンタカーを使用 ②初日は各自昼食を特参 ③登山ができる服装と靴(必要箇所は案内者がコピー配布)

日本地質学会第114年学術大会（札幌大会）宿泊・割引航空券のご案内

2007年9月9日（日）～9月11日（火）に、札幌市におきまして『日本地質学会第114年学術大会（札幌大会）』が開催されますことを心よりお祝い申し上げます。

この度、近畿日本ツーリスト（株）が大会に参加される皆様の『宿泊・航空券』のお世話をさせて頂くことになりました。私共は、全国各地より大会へご参加される皆様方の利便を図るように企画準備いたしております。大会開催期間である9月9日（日）に札幌市内で「北海道マラソン」の開催が予定されております。例年通り市内ホテルの混雑が予想されますので、お早めのご予約をお勧め致します。皆様のご来道心よりお待ち申し上げます。

KNT近畿日本ツーリスト（株）札幌事業部
「日本地質学会第114回学術大会」受付担当デスク

割引航空券のご案内

大会スケジュールに合わせて団体割引航空券を設定致します。5名様以上のご利用で下記料金が適用されます。是非ご利用下さい。

【往路】

記号	利用日	区間	予定スケジュール 発 着
A-1	9月8日（土）	羽田 → 新千歳	14：00 - 15：30
A-2	9月8日（土）	羽田 → 新千歳	18：15 - 19：45
A-3	9月9日（日）	羽田 → 新千歳	9：00 - 10：35
B-1	9月8日（土）	関西 → 新千歳	15：00 - 16：50
B-2	9月8日（土）	関西 → 新千歳	18：50 - 20：40
B-3	9月9日（日）	神戸 → 新千歳	08：30 - 10：25
C-1	9月8日（土）	名古屋 → 新千歳	14：15 - 15：55
C-2	9月8日（土）	名古屋 → 新千歳	18：50 - 20：30
C-3	9月9日（日）	名古屋 → 新千歳	9：00 - 10：40
D-1	9月8日（土）	仙台 → 新千歳	16：00 - 17：10
D-2	9月8日（土）	仙台 → 新千歳	18：00 - 19：10
D-3	9月9日（日）	仙台 → 新千歳	8：30 - 9：40
E-1	9月8日（土）	広島 → 新千歳	12：20 - 14：10
E-2	9月9日（日）	広島 → 新千歳	12：20 - 14：10
F-1	9月8日（土）	福岡 → 新千歳	11：10 - 13：20
F-2	9月9日（日）	福岡 → 新千歳	8：00 - 10：10

【復路】

記号	利用日	区間	予定スケジュール 発 着
ア-1	9月11日（火）	新千歳 → 羽田	18：30 - 20：05
ア-2	9月12日（水）	新千歳 → 羽田	10：30 - 12：05
ア-3	9月12日（水）	新千歳 → 羽田	17：30 - 19：10
イ-1	9月11日（火）	新千歳 → 関西	18：20 - 20：30
イ-2	9月12日（水）	新千歳 → 関西	12：00 - 14：05
イ-3	9月12日（水）	新千歳 → 関西	18：20 - 20：30
ウ-1	9月11日（火）	新千歳 → 名古屋	19：50 - 21：35
ウ-2	9月12日（水）	新千歳 → 名古屋	9：50 - 11：30
ウ-3	9月12日（水）	新千歳 → 名古屋	17：40 - 19：25
エ-1	9月11日（火）	新千歳 → 仙台	19：40 - 20：50
エ-2	9月12日（水）	新千歳 → 仙台	10：10 - 11：20
エ-3	9月12日（水）	新千歳 → 仙台	19：40 - 20：50
オ-1	9月11日（火）	新千歳 → 広島	15：15 - 17：20
オ-2	9月12日（水）	新千歳 → 広島	15：15 - 17：20
カ-1	9月11日（火）	新千歳 → 福岡	14：10 - 16：35
カ-2	9月12日（水）	新千歳 → 福岡	14：10 - 16：35

割引運賃（団体割引）

【往路】

A-1,2,3	17,000円	D-1,2,3	12,500円
B-1,2,3	19,500円	E-1,2	19,000円
C-1,2,3	16,000円	F-1,2	20,000円

【復路】

ア-1,2,3	15,000円	エ-1,2,3	12,500円
イ-1,2,3	16,500円	オ-1,2	19,000円
ウ-1,2,3	16,000円	カ-1,2	20,000円

※各設定便ともに5名様以上のご利用があった場合に限り、上記割引運賃が適用されます。

※上記出発時間は2007年4月現在の仮ダイヤに基づいております。多少変更になることがありますのでご了承下さい。

※各設定便毎にお申込のお客様が5名様未満の場合、各特別運賃でご利用頂くために便の変更をお願いする場合がございます。もしくは別途割増料金となりますので、ご了承下さい。

※各便ともに確保している席（10～30席）が満員になり次第締切りとさせて頂きます。

※上記割引航空券としてご案内する航空便は、各航空会社の「マイレージプログラム」積算対象外の運賃となりますことをご了承下さい。

宿泊のご案内

9月8日（土）～11日（火）ご宿泊分

9月9日（日）に北海道マラソンの開催が予定されております。例年通り市内ホテルの混雑が予想されますのでお早めのご予約をお勧め致します。

ホ テ ル 名	ア クセス	申込 記号	部屋タイプ	代金 (お一人様当り)
A：札幌グランドホテル	JR札幌駅南口より徒歩5分 会場まで徒歩10分	AS	シングル	12,000円
		AT	ツイン	10,500円
B：京王プラザホテル札幌	JR札幌駅西口より徒歩5分 会場まで徒歩5分	BS	シングル	12,500円
		BT	ツイン	10,500円
C：札幌アスペンホテル	JR札幌駅北口より徒歩3分 会場まで徒歩3分	CS	シングル	11,000円
		CT	ツイン	10,000円
D：札幌ワシントンホテル	JR札幌駅南口より徒歩1分 会場まで徒歩6分	DS	シングル	10,000円
		DT	ツイン	9,000円
E：ホテルクレスト札幌	JR札幌駅西口より徒歩1分 会場まで徒歩5分	ES	シングル	10,000円
		ET	ツイン	9,000円
F：札幌リッチホテル	JR札幌駅南口より徒歩7分 会場まで徒歩20分	FS	シングル	7,000円
		FT	ツイン	6,500円
G：東横イン札幌駅北口	JR札幌駅北口より徒歩3分 会場まで徒歩10分	GS	シングル	7,000円
		GT	ツイン	4,500円
H：東横イン札幌駅西口北大前	JR札幌駅西口より徒歩5分 会場まで徒歩1分	HS	シングル	7,000円
		HT	ツイン	4,500円

※宿泊料金は、1泊朝食付・税金・サービス税込みお一人様の料金となっております。

※「東横イン」記号G・Hにつきましては、1泊食事無しの料金となっておりますが、ホテルで無料朝食サービスがございます。

※それぞれ確保している部屋数がふさがり次第、締め切らせて頂きます。

申込について

大会参加登録ホームページ(HP)又はp.(21)に掲載の大会申込用紙にてお申込下さい。詳細はp.(6)掲載の「各種申込とお支払について」をご覧下さい。

大会参加登録ホームページ：<http://www.knt.co.jp/ec/2007/114jgs/>

申込締切：8月8日（水）18:00まで

◎変更・取消について◎

お申込内容の変更・取消につきましては、必ずFAX又はe-mailにてご連絡下さい。お電話でのご連絡はお受け致しかねます。

お取消しの際は、下記の取消料を申し受けます。

【航空券】

10日前～8日前	7日前～2日前	前日	当日	便出発以降
20%	30%	40%	50%	100%

【宿泊】

10日前～8日前	7日前～2日前	前日	当日	不泊
20%	30%	40%	50%	100%

◎お問合せ先◎

KNT 近畿日本ツーリスト(株) 札幌事業部

日本地質学会第114年学術(札幌)大会 受付デスク

〒060-0003

札幌市中央区北3条西1丁目1-1 札幌パナソニックビル4階

FAX: 011-280-2732 e-mail : hkd-ec@or.knt.co.jp

近畿日本ツーリスト(株)札幌事業部宛
〒060-0003 札幌市中央区北3条西1丁目 札幌パナソニックビル4階
e-mail : hkd-ec@or.knt.co.jp

送信先 011-280-2732

日本地質学会第114回学術大会

参加登録及び懇親会・要旨集・弁当・航空券・宿泊・見学旅行FAX専用申込書

住 所 予約確認書 送 付 先	〒□□□—□□□□ (都・道・府・県) 必ずお手許に届く住所をご記入下さい。 (勤務先・自宅)												弊社記入欄									
													受付 No.									
申込代表者氏名													申込 受付日	年 月 日								
所属	(部署)																					
電話番号 FAX番号 e-mail	TEL - - 内線 () FAX - - e-mail																					
(ふりがな) お 名 前			性 別	年 齢	参 加 種 別	懇 親 会	要旨集 追加	見学旅行 案内書	お 弁 当			航 空 機		宿 泊								
									9 日	10 日	11 日	往路	復路	記 号	8 日	9 日	10 日	11 日				
ふりがな きんき たろう			男 ・ 女	55	正院生 準 名誉・50年 非 学生非 同伴者	○	冊 送付 ・ 受取	1冊 送付 ・ 受取	×	○	○	A-1	ア-2	D S		○	○	○				
例) 近畿 太郎																						
1 ふりがな			男 ・ 女		正院生 準 名誉・50年 非 学生非 同伴者		冊 送付 ・ 受取	冊 送付 ・ 受取														
2 ふりがな			男 ・ 女		正院生 準 名誉・50年 非 学生 同伴者		冊 送付 ・ 受取	冊 送付 ・ 受取														
見学旅行 (申込者: 1→上記1の方、 コース: 希望コースの記号 キャンセル待ち: 希望の方は○ を記入下さい。)																						
申込者 1	コース	キャンセル待ち	緊急連絡先 (携帯)			申込者 2	コース		キャンセル待ち	緊急連絡先 (携帯)			備考欄									
	第1						第1															
	第2						第2															
支払方法		<input type="checkbox"/> 銀行振込 <input type="checkbox"/> クレジットカード			カード種類 (選択)	<input type="checkbox"/> VISA <input type="checkbox"/> ダイナース			<input type="checkbox"/> master <input type="checkbox"/> アメリカンエキスプレス	<input type="checkbox"/> JCB												
有効期限		年 月			カード名義																	
カード番号		—			—																	
※ 航空券: 団体設定便以外の便の手配も承ります。 ご希望の方は備考欄にご希望内容(日時、区間、便名、割引種別など)を記入下さい。																						
※ 宿泊: ツインルームをご希望の方は、同室の方のお名前(組み合せ)を備考欄に記入下さい。																						

入会のご案内

入会ご希望の方は下記の入会申込書を日本地質学会事務局へお送りください。
 入会には正会員1名の紹介が必要です。近くに紹介者となるべき会員がいない場合はその旨お申し出ください。
 また、申し込み時には、初年度の会費を添えてお申し込みください。
 申込書送付先：101-0032 東京都千代田区岩本町2-8-15 井桁ビル6F 日本地質学会
 送金先：郵便振替口座 00140-8-28067 日本地質学会
 会費額：正会員12,000円（院生割引＊8,000円、定収のない方に限る） 準会員（旧学生会員）5,000円
 ＊院生割引を希望される方は、下記の院生割引申請欄に指導教官の署名、捺印をもらってください。

日本地質学会入会申込書 Application form for the Geological Society of Japan	
*会員番号	*会員種別 <input type="checkbox"/> 正会員 (<input type="checkbox"/> 院生割引) <input type="checkbox"/> 準会員
氏名 (ふりがな) Name in Japanese	ローマ字表記 family name first name
年 Year 月 Mo 日 Day 生 born on	Sex : <input type="checkbox"/> 男 Male <input type="checkbox"/> 女 Female Country :
学位 Degree: <input type="checkbox"/> 博士 Dr. <input type="checkbox"/> 修士 Master <input type="checkbox"/> 技術士 Engineer <input type="checkbox"/> その他 Other	
専門 (下欄から3つまで) (Specialities less than 3 items) 1. 2. 3.	
学歴 Academic career : 学校 High school 年卒業 Year completed 大学 University 学部 Faculty 年卒業 (見込み) Year completed 修士 Master : 大学 Univ. 研究科 Fac. 年修了 (見込み) Year completed 博士 Doctor : 大学 Univ. 研究科 Fac. 年修了 (見込み) Year completed	
自宅住所 Home address (郵便番号 Zip code -)	
電話 Phone :	ファックス Fax :
電子メール E-mail :	
所属機関・住所 Affiliation with address : (郵便番号 Zip code -)	
電話 Phone :	ファックス Fax :
電子メール E-mail :	
連絡先 Correspondence : <input type="checkbox"/> 自宅 Home <input type="checkbox"/> 所属機関 Office	
紹介者名 (正・院生会員)	印
Recommended by (name of member) _____	Signature _____
院生割引申請欄：運営細則に基づき会費の院生割引を申請いたします。	
上記本学の学生につき、定収のない院生（研究生）であることを証明いたします。	
指導教官（員） 所属：	氏名： 印
*受付 (年 月 日) *入金 (年 月 日) 振替・現金・銀行・他	
*承認 (年 月 日) *送本 (卷 号)	

太枠内のみにご記入ください (*Official use only)

専門分野 (番号で) 01:層位 02:堆積・堆積岩 03:古生物 04:構造地質 05:火山・火山岩 06:深成岩
 07:変成岩 08:鉱床地質(金属・非金属) 09:鉱床 10:鉱物 11:燃料地質 12:地熱 13:第四紀
 14:環境地質 15:都市地質 16:土木地質 17:土質工学 18:水文地質 19:探査地質 20:土木工学
 21:情報地質 22:地震地質 23:海洋地質 24:地球物理 25:地球化学 26:地質年代学 27:地理
 28:地学教育 29:考古学 30:その他 40:地球惑星学

日本地質学会News

Vol.10 No.5 May 2007

The Geological Society of Japan News

日本地質学会/〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-8-15

井桁ビル 6F

編集委員長 大友幸子

TEL 03-5823-1150 FAX 03-5823-1156

main@geosociety.jp (庶務一般)

journal@geosociety.jp (編集)

<http://www.geosociety.jp>



Earth Sciences for Society

2007 - 2009

Contents

日本地質学会第114年学術大会（札幌大会）予告

..... (1) - (21)

入会申込書

各報道機関へのプレスリリースについて（広報委員会） 1

案内 2

触媒道場のご案内/第15回 ゼオライト夏の学校

公募 岩手大学教育学教員公募 2

各賞・助成 3

住友財團研究助成/第4回「日本学術振興会賞」受賞候補者推薦募集

報告 IGCPは変わります！（波田重熙） 4

学協会報告 4

EGU General Assembly 2007に参加して（高木秀雄）

Geologist物語 5

日米開戦直前の北京の地質屋（最終回）戦地での調査ということ（津田貞太郎）

ジオロジストのための法律メモ 7

著作権譲渡等同意書の解説（21）

地学教育のページ 8

日本地質学会第114年学術大会（札幌大会） 小さなEarth Scientistのつどい～第5回小、中、高校生徒「地学研究」発表会～ 参加校募集/関連行事・理科教師対象見学旅行 札幌近郊の地質見学—カイギュウ化石産地を巡って—（仮）

支部コーナー 9

関東支部 第1回研究発表会「関東地方の地質」のプログラムが決まりました

院生コーナー 10

研究室紹介 新潟大学理学部地質科学科構造地質学研究グループ（大橋聖和）/札幌大会・懇親会に参加しましょう！

CALENDAR 11

追悼 12

新潟大学名誉教授・元関東支部長 青木 滋さんご逝去を悼む
(遠藤 純) / 計報

学会記事 13

2006年第8回理事会議事録

2006年第9回理事会議事録

2006年第10回理事会議事録

2006年第11回理事会議事録

2006年度第4回定期評議員会議事録

会費口座振替依頼書

各報道機関へのプレスリリースについて

札幌大会および札幌大会の講演内容について、学会からプレスリリースを8月30日（木）9:00に行います。学会を通してのプレスリリースを希望する方は、8月27日（月）までに学会事務局<journal@geosociety.jp>にご連絡ください。原稿作成要領をお送りします。

また、個人的にプレスリリースを行う方も、できるだけ8月30日（木）9:00以降に行ってください。

（日本地質学会広報委員会）

表紙紹介

地質学の女神 エミール・ガレ1989年頃

青と黒の縞を入れた透明クリスタル。貝を背景に女性の頭部と「GEOLOGIA（地質学）」の文字をグラヴュールで凹刻した装飾がある。細かい槌目紋入りの地にグラヴュールで刻んだ化石や鱗片状の植物の葉に添えて「私は世界が水面より出でて作られるのを見た。そして海の貝が海から離れて横たわるのを見た」とのラテン語の刻銘がある。ロココ風のプロンズ金具は、パリの高級宝飾店エスカリエ・ド・クリスタルで装着したもの。

（北澤美術館所蔵 <http://kitazawamuseum.kitz.co.jp/suwa/>）

事務局営業カレンダー

お休みです

6月/June

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

7月/July

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

広告一部取扱：株式会社廣業社

〒104-0061 東京都中央区銀座8-2-9 電話 03-3571-0997

印刷・製本：日本印刷株式会社



ご案内

本会以外の学会および研究会・委員会よりの催し物のご案内を掲載します。

触媒道場のご案内

触媒学会では、産学の若手研究者の研修、交流を目的として、新しく「触媒道場」を開催します。この行事は2006年まで継続してきた触媒化学基礎講座を発展させ、2泊3日の宿泊研修として、触媒化学の基礎講義から研究の先端や現場のトピックス講演、工場見学、参加者によるポスターセッションなどを行うものです。

主催：触媒学会

協賛：日本地質学会ほか

日程：**2007年8月6日（月）～8日（水）**

場所：岡山県倉敷市有城1265 公共の宿 山陽ハイツ（JR倉敷駅まで送迎予定）
(<http://www.kurashiki.or.jp/sanyo/>)

プログラム：（講演題目は仮題です）

A. 第15回 ゼオライト夏の学校基礎講義

- 1. 触媒概論（島根大）岡本康昭
- 2. 遷移金属酸化物触媒（広島大）犬丸啓
- 3. 固体酸塩基触媒（鳥取大）丹羽 幹
- 4. 金属触媒（神戸大）西山 覚
- 5. 錯体触媒（東京工業大）和田雄二

B. トピックス講演

- 1. ノナンジアミンの工業化（クラレルミニス）吉村典昭
- 2. 固体触媒の基礎研究と実用化の間に潜む課題（ズードケミー触媒）松久敏雄
- 3. 直メタ法MMA触媒開発～テロポリ酸から貴金属触媒まで～（旭化成ケミカルズ）山口辰男
- 4. プロピレンオキサイドの製法（住友化学）石野 勝
- 5. 企業における触媒の工業化-受賞案件に沿って-（三菱化学）西山貴人

C. 事業所見学

- 1. 三菱化学
- 2. クラレ

D. リクルーティングセッション（参加者募集） 参加学生に向けて求人活動など、無料で企業のPRにお使いいただいて結構です。1社15分ほどの時間を自由にお使いください。

E. 若手ポスターセッション（参加者募集） 発表に関する教育の機会ともなるよう、クローズドな催しとします。このため、参加者（発表者・聴講者）はつぎのことご協力ください。

参加費：6/30申込みまで（7/1以後は5000円up）

触媒学会・協賛学会会員（法人会員の社員な

ども同じ） 45,000円

学生 25,000円

非会員 55,000円

上記金額は、宿泊・朝夕食費を含んでいます。昼食は食堂などで各自おとりいただきまず宿泊を希望されない方には実費相当分を差し引いて請求しますので、ご相談ください。

問合せ先：（世話人代表）

〒680-8552鳥取市湖山町南4-101

鳥取大学工学部物質工学科 片田直伸

Tel/fax 0857-31-5684

E-mail katada@chem.tottori-u.ac.jp

申込詳細は

<http://www.chem.tottori-u.ac.jp/~dojo/>

第15回 ゼオライト夏の学校

本年で、15回目となるゼオライト夏の学校を下記のとおり企画致しました。今回も講義はゼオライト系材料に関して基礎から応用まで初学者にわかりやすくお話ししていただく予定です。ポスター発表も企画致しましたので、多数のご参加をお待ちしております。
<http://res.tagen.tohoku.ac.jp/~katz/school/>

主催：ゼオライト学会

協賛：化学工学会、触媒学会、石油学会、日本イオン交換学会、日本エネルギー学会、日本化学会、日本吸着学会、日本セラミックス協会、日本地質学会、日本粘土学会、日本膜学会、有機合成化学協会、ゼオライト工業会（同不順、予定）

日時：**2007年9月6日（木）午後**

～9月8日（土）午前

会場：東北大学川渡共同セミナーセンター

<http://www.bureau.tohoku.ac.jp/gakuseishien/>

（〒989-6711 宮城県大崎市鳴子温泉字原75
電話：0229-84-730）

交通：陸羽本線川渡温泉駅下車（東北新幹線の場合古川駅乗り換え）

タクシーで5分（往復の送迎バスを用意します・・・詳細は追って通知します）

講義（敬称略）：

<ゼオライト・多孔体の基礎>

- ・固体酸性質の測定（鳥取大）片田直伸
- ・固体NMRによる多孔質材料のキャラクタリゼーション（産総研）林繁信
- ・単分散球状メソポーラスシリカの合成と応用（豊田中研）矢野一久

<最近のトピックス>

- ・ゼオライトナノクリスタルの合成と液相拡散およびその応用（北大）多湖輝興
- ・実用化を目指したゼオライトの合成と応用（成蹊大）里川重夫
- ・FIB-TEM, FTIR-ATR, GIXRD及びX線吸収分析によるA型ゼオライト膜の微細構造と水/エタノール分離機構の評価法（物産

ナノテク）京谷智裕

ポスター発表：20件程度

定員：50名

参加費：一般40,000円、学生20,000円（テキスト・宿泊・食事代を含む）当日会場にて徵収いたします。

申し込み締め切り：**2007年7月31日（火）**

参加申し込み方法：以下の情報を明記の上、zeo-natsui5@m.aist.go.jpまでメールにてお申し込み下さい。

①氏名、②性別、③年齢、④所属と住所（学生の場合、研究室名と学年）⑤電話番号、⑥メールアドレス、⑦ポスター発表の有無、⑧送迎バス利用の有無

第15回ゼオライト夏の学校世話人：

池田拓史（産総研・東北センター）

TEL : 022-237-3016

E-mail : takuji-ikeda@aist.go.jp

山本勝俊（東北大・多元研）

TEL : 022-217-5165

E-mail:katz@tagen.tohoku.ac.jp

公募 教官公募等の求人ニュース原稿につきましては、採用結果をお知らせいただけますようお願い致します。



応募

岩手大学教育学教員公募

1. 職名 理科教育科准教授

2. 採用人数 1名

3. 専門分野理科教育（地学分野の講義も担当できることが望ましい）

4. 担当科目 [大学院] 理科教育学特論、理科教育学特別演習 [学部] 理科教育法（小）、理科教育法I（中学校理科の第2分野担当）、小学校理科A・B（小学校理科に関する実験科目、分担担当）、地学分野の講義、他に全学共通教育科目など

5. 応募資格 (1) 大学院博士課程を修了した者、又はこれと同等の研究業績を有する者 (2) 大学院（修士課程）において、講義を担当できる者 (3) 小学校における理科教育の指導ができる者 (4) 採用後は、盛岡市又はその近郊に居住できる者

6. 年齢 不問

7. 採用予定期日 平成19年10月1日

8. 提出書類 (1) 履歴書（市販の用紙を使用、本人自筆、写真貼付） (2) 研究業績目録（A4判用紙に著書、学術論文、口頭発表、その他に分けて記入すること、形式自由） (3) 研究業績のうち、主要著書・論文10編（現物またはコピー）

(4) 本学採用後の教育に対する抱負（1000字以内、書式自由）
9. 応募締切 平成19年6月29日（金）必着
10. 提出先
〒020-8550 岩手県盛岡市上田3-18-33

岩手大学教育学部長宛

※なお、提出書類は「書留」とし、封筒に
「教員応募（理科）書類在中」と朱書きのこと

11. 照会先

岩手大学教育学部理科教育科 武井隆明
(Tel:019-621-6551 Fax:019-621-6560 E-mail:
ttakei@iwate-u.ac.jp)

不在の場合は、教育学部学部運営グループ
(Tel:019-621-6504 Fax:019-621-6661 E-mail:
esomu@iwate-u.ac.jp)

その他、ご注意願いたいこと等

- (1) 速やかに、かつ確実に連絡がとれるよう、
携帯電話番号、電子メールアドレスがある
場合は、履歴書の「連絡先」欄に記入して
ください。
- (2) 選考にあたっては、本学部において面接
を行う場合があります。面接を行う場合は、
改めて連絡をします。ただし、面接に要す
る旅費等は支給できませんので予め御了承
ください。
- (3) 提出書類は審査後、返却します。
- (4) 応募書類に記載された個人情報は採用者
の選考及び採用後の必要手続きに使用する
ものであり、他の目的では使用しません。

各賞・ 研究助成



日本地質学会に寄せられ
た候補者の推薦依頼をご
案内いたします。推薦ご
希望の方は締切日半月前
までに、理事会までお申
し込み下さい。

住友財団研究助成

●基礎科学研究助成

助成の趣旨 科学の進歩は社会の発展に大きな貢献を果たしてきました。時に一方で問題も数多く惹起してきていますが、21世紀においても科学の担うべき役割は依然として大きいものと思われます。この助成は、重要でありながら研究資金が不十分とされている基礎科学研究、とりわけ新しい発想が期待される若手研究者による萌芽的な研究に対する支援を行うものです。

助成対象研究 理学（数学、物理学、化学、生物学）の各分野及びこれらの複数にまたがる分野の基礎研究で萌芽的なもの（それぞれの分野における工学の基礎となるものを含む。）

応募資格 「若手研究者」

募集期間 2007年4月16日（月）

～6月30日（土）

応募方法 財団ホームページ (<http://www.sumitomo.or.jp/>) より、申請書フォームを印刷してあるいはダウン・ロードして下さい。

●環境研究助成

助成の趣旨 現在、人類が直面している大きな問題の一つに環境問題があります。地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨、生物種の減少、食料と人口、砂漠化、公害等様々な問題があり、その原因の探究と解決策の模索が続けられています。この助成は、環境問題の解決のためには、多面的かつ地道なデータ収集と解析、そして様々な対応策の構築が必要と考え、そのためのいろいろな観点（人文科学・社会科学・自然科学）からの研究に対する支援を行います。

助成対象研究

一般研究：環境に関する研究（分野は問いません。）

課題研究：2007年度募集課題「新たな政策提言に資する環境研究」

応募資格 特に制約はありません。

募集期間 2007年4月16日（月）

～6月30日（土）

応募方法 財団ホームページ (<http://www.sumitomo.or.jp/>) より、申請書フォームを印刷してあるいはダウン・ロードして下さい。

有する我が国の学術研究者（個人推薦）※自薦は受けません。

6. 推薦手続

1) 提出書類

①「受賞候補者推薦名簿」（機関長推薦の場合のみ）原本1部（様式1）②「推薦書」原本1部、写し6部（様式2）③「業績調査」原本1部、写し6部（様式3）④「推薦理由書A、B」*注1 それぞれ原本1部、写し6部（様式4）⑤ 論文の別刷・著書・その他の業績資料（5件以内）*注2 各3部⑥「業績調査一覧」各3部（様式5）

2) 応募方法

ア) 機関長推薦の場合

(i) 候補者毎に、②～④を片面印刷し番号順に1部ずつ重ねて、左上をホチキスでとめてください。

(ii) ①を表紙とし、そのリスト順に(i)をセットして、⑤を添え提出してください。

イ) 個人推薦の場合

候補者毎に、②～④を片面印刷し番号順に1部ずつ重ねて、左上をホチキスでとめてください。それに⑤を添え提出してください。
(①は不要)

7. 受付期間 平成19年6月4日（月）

～6日（水）（必着）

（午前10時から正午まで及び午後1時から午後5時まで）

8. その他

1) 推荐書等は、所定の様式を使用してください。なお、推薦書等は本会のホームページ (<http://www.jsps.go.jp/jsps-prize/>) よりダウンロードすることができます。

2) 推荐書等の提出後、その記載事項を変更または補充することはできません。

3) 提出された推薦書及び業績資料等は返却しません。

4) 選考結果に対する問い合わせには応じかねます。

5) 受賞者の氏名、略歴及び授賞の対象となった研究業績等は公表されるのであらかじめ承知願います。

6) 受賞者には、我が国の学術の振興、本会の事業の充実等のため、協力を依頼することがあります。

7) 推荐書類に含まれる個人情報については、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」及び本会の「個人情報保護規程」に基づき厳重に管理し、本事業の業務遂行のために利用します。

9. 推荐書類の提出先及び問い合わせ先
推薦書類は下記へ持参、又は郵送にて提出してください。

〒102-8472 東京都千代田区一番町8番地
独立行政法人日本学術振興会 総務部研究者養成課「日本学術振興会賞」担当

TEL 03-3263-1762 FAX 03-3222-1986
<http://www.jsps.go.jp/jsps-prize/>



報 告

本会委員会以外の研究会・委員会等よりのお知らせを掲載します。

IGCPは変わります！

IGCPは、ユネスコと国際地質科学連合(IUGS)の国際共同研究事業として1972年に正式に発足以来、ユネスコのプログラムの中で最も効果的なものの1つとして定着し、35年が経過しました。しかし、当然のことながら近年活動を見直す動きが活発化し、2003年にはそれまで親しまれてきた国際地質対比計画(International Geological Correlation Programme)という名称は、“Geoscience in the Service of Society”という姿勢を一層鮮明にして地質科学国際研究計画(International Geoscience Programme)と外部の人達にも分かりやすい名称に変更されました。その後の改革については、一部について既に「IGCPニュース2006(日本地質学会News, vol.9, no.8, 6-8.)」で報告しましたが、その後もIUGSの強力な後押しの基に改革へ

の努力が続けられてきました。それがほぼ完了したことが、本年2月にパリのユネスコ本部で開催された第35回IGCP科学理事会で報告されました。

そこで、会員の皆様に以下の4点の改革についてご報告するとともに、より多くの方にIGCPの活動へのご理解とご協力を願いしたいと考えました。それなくしては、今後のIGCPはありません。

- (1) ユネスコでIGCPを統括するのは再編されたEcological and Earth Sciences部門で、これまでの基礎理学中心のプログラムは応用理学的色彩が強まり、①Geoscience of the Water Cycle, ②Geohazards: Mitigating the Risks, ③Earth Resources: Sustaining our Society, ④Global Change & Evolution of Life: Evidence from the geological record, ⑤Deep Earth: How it controls our environmentを特に重点を置くトピックとすることになりました。
- (2) IGCPの実施組織、プログラム及び理事会機能の再編されました(詳細は「IGCPニュース2006」を御覧下さい)。現在、新しい理事会メンバーの募集中です。
- (3) 新規に申請するIGCPプロジェクト及び進行中のプロジェクトの評価指針が明確に

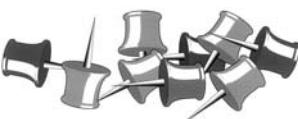
されました(<http://www.unesco.org/science/earth/>参照)。

- (4) IGCP国内委員会の立ち上げ及び既設の国内委員会の補強に関する指針を確定すること。

最後の改革の詳細はまだ示されていませんが、今年の夏に公表される予定です。これまでプロジェクトのリーダーあるいは国内ワーキンググループの代表者を中心に構成してきた国内委員会に、新たに文部科学省、関連する学会、あるいは企業からの委員を加えるという国内委員会の強化策が示されるものとみられます。既に、産総研地質調査所と極地研究所から委員を出させていただいているが、重点をおくトピックから見ても、今後より幅広い領域の方々のご協力をえながら、IGCP活動をより盛んにしていくことが求められると言っています。

近年、新規プロジェクトの申請件数が減少する傾向にあることから、今年夏に開催される日本地質学会第114年学術大会では、IGCPの活動についてよりいっそうのご理解を得るために、ブースを開設する予定しております。是非、お立ち寄り下さい。

(日本IGCP国内委員会委員長 波田重熙)



学協会・研究会報告

EGU General Assembly 2007に参加して

高木秀雄(早稲田大学)

EGU(European Geosciences Union)2007年度大会が、4月15~20日にウィーンで開催された。私は初めての参加であったが、印象の残る大会であったので、紹介しよう。EGUは2002年に設立され、大会が開かれるようになったのは2004年からで、今回が4回目にあたる。会場のAustria Center Vienna(写真)はウィーンの北東部、ドナウ川を渡った国連機関など近代的な建物が林立する場所にあり、このような巨大な学会でも収容能力が確保できることから、最初ニースで行われていたこの大会も、この3年間はウィーンに定着したようである。今年の統計は未だ出ていないが、2006年大会の参加者は7732人で日本からも142名が参加している。ボスター会場は2カ所に分かれているが、ボードの数は合計1,500枚に及び、朝8時から夜7時すぎまで掲示することができる。ボードサイズがおよそ横2m×縦1mで、ボード間にPCも置けるようなテーブルが並んでいるので、PCを併用した展示も可能となっている。会場も5つのフロアごとに壁や案内板などの色が決まっており、案内もモニターを併用して充実しており、広い会場で迷うことはない。また、各階にカフェやレストランがあるので、昼食も長い列をなすことはない。口頭発表では8:30~19:00の間で90分ごとに5つの時

間帯に区切り、間の休憩を30分とっていたので、コーヒーブレイクの議論にもゆとりがあり、また会場の移動も急ぐ必要は無く、ボスターを垣間見ることも可能であった。朝8:30開始という設定はサマータイムが始まって間もない時期であることもあり早く感じるが、ウィーン市街の広さを考えると、納得がいく。つまり、会場はウィーンの中心から2~3分おきに運行している地下鉄を利用してわずか15分程度で着くため、移動に時間がかかるない。私のように東京の西の外れに住んでいる者にとっては、幕張の連合大会の会場に行くのに2時間以上かかってしまうことを考えると、都市のサイズを改めて実感してしまう。会場での受付もなかなかスマートであった。予めインターネットで登録しておき、会場入り口のPCに登録番号とパスワードを打ち込むと、名札と領収書がすぐにプリントアウトできる設定になっていた。今回から厚い要旨集を廃止し、CDとセッションタイトルのプログラムを渡されただけであったが、会場には数多くのPCが設置されており、いつでもほとんどばずに講演要旨やプログラムを見ることができたので、会場に重いPCを持ち込む必要もなかった。

セッションの詳しい内容については、<http://meetings.copernicus.org/egu2007/>に



掲載されており、アブストラクトはPDFファイルでダウンロードできる。私は構造地質・テクトニクス分野で自分の日程を組んだが、この分野だけで約40余のセッションがあり、AGUよりも構造地質学分野に関しては充実していた。ただ、開催時期が新学期が始まればばかりの4月中旬というのが、やや難点である。

欧州便はアメリカ便に比べて航空運賃が高いことと、ウィーンは円安であったことと20%の税金もあり、物価も高いが、スーパーや駅のパン屋などを利用すれば安上がりに過ごせるし、また、国立歌劇場などでの音楽はもちろん、ブリューゲルやルーベンスのコレクションが充実している美術史博物館など、ウィーンは見所も多い。EGUの受付では5日分の公共交通機関の無料チケットをもらうことができた。これでウィーン市街の公共交通を自由に使用できる便利なものである。EGUの参加登録料はEGUまたはAGU会員割引で360ユーロ(学生は220ユーロ)で、要旨の投稿料はない。AGUの登録料より割高であるが、EGUの年会費は20ユーロ(学生は10ユーロ)で様々な特典があるのはメリットであろう。

Geologist 物語

地質学と出会った頃/印象に残っている調査、研究/影響を受けた論文、書籍、講義、研究者/現在では観察できなくなった露頭/今だからはなせる裏話/など

津田会員よりお寄せいただいた、戦前の中国でのお話を全4回でおくりしています。

日米開戦直前の北京の地質屋（最終回） 戦地での調査ということ

正会員 津田貞太郎（元 日本セメント（株）技師）

杜の都北京では穏やかな日々であります。西南僅か50kmの房山・周口店は戦地でありました。我々が房山県城についた夜、一つの部隊が入ってきましたが、その指揮官の一人が中学時代の友人であったことに驚き、戦を身近に感じたものです（この友人は姫路第10師団の幹部候補生出身で、この数ヶ月後戦死）。この前月には周口店発掘従事者に不幸な出来事があったことを賈氏の記述（第3回掲載）で知りましたが、そこあげられている房山県の関係者にはしばしば会っていたが、我々には知らされることなく、我々の滞在中は静かな日々がありました。鉄砲玉の洗礼を受けたのはいずれも涇源及び井陘（いずれも河北省）に近い石綿調査の時です。

涇源の石綿調査 涇源は北京西南160kmの山西省に近い海拔1000mの高地にあり、春秋戦国の末期、秦の始皇帝を暗殺に向かう燕の壮士荊軻が詠んだ「風蕭蕭」として易水寒し・・・」で有名な易河の源流の地で、易県から入れば近いのですが、当時は軍用道路ではなく、途中は八路軍の勢力下にあるため、蒙古側の宣化から山中を150km南下しなければなりませんでした。こちらも軍用道路とはいえ、途中八路軍の勢力下にある四十里谷と呼ばれる約20kmにわたって両側に百数十mの高さの断崖の続く谷底の道路と標高千数百mの歡喜嶺という峠越えの難関があります。四十里谷はここを通る部隊に多数の犠牲者を出したところです。軍のトラックに便乗して涇源県城に入ったのは1939年4月9日。しかし、調査目的の地はここからさらに北東30kmの山岳地帯にあり、調査のできる治安が回復するまでさらに約1ヶ月ここで待機することになりました。城外には清らかな泉が湧き、白樺に似た白楊が茂り、立派な塔のある唐代古刹やイタリア系の教会の建つ風光明媚な盆地でした。ここに待機する間、部隊では付近の石綿産地の情報を集めたり、宣撫工作に同行して名所案内に配慮してもらったおかげで退屈することもなく、いろいろの経験をさせてもらいましたが、最初に鉄砲玉の洗礼受けたのもこの地でありました。

それは石綿産出の情報のある白石口という長城の関門まで行った帰り道のことでした。

長城は山海閣に発して西への一筋の壁ではなく、いくつもの枝があり、その規模も八達嶺（北京市延慶県にある長城。現在は観光地として有名）にみる巨大なものから、高さ数mの土を盛り上げた程度のものまで多様です。白石口は八達嶺付近から分かれ西南に伸びる長城の一小門ですが、かなりしっかりした形です。この日は快晴にめぐまれ、桃の花が咲き、桃源郷を歩く心持ちで行軍していました。午後3時頃突然左側の山嶺から「パンッ！」という音がして「ピューン、ピューン」の音が激しくなってきました。兵隊さんたちは直ちに展開、我々は畑の溝にへりつきました。近くの兵隊さん達はピューンという音は、弾道が遠いということで、小銃は撃とうともしませんでしたが、こちらは気も動転、間もなくこちらから重機関銃を撃ち始め、敵の発砲はおさまりましたが、重機を馬から下ろして発砲するまではずいぶんと長い時間に感じたものです。いざ出発となって気が付くと喉がカラカラに乾いていました。これ以来、常に山嶺線を見る習慣がつき、内地に帰ってもしばらくそのくせがぬけませんでした。行軍は、ときには一泊のこともあります、山中の人々の生活にふれる貴重な経験になりました。

涇源より500m程高い山西省境の峠越えのこと、峠には、朝陽洞という震旦系石灰岩の洞に祠があり、北斜面には雪、南斜面には桃の花が咲いていました。親子らしい弁髪の堂守3人が迎えてくれました。ふと見ると山門の白壁に鉛筆で次の落書きがありました。

一九三八真擾乱	軍民戰骨堆成山
槍炮子弹空中懸	鮮血痛流滿江川
東逃西征不自然	要想尋處安全地
一家老少不團圓	還是朝陽古洞地 遊士復心題

（注：槍は鉄砲のこと）

このあたりは山岳地帯であるのに、堂守が畑を耕しているのであろうか、急な斜面に段々畑が広がり、広い中国でも・・・との思いでした。

宿泊は大きな農家があてがわれ、夜間気温が零下になってしまいオンドルがよく機能し、夜具は軍から支給された毛布一枚でしたが、この家から厚いフェルトの敷物を提供されて、寒さを感じないで済みました。しかし南京虫



（上）涇源の八角堂。涇源は、河北・山西省境の海拔1000mの水の美しい豊かな土地。
（中）涇原市街の南門内牌樓。写真奥には魁星樓が見える。
（下）白石口の長城。

とシラミには閉口しました。家の壁は煉瓦といつても黄土の日干しで、土中の水分を吸い上げてエアコンの役目を果たしてはいるが、壁の保持のために表面に貼った紙との間に潜んだ南京虫が、ランプの火を消すと、ミシミシと音を立てて出陣してきます。さらに閉口するのはトイレでした。素掘りでもトイレの形をしているのは良い方で、この家では冬に備えてか、10平方mほどもある大きな素掘りの穴の上に曲がりくねった自然木を無造作に渡しただけの、危険極まりないものでした。

この様な待機29日を経て、5月8日に目的の調査に向かえることになりました。現地は震旦系石灰岩と花崗岩との接触地帯の石灰岩中に生じた石綿（クリソタイル）鉱床（文献：候德封, 1935）が分布していました。午前6時、護衛の約100名の部隊と共に2泊の予定で出発しました。

この地の石綿は、1917年頃から採掘が始まっています。火薬を使用しないで掘った狸掘の坑道が既に200を超えるとのことでした。鉱床は南北5kmの間に接觸帶に沿ってほぼ500mの幅の中に生じていて、石綿は層理面に直角な2-4cmの纖維でした。11ヵ所で稼働されていて、長い纖維は手選し、短いものは石臼（碾子）で石綿を石灰岩と分けて出荷していた模様。しかし村民の多くは逃避していて詳細不明。この日は鉱床の中心地清水河に宿泊



(上) 朝陽洞山門。(下) 井家灘の峠にて。

し、さらに一日調査を予定していましたが、午後4時頃少數の敵が現れ、数発の射撃を受けたため、守備に不適当なこの地を明るいうちに離れ、北約3kmの井家灘に宿泊することになりました。井家灘であてがわれたのは大きな民家の最も大切な部屋でなかったかと思います。家具などほとんどない一般民家と比べて、いくつかの家具も置かれ、穀物が蓄えられていきました。しかしこの夜は敵の軍団がこの方面に向かっていると無電が入り、まんじりとも出来ない一夜でした。当時の無線機は重い手回しの発電機を備えたもので、我々が同行するため持参されたものの様でした。敵は方向を変えたらしく、何事もなく一夜は明けましたが、主な目的地である清水河の調査は不可能となり、往路と同行程をとることは危険なため北行して一泊、山越で済源県城に帰り、さらに北京には5月15日帰着しました。現地わずか数時間の不十分な調査のための40日の長い旅でした。帰途歓喜嶺では吹雪にあい、トラックはスリップして全員で押し上げるなど、最後まで苦勞がつきまといましたが、今となっては湿地帯の白楊にみた「萌え黄」の表現そのままの鮮やかな新緑が心に残っています。

後日談 石綿は今日では厄介者扱いされていますが、当時はセメント二次製品製造には代替物はなく、輸入は途絶えていたので、まもなくこの採掘を開始。そのため数人の社員が現地に駐留し、駐在者の中にこんな経験をした後日談があります。

ある夜枕元で起きろというものがあり、目を覚ますと八路軍の将校らしき者が火薬をよこせと言う。ただ渡す訳にはゆかぬ、強奪するならば仕方がないと言うと、数十発の弾を撃って、戦闘の形をとり、ラッパを吹いて引きあげてくれたといいます。既に故人となつた友人は案外律儀な隊長だったと笑っていたが、大変な思いであったと思う。

井陘の石綿調査 石綿調査はいずれも山岳地帯で、敵襲はついてまわっていて、この

年（1939年）の12月石家庄（北京西南250km、京漢線の都市）西南の山中、金柱嶺付近の石綿調査のときのことです。現地は八路軍の勢力下にあり、石家庄から直接現地へ入ることが出来ないため、河北・山西省境にある軍の駐屯地井陘県城で4日間待機し、12月22日午前0時30分装甲列車で微水駅に戻り、ここで護衛部隊を整え、東南へ闇夜の谷間20kmを歩き、午前9時現地に入りました。護衛の部隊は約100名、現地一泊の予定で火炎放射器と山砲を携行、輸送隊として現地人200名が同行していました。朝食を終え、調査のため行動を起こして間もなく、谷を隔てた対面の山地から激しい小銃射撃が始まりました。「ピューン」という音ではなく、「パチパチ」という音で、この音は、弾道が至近距離であると聞いていたので、そばの凹地に飛び込みました。近くに同行していた現地人数名も飛び込んできたので、500-600m離れた敵からもその動きが見えたならしく、しばらく、「パチパチ」が続きました。やがてこちらから重機と山砲の射撃が始まると、敵の射撃は止みました。山砲などを馬から下ろすまでが何十分にも感じた一時でした。あとで見ると飛び込んだ凹地の真ん中には凍った野糞の一塊。真夜中に井陘県城を出て、暗黒の谷間を隠密裡に行動したはずでしたが、敵にすっかり動静を探されていたわけです。敵の様子をみて調査の行動を開始した時は既に午後になっていました。現地は厚い黄土に覆われていて、岩石の露出はなく、この日は南北3kmに分布する稼働中および旧坑道の調査に終わりました。さらに一日の調査予定は現地宿泊には危険を伴うとの判断で、明るいうちに帰途につきました。帰途もまた時々敵の射撃を受けながら、微水に着いたのは夜10時、特別列車の到着を待って、井陘に戻ったのは翌朝3時でした。

この前夜の谷間の行進は、星明かりはなく、火は厳禁されていたので、自分自身が何をしているのかも判らない真の暗黒でした。小型の馬を支給されて何とか楽に行けると思ったのは大間違い、うとうと眠りかけると見事に振り落してくれます。暗黒の世界で醜態を見られないのは幸いでしたが、よう登ることは大変で助けを求める事もできない、あの時の惨めさは今でもはっきり思い出します。しかし、3回目に落とされたときには苦もなく乗馬できたことは不思議でした。

この調査にも後日談があります。翌々年の1941年2月石家庄駐留の旅団長と特務機關長の現地視察があるので、石綿産地を案内せよとのことで同行しましたが、このときは朝10時に石家庄を出て、特別列車で微水まで行き、水の無くなった川原をトラックで現地に入り、明るいうちに帰着したという、調査時の苦労にくらべ、あまりにもあっけない一日でした。

訂正・補遺：第1回記事（News誌2月号p.11、第3欄7行目）の“兵馬司胡同の校舎”

は“景山東門近くにあった北京大学地質館”と訂正します。

地質館は、当時の大街に接せず複雑に胡同・夾道を経て入ったところで、周辺には畠のある環境でした。しかし最近の情報（齊藤泰治：2007 北京歩き（1）日本放送出版協会 中国語会話 2月号123-125）によれば、交通事情はすっかり変わり、地質館は五四大街から分かれた沙灘北街を100m余り北上した西側にある中国社会科学院の法学研究所・国際研究センター敷地内にあって、その入口の門から見て右側の建物ということです。なお北京大学は1952年に西郊の旧燕京大学のあとに移転しました。またこの西近くには北京大学の源流となった京師大学跡があります。

補遺2：私は、1987年春に50年ぶりに北京を訪りました。天安門前は旧北京駅を含めて広大な広場となり、ここには人民大会堂・毛主席記念堂などが建設され、城壁は取り払われて旧城の内外には新しい大建造物の建設が進み、街は大きく変わっていました。それでも少し街を歩くと昔の面影が偲ばれるところも少なくありませんでした。王府井は昔と異なり大変にぎわっていましたが、紫禁城東辺の昔よく散歩をした南池子（大街）などは昔のままの姿を残していました。当時車道には市電が走っていたと記憶しています。1938年当時の写真2-3葉を掲げておきます。



(上) 天安門から500-600m離れた東長安街で撮影。当時、北京の女性の間で流行っていた自転車で颯爽と走る若い女性の姿。（中）北京市内朝陽門のすぐ南の城壁付近のどかな風景。（下）王府井の風景。当時はこの程度の人出。



ジオロジストのための 法律メモ

著作権譲渡等同意書の解説(21)

弁護士 高木宏行

地質学の論文が裁判で使われるということもあります。裁判で提出される場合には、例えば、論文そのものの著作権侵害やデータの盗用等による裁判で提出されるという場合もあり得ますが、そのような場合だけでなく、地盤の性質等が裁判での論争点になる訴訟があります。例えば、原子力発電所を建設しようという場合にその当否をめぐる争いの中で、建設予定の敷地周辺の地質学的・地震学的見地から活断層の長さの評価が争点になることがあります。また、同様に産業廃棄物の処分場を建築する場合にも、その是非や適否をめぐって活断層の存否が争いになる場合があり、これらの訴訟で地質学のデータや論文が用いられます。

この場合、準備書面という訴訟上の主張が記される書面に論文の内容が記載されたり、あるいは論文のコピー（複製）そのものが証拠として提出されることになります。

そのような場合の権利関係はどうなるのでしょうか。地質学に関する論文も著作物であり得ますので、本来は、それを著作者の許諾を得ずに利用したり、複製することは許されないことがあります。

準備書面の中での転載は、引用（著作権法32条）となる場合もあるでしょうが、引用に該当しない利用もあり得ます。また、証拠として論文などを提出するときは、コピーを作成することになります。

このように裁判上、利用したいときに、著作者の許諾が必要であるとすると裁判で出したい証拠が出せず、主張したいことが主張できないということになりますかねません。裁判官も判断する際に許諾がないことから、その知見が利用できなくなってしまうと、実体的真実に反する判決をしなければならなくなってしまう恐れがあります。

そこで、著作権法は、第42条で裁判上の利用における著作権の制限を規定しています。同条は、「著作物は、裁判手続のために必要と認められる場合及び立法又は行政の目的のために内部資料として必要と認められる場合には、その必要と認められる限度において、複製することができる。ただし、当該著作物の種類及び用途並びにその複製の部数及び態様に照らし著作権

者の利益を不当に害することとなる場合は、この限りでない。」と定めています。

この規定によって、著作権者の利益を不当に害しない限りは、許諾を得ることなしにコピーを作成して裁判所に提出できます。

この規定によって著作物を利用できるのは、原告、被告などの裁判の当事者となった者やその代理人である弁護士、裁判官、検察官、鑑定人などです。

著作物の利用ができるのは「裁判手続のために必要と認められる場合」とありますので、実際に裁判に提出するというだけでなく、その裁判手続の準備段階においてコピーをする行為についてもこの規定によって許されます。したがって、これから提訴しようと案件があり、その準備のために論文等を複製することもできます。この規定によって複製が許される場合には、著作物を翻訳して利用することができます（著作権法43条柱書2号）。

また、複製にあたっては、出所を明示する必要があります（著作権法48条1項1号）。

もっとも、裁判手続のために必要であっても、著作権者の利益を不当に害することとなる場合には、許諾を得る必要が生じます。例えば、ある書籍のうち一部分しか利用しないのに一冊全部をコピーしたり、訴訟関係者に提出する部数を大きく上回るなど必要部数を超えてコピーを作成することは許諾がない限り許されません。

以上の裁判手続における利用のほかに、立法又は行政目的の内部資料としての複製も著作権法42条によってできるようになります。具体的には、法律案審議のために国会や議会で著作物を利用する必要がある場合や、行政庁における行政事務遂行のために必要となる場合です。裁判が公開でなされるにも関わらず複製が許されていますが、立法又は行政目的の場合には、内部資料としての複製が許されており、外部へ公表する場合には許諾が必要となります。審議会の審議資料として委員に配布することは内部資料としての扱いと解釈されています（作花文雄「詳解著作権法」（第3版）367頁、ぎょうせい、2004年）。

弁護士 高木宏行
(キーストーン法律事務所)
日本地質学会顧問

第二東京弁護士会所属
現在 東京弁護士会・第二東京弁護士会合
同図書館嘱託、(財)日弁連交通事故相談
センター東京支部 等委員



学会オリジナルフィールドノート 好評発売中！！

サイズ：12×19cm. ハードカバー、ビニールレザー加工、金箔押し。
カラー：チョコレートブラウン。

用紙は野外調査に最適な、雨に濡れても丈夫な高級紙・レインガードを使用しています。是非ご活用下さい。

ご購入を希望の方は、学会事務局まで。 会員価格 500円／冊。



地学教育のページ



日本地質学会第114年学術大会(札幌大会)

小さなEarth Scientistのつどい

～第5回小、中、高校生徒「地学研究」発表会～ 参加校募集

標記発表会への参加校を募集しています。参加応募の詳細は本誌予告記事をご覧ください。地学、理科クラブの研究活動の発表、そのほか、この1年間に授業の中で行った活動の報告、児童・生徒の研究レポートなど地学的な活動、研究内容であれば構いません。ぜひ応募してください。FAXで参加申し込みをする場合は以下の申込書をご利用ください。メールの場合は同様の内容を記してお送りください。申し込みの際の参加生徒数、発表タイトル、発表概要は予定でも結構です。参加生徒には、参加証および「参加賞」を、また、優秀な発表には「優秀賞」が贈られます。

日本地質学会地学教育委員会（担当：三次）

申込締切 7月20日（金）

日本地質学会地学教育委員会 行き (Fax 03-5823-1156)

小さなEarth Scientistのつどい ～第5回小、中、高校生徒「地学研究」発表会～ 参 加 申 込 書

学校名※ (クラブ名)	
学校長名	
担当教員名※	
研究者名（連記）	(内、発表会参加生徒数 名)
タイトル※ (仮題でも可)	
発表概要 (可能であれば簡単に)	
担当者連絡先※	学校所在地 〒 - 電話 , Fax メールアドレス
机の使用※	する · しない (どちらかに○をつける)
備考・連絡事項	

※については必ず記入してください。

日本地質学会第114年会関連行事・理科教師対象見学旅行

札幌近郊の地質見学—カイギュウ化石産地を巡って—（仮）

日程 2007年9月8日（土）

日本地質学会地学教育委員会では、2002年から例年、日本地質学会の年会開催地において、理科教員を対象とした野外見学会をおこなってきました。第6回目となる今年の札幌大会では、9月8日（土）におこなわれる見学旅行「豊平川コース」の一部を理科教員向け見学会として設定し、大会準備委員会と地学教育委員会の共催として実施する方向で検討中です。詳細は次号のニュースに掲載する予定ですが、翌9日には、第5回目を迎えた“小さなEarth Scientistのつどい”一小・中・高校生徒「地学研究」発表会がおこなわれますので、両者をセットに、多くの理科教員が参加することを期待しています。また理科教員対象の見学旅行は学会員以外の方も参加できますので、ぜひ周辺の方々に広めていただき、ご参加ください。

なお、年会の見学旅行「豊平川コース」と、ここでご案内した理科教師対象見学旅行は、すべて同じ内容ということではありません。ご注意ください。

(日本地質学会地学教育委員会)

支部コーナー

☆関東支部

案内

第1回研究発表会「関東地方の地質」の プログラムが決まりました

関東支部主催の標記研究発表会（2007年6月10日（日））のプログラムが決まりましたのでお知らせします。お蔭様にて多数の発表御協力が得られましたことに対し厚くお礼を申し上げます。

なお当日は、研究発表会に引き続き2007年度支部総会も予定されておりますので、あわせてご出席のほどよろしくお願い申し上げます。

プログラム

口頭発表11件 会場：早大国際会議場3階第一会議室

10:00-10:15 開会挨拶：関東支部長 清水恵助

10:15-11:00

O1：丹沢トーナル岩体における古応力場変遷の一考察
佐藤隆恒（早稲田大）

O2：南部フォッサマグナ新第三系西桂層群の層序の再検討
伊藤穂高（筑波大）

O3：関東山地東縁部における地殻構造
新井隆太（東京大地震研）

11:00-12:00 ポスター発表紹介（各2分）

（昼休み）

13:00-14:30 ポスターコアタイム

14:30-15:30

O4：反射法地震探査の諸成果から明らかとなった房総半島南部の地質構造
山本修治（千葉大）・佐藤比呂志・津村紀子・菊池伸輔・駒田希充・菊地陽亮・石黒梓・浅尾一己・伊藤谷生・東中基倫・須田茂幸・川中卓・井川猛

O5：房総半島、小糸川流域の中新・鮮新統の地質と放散虫層序
澤田大毅（筑波大）・新藤亮太・本山功・亀尾浩司

O6：テフラ層序に基づく八ヶ岳火山北部の火山活動史
大石雅之（首都大）

O7：海岸地形変動に応答した現世 *Macaronichnus segregatis* 様生痕の産状
清家弘治（東京大）

15:30-15:45 （休憩）

15:45-16:45

O8：矢部長克らの関東平野研究
平社定夫（埼玉県立岩槻高）

O9：東京低地から中川低地にいたる沖積層の中間砂層の形成機構
田辺晋（産総研）・中島礼・中西利典・木村克己

O10：関東平野中央部における中期更新世以降の古地理復元
松島紘子（東京大）・須貝俊彦・水野清秀・八戸昭

O11：立川断層北方延長部における変動地形の検討
米村創（専修大）

16:45-17:30 総会

ポスター発表23件 会場：早大国際会議場4階共同研究室

P1：茨城県御前山地域の地質とダム技術
黒岩明・稻本暁・池田邦彦・緒方信一（中央開発（株））

P2：関東山地北東縁部・吉見變成岩のP-T-t経路

足立達朗（総研大）・岩崎一郎・外田智千・ダニエルJ.ダンクリー

P3：伊豆弧の衝突と丹那断層周辺の変形
木村治夫（産総研）

P4：山梨県早川町新倉周辺の糸魚川-静岡構造線

高橋路輝（株）サンコア）・青野道夫

P5：Magnetotelluric法による房総半島南部の2次元比抵抗構造の推定
原田誠（東海大）・伊勢崎修弘・服部克巳

P6：石灰質ナノ化石からみた房総半島に分布する新第三系（三浦層群相当層）の年代
亀尾浩司（千葉大）・新藤亮太・関根智之

P7：三浦層群三崎層から産出する生痕化石とその特徴

清家一馬（早稲田大）・平野弘道

P8：和泉堆積盆の形成発達過程の復元-和泉山脈の和泉層群北縁相における堆積環境の変遷-

清家一馬（早稲田大）・平野弘道

P9：茨城県大子町周辺に分布する第三系火碎流堆積物の形成メカニズム
成毛志乃（茨城大）

P10：関東に分布する上部鮮新統～下部更新統中の鍵火山灰層-特に中部山岳地域起源ガラス質テフラの識別-

水野清秀（産総研）・田村糸子

P11：東京都杉並・世田谷・大田区地下における第四紀前半のテフラクロノロジーとそれに基づく地質構造
村田昌則（首都大）・鈴木毅彦

P12：5万万分の1地質図幅「青梅」の概要と立川断層の鮮新世以降の活動
植木岳雪（産総研）

P13：関東平野周辺に見られる含カミングトナイトテフラ

中里裕臣（農工研）・中澤努

P14：房総半島の中部更新統藪層下部の花粉化石群集

本郷美佐緒（産総研）

P15：茨城県行方市から発見された足跡化石について

杉田正男・磯貝文男・斎藤尚人・麻生化石研究会

P16：茨城県北西部丘陵に分布する第四系の層序と年代
山家慎之助（茨城大）

P17：関東平野中央部における下総-上総層群境界：越谷GS-KS-1コアでのMIS12層準の特定
中澤努（産総研）・中里裕臣・大嶋秀明・堀内誠示

P18：茨城県行方台地で見出された断層-液状化現象

三谷豊（千葉県立船橋法典高）・下総台地研究グループ

P19：関東平野中央部～東部にみられる中-上部更新統の堆積サイクル：埼玉県東部菖蒲コア、茨城南部谷和原コアの解析
山口正秋（産総研）・納谷友規・本郷美佐緒・水野清秀・中澤努

P20：関東平野中央部の地下水にみられる水質・同位体的異常と断層の関係について
安原正也（産総研）・稻村明彦・林武司・森川徳敏・高橋浩・高橋正明・半田宙子・仲間純子・中村俊夫・太田友子

P21：横須賀の活断層を貫くトンネル先進ボーリング（仮題）
田上雅彦（川崎地質（株））

P22：霞ヶ浦の人為的環境変化の解明-地質学的手法からのアプローチ
納谷友規（産総研）

P23：関東構造盆地東部における後期更新世の海岸平野の成立過程
岡崎浩子（千葉県立中央博）・中里裕臣

研究室紹介

新潟大学理学部地質科学科 構造地質学研究グループ

大橋聖和

新潟大学大学院自然科学研究科
自然構造科学専攻 博士前期課程2年

本研究グループの概要

本学地質科学科には、教育・研究単位としての8つのセミナーが存在し、それらを基軸として複数の研究グループが作られています。そのひとつが今回紹介する「構造地質学研究グループ」です。本研究グループは、豊島剛志准教授と小林健太講師の2名の教員と、修士課程6名、学部卒論生5名の計13名から構成され、脆性・延性領域における断層岩の形成・発達過程と地震との関係、および島弧地殻構成岩石の形成過程、変形・変成作用に関する研究を行っています。

現在の研究地域は、北海道（日高変成帯）、新潟県中越地域（中越地震震源域）、関東MTL、神奈川県西部（神縄-国府津松田断層系）、中部地方（跡津川断層系、阿寺断層系）、中国地方（鳥取県西部地震震源域）、福岡県北西部と日本全国にわたるとともに、南極やペトナム、チベットなど世界にも広がっています。研究対象も下部地殻から地表浅部にまで及んでおり、このような多様性が魅力の一つでもあります。研究内容の詳細については、構造地質学研究グループのホームページをご覧下さい。（<http://geo.sc.niigata-u.ac.jp/~niigatakouzou/>）

豊島剛志 准教授

日高変成帯などの高温型変成帯や花崗岩体に現れている地殻の深部構造や形成過程とともに、延性～脆性～延性遷移領域のマイロナイトやシュードタキライトについての研究を行っています。最近は中越地震に伴った地下水変化と活構造の関係（萩原 厚卒論）についても共同で研究しています。

小林健太 講師

関東山地では、跡倉ナップやMTLをターゲットに脆性断層岩類の研究や構造発達史を議論しています。また、チベットや美濃-丹波-足尾帯などを対象に、付加体中の変形構造も研究しています。近年では、断層内物質の“色”についての研究（三宅卒論）も行っています。



メンバー紹介

大川直樹 (M2) : 小林研究室

神奈川県北西部、丹沢山地で断層岩の変形作用や変質過程について研究しています。丹沢山地では多くのことを学びました。時には自然の美しさ（相模湾や富士山の勇姿は絶景です）、時には恐怖（調査中恐ろしい目に何度も遭遇しました。イノシシや獣犬に追われたときはやられる！と思いました）また、時には丹沢で研究をしている他大学の方々との交流などかけがえのない経験をしました。今後は伊豆衝突帯のテクトニクスを解明することが目標です。

大橋聖和 (M2) : 小林研究室

中部地方の活断層系をターゲットに、マクロからマイクロスケールでの断層幾何学、断層内物質による動的・静的強度弱化プロセス、およびそれらの相互関係と構造発達史について研究しています。最近では付加体中にも同様の現象を求めて模索中です。フィールドでは、数m先に落ちる雷、流される道、熊との遭遇、幽霊の出る宿…等々に悩まされていますが、今年も負けませんし、負けたら終わりです。

播磨雄太 (M2) : 豊島研究室

はるばる北海道からやってきたのは、もう5年前。卒業研究以来、フィールドは北海道、出戻りです。研究テーマは、地殻深部の条件下における変形構造の発達過程を明らかにすることを目的としており、毎年夏には北海道の日高山脈北部で野外調査を行っています。フィールドで得たものは、タフさとお酒への造詣？ 今年は（も）、地質への造詣を深めるために日高を歩きます。

鷲島光志 (M2) : 小林研究室

鳥取県西部地域において低活動性活断層の構造地質学的研究を行っています。「フィールド中は絶対に鬚を剃らない！！」という師匠の調査スタイルを伝承し、実行していたところ、中東系の人へ勘違いされてしまいました。それはさておき、今年も自らの鬚に負けない程「濃い」研究生活を送って行きたいと思います。

坂 啓惟 (M1) : 小林研究室

大阪出身、大学は新潟、フィールドは福岡というように、日本列島を駆け抜けています。旅行が好きで、国内外を旅しました。卒業論文では、福岡県、警固断層のダメージゾーンに発達する脆性断層岩を対象に研究しました。修士では、北九州に分布する他の断層と比較し、発達年代、変質環境について研究していこうと考えています。本年度は、研究で、お酒の席で、充実した日々を送るためがんばります。

萩原知之 (M1) : 豊島研究室

昨年度、卒論では日高変成帯南部幌満川上流地域において、マイロナイトの形成過程やマイロナイトとシュードタキライト形成の関係について取り組みました。修論では、日高変成帯の他の地域に形成したマイロナイトも対象にし、マイロナイト帶の形成や地震発生に至る過程を明らかにすることを目標とし、研究を進めていきたいと思っています。

萩原 厚 (B4) : 豊島研究室

中越地震直後から行われている研究テーマを引き継ぐかたちで、「2004年新潟県中越地震に伴う地下水変化と活構造」と題して卒論を行う事になりました。既に昨年末から3月にかけて雪消井戸地下水の温度、電気伝導度を計測し、サンプルを採取しました。これからは、地震後3年分の地下水温、水質の経年変化を分析する予定です。どのような結果が出るか、楽しみです。

金山健太郎 (B4) : 小林研究室

私は、中越地震を経験して、地震のすごさを知りました。あれから、もう3年。学内で中越地震を経験した最後の学部生となってしまったことに驚きを隠せません。月日が経つのは早いですが、今年一年限られた時間の中で埼玉県のMTL、平井断層を対象とした調査を精一杯頑張りたいと思っています。

院生コーナー

松下 新 (B4) : 小林研究室

卒論のテーマは、「三軸圧縮試験における供試体の表面構造（スリッケンライン等）の観察及びその地質学的意味」です。新潟大の三軸試験機本体の立ち上げも平行して行わなければならぬため、いろいろと大変ですが、今年一年なんとか頑張ります。

三宅克彦 (B4) : 小林研究室

すでに構造研の長老と化した三宅さん。今年は「断層岩に含まれる鉄鉱物と色彩との関係」と題して、特に赤鉄鉱と断層ガウジの色との関係を議論します。夏場の調査が鬼門なので、十分な水分補給が望れます。

野口 優 (B4) : 小林研究室

1995年の兵庫県南部地震をきっかけに、地震に興味を持つようになりました。その志を胸に茨城県取手市から新潟大学へ地質を学びにやってきました。卒業研究では、小林健太先生の研究室でお世話になり、新発田・小出構造線を対象とした調査を行う予定です。調査では、イノシシを倒す裏技を武器に、一生懸命頑張ります。

常時投稿をお待ちしています。院生コーナーの編集は現在以下の3名でおこなっています。原稿はe-mailでいただければ幸いです。

tksmcdr@hiroshima-u.ac.jp

高島千鶴（広島大）

iba@eps.s.u-tokyo.ac.jp

伊庭靖弘（東京大）

s059702@matsu.shimane-u.ac.jp

河野重範（島根大）

院生・学生会員の皆様へ：

札幌大会・懇親会に参加しましょう！

2007年9月9日(日) 18:00～ 北海道大学生協北部食堂

今年から院生・学生会員の懇親会費が2,000円に値下げされました。地球科学を学ぶ学生同士、また学生と研究者・社会人の幅広い交流ができる貴重な場です。

ぜひ懇親会に参加しましょう！懇親会の申し込みは、札幌大会参加申し込みと併せてお願いします。

たくさんの参加お待ちしております！

CALENDAR

2007.6～

地球科学分野に関する研究会、学会、国際会議、などの開催日、会合名、開催学会、開催場所をご案内致します。会員の皆様の情報をお待ちしています。

☆印は、日本地質学会行事。

2007年

6月 June

☆中部支部総会・シンポジウム

6月9日(土) 総会およびシンポジウム
「伊豆弧の衝突と中部日本のテクトニクス」
会場：静岡大学教育学部
6月10日(日) 伊豆半島巡査
問い合わせ：延原尊美
etnobuh@ipc.shizuoka.ac.jp

☆関東支部総会・研究発表会「関東地方の地質」

6月10日(日) 10:00～17:00
会場：早稲田大学国際会議場第1会議室
<http://www.geosociety.jp>

○第21回太平洋学術会議：21st Pacific Science Congress

6月12日(火)～18日(月)
会場：沖縄コンベンションセンター
メインテーマ：「太平洋域における自然と社会の多様性」詳しく述べ：www.psc21.net

○南極研究観測シンポジウム：次世代の南極観測に向けて

6月15日(金)
会場：国立極地研究所6階講堂
申込・問合せ先：
国立極地研究所(担当・田口 真)
TEL: 03-3962-4729 FAX: 03-3962-5742
E-mail: JARE-sympo2007@nipr.ac.jp

○地質学史懇話会

6月16日(土)
会場：北とぴあ 901号室
加藤碩一：宮澤賢治と地質学
大森昌衛：地質学史の年代学
<http://www.geocities.com/jahigeo/jahigeo.html>

○GEOINFORUM-2007第18回日本情報地質学会総会・講演会

6月21日(木)～22日(金)
会場 島根県民会館
<http://www.jsgi.org/>

○日本古生物学会2007年年会・総会

6月29日(金)～7月1日(日)
会場：大阪市立大学
シンポジウム：古生代および中古生代における温室期の地球生物相(29日)
<http://ammo.kueps.kyoto-u.ac.jp/palaeont/meeting-f.html>

7月 July

○Eurasian Geological Seminar 2007-Geodynamic Process of Asia: Its Origin, Crustal Evolution, and Natural Resources Potential-

7月18日(月)～28日(木)
場所：Mongolian University of Sciences and Technology, Ulaanbaatar, MONGOLIA
問い合わせ先：Kazuhiro Tsukada
E-mail:tsukada@num.nagoya-u.ac.jp
Fax: +81-52-7895896

8月 August

○触媒道場

主催 触媒学会
8月6日(月)～8日(水)
場所 公共の宿 山陽ハイツ(岡山県倉敷市)
<http://www.chem.tottori-u.ac.jp/~dojo/>

9月 September

○第15回ゼオライト夏の学校

9月6日(木) 午後～9月8日(土) 午前

会場：東北大学川渡共同セミナーセンター
申込締切 7月31日(火)
<http://res.tagen.tohoku.ac.jp/~katz/school/>

☆日本地質学会第114年学術大会

9月9日(日)～11日(火)
会場 北海道大学(札幌市)
<http://www.geosociety.jp>

10月 October

○第3回国際シンポジウム“東および南アジアの地質学的解剖”(IGCP516)
10月8日(月)～14日(日)
場所：インド・デリー大学
<http://staff.aist.go.jp/hara-hide/igcp516>

11月 November

○第4回“Gondwana to Asia”国際シンポジウム・国際ゴンドワナ研究連合2006年学術大会

11月8日(木)～10日(土)
会場：九州大学・西新プラザ
問い合わせ先：gond-asia@scs.kyushu-u.ac.jp：中野伸彦(九州大学)
<http://www.scs.kyushu-u.ac.jp/earth/2007gond-asia/>

○ロンドン地質学会200年記念式典 (BICENTENARY of the GEOLOGICAL SOCIETY OF LONDON 1807-2007)

11月12(月)～13日(火)
会場：The Geological Society of London, Burlington House, Piccadilly, London
巡査：11月9～11日：the Isle of Wight.
URL：www.geolsoc.org.uk/bicentenary

○第5回火山都市国際会議島原大会

11月19日(月)～23日(金)
会場：島原市・雲仙岳災害記念館・島原復興アリーナ
<http://www.citiesonvolcanoes5.com/jp/>

追悼



新潟大学名誉教授・元関東支部長 青木 滋さんの ご逝去を悼む

当学会の評議員・関東支部長等を歴任された新潟大学名誉教授の青木滋さんが、平成18年11月29日未明に亡くなられました。享年75歳でした。

当夜、お別れに伺いましたところ、穏やかなお顔でした。

平成11年9月6日夜、京王新線新宿駅のホームにて不慮の事故にあわれ、爾来、7年余闘病生活をおこられていきました。しかし、回復することなくついに帰らぬ人となりました。その間、奥様をはじめご家族の皆さんのご苦労は、筆舌に尽くしがたいものがあったものとご推察申しあげます。

平成8年3月新潟大学を退官された後、平成9年5月～11年5月の2年間、当学会の関東支部長として支部活動の発展に努め、私がその後を引き継ぎました。事故当日の午後、今後の支部活動についてご指導をうけるべく、勤務されていた半蔵門の事務所に伺い、事故はその帰路におきました。お元気な姿を見た最後のものとして、この逝去には特別な思いが去来いたします。

青木さんは、東京都中野区のご出身で、昭和28年新制大学第一期生として東京教育大学理学部地学科をご卒業、昭和34年同大学大学院理学研究科博士課程を修了し、理学博士の学位を授与されました。学位論文は「東北地方の第三紀貝化石群の古生態学的研究」で、当時新しい分野の研究として注目されるテーマでした。同年、東京都土木技術研究所に新設された地質係の職員として入都しました。その年の9月、名古屋地方を襲った伊勢湾台風は、名古屋港一帯の家屋を倒壊させただけでなく、5,000人余の死者・行方不明者を出しました。この高潮被害を契機に、東京都は急きょ従来の高潮計画を改定し、広大な“ゼロメートル地帯”が分布する東京湾と隅田川・荒川に囲まれた“江東デルタ地区”について、一帯を取り囲む外郭堤防の敷設を計画しました。青木さんをはじめ、地質係の職員は、港湾地域の外郭堤防建設に伴う地質調査と土質試験を分担し、昭和34年～数年間、連日ボーリング調査と採取試料の土質試験・解析に明け暮れました。青木さんの土質工学に関するゆるぎなき造詣は、この業務をとおして深められたものでした。

また、東京都は、昭和39年の東京オリンピック開催に向けた都市基盤整備として、昭和30年代後半、都内のいたるところで大規模な河川改修・道路拡幅の工事を行いました。これら工事の掘削によって、都内各所に新鮮で壮大な地質露頭が出現し、青木さんと一緒にそれらの露頭を観察した日々が思い出されます。しかし、これらの

掘削工事は、一方では各地に井戸枯れや家屋の被害を頻繁に発生させました。当時、世田谷区・杉並区・練馬区など都心部でも、水道の普及率は極めて低く、多くの家庭は生活用水を井戸水（深さ10m程度の浅井戸）に頼っていました。河川改修の掘削深度が、井戸水帶水層の層準とほぼ一致したため、改修対象の野川・仙川・善福寺川・神田川・石神井川等の周辺一帯では、井戸枯れや井戸水汚濁が頻繁に発生し、大きな社会問題となりました。建設局に所属する土木技術研究所は、これらの被害調査の専従機関となり、地質係の職員は、連日、現場調査に明け暮れました。現場調査を特に重視する青木さんは、現地に出かけたまま、時には数週間、事務所に顔をみせないことも度々でした。これら被害調査の経験をもとに建設局が制定した「工事に伴う環境調査要領」は、現在も東京都が実施する土木工事に伴う環境調査の指導書であり、その中には青木さんの経験が随所に活かされています。

地質・地盤情報のデータ・ベース化と地盤図の作成、島嶼の地下水開発、建設工事に伴う地盤・地下水環境に関する調査手法の確立等、その後における東京都の地盤・地下水の基礎となる数々の成果を残し、昭和45年、新潟大学理学部付属地盤災害研究施設の助教授として東京都を離れました。

新潟大学においても、地盤沈下、地すべり、土石流、地下水等の応用地質に関する分野で活躍され、積雪地域災害研究センター教授・センター長を歴任いたしました。その間、新潟県の地盤沈下防止対策検討委員会、温泉審議会、都市計画地方審議会等の委員、国の科学技術会議専門委員会、環境省地盤沈下研究委員会、日本学術会議地盤環境連絡委員会等の委員を歴任し、専門的立場から適切な指導と助言をされてきました。また、日ごろから土木・建設における地質学と地盤工学との連携を説き、地質学の世界にとどまらず、地盤工学の分野でも地盤工学会副会長・北陸支部長等の要職を歴任されました。

一方、日本地質学会においても、昭和41年度（1966）から昭和42年度（1967）にかけて評議員を1期2年間勤められたほか、平成9年度（1997）から平成11年度（1997）にかけて1期2年間を関東支部長として学会活動に尽力されました。

新潟大学を退官された後、「地盤災害に関する手元の貴重な資料を整理し、今後に役立たせなければ」と話されていた矢先のことでした。このような予期せぬ引き際は、かけがえのない指導者を失った我々はもとより、青木さんご自身にとっても無念であったに違いありません。

生前のご活躍と温容を偲び、残されたものとして些かでもそのご遺志を引き継がなければと思いつつ、追悼の文をしたためた次第です。心からご冥福をお祈りいたします。

なお、奥様（恵美子様）のご住所は下記のとおりです。

〒167-0041 東京都杉並区善福寺1-12-9

(遠藤 翔)

訃報

本会の次の方々が逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

名誉会員 秀 敬（1月6日）
杉山隆二（5月3日）

正会員 曽屋龍典（06年6月7日）
島田昌郎（11月28日）
吾妻 穂（1月5日）

赤嶺秀雄（3月20日）
多井義郎（3月28日）

学 会 記 事

2006年度 第8回理事会 議事録

2007年1月25日

日本地質学会 会長 木村 学

期 日：2007年1月13日（土）

12:00～16:00

場 所：地質学会事務所

出席者：木村会長、伊藤副会長、佃副会長、天野副常務理事・Wallis・上砂・大友・狩野・公文・倉本・高橋・久田・宮下・向山各理事、橋辺（事務局）

欠席理事：渡部常務理事・中山・増田

*成立員数（12/17）に対し、出席者14名、委任状2名、欠席者1名で、理事会は成立。

報 告

1. 運営財政部会（部会長-上砂、中山、向山、大友）

総務委員会（委員長-上砂）

庶務関係（担当理事-上砂）

・【要返事】学術会議地球惑星科学委員会（主催）より、YPEシンポジウム「国際地球惑星年2007-2009」（国際惑星地球年開催宣言式典）（1月22日14時-16時、東京大学理学部1号館、小柴ホール）の協賛依頼がありこれを了承した。出席者：木村会長、佃副会長

・【要返事】日本原子力学会より、原子力総合シンポジウム2007開催（5月末予定）の共催依頼（主催学術会議）、ならびに運営委員の推薦依頼があった。共催負担金5000円。第1回委員会は1月30日。共催を了承し、委員として高橋正樹氏を推薦

・「わが国における海洋研究船のあり方に関する提言（案）→文部科学省宛」（同シンポジウム、ワークショップ世話人）に対するアンケートについては、会長が関係の方々と意見交換を行い、慎重に検討した結果、全面的に賛成との回答をした。（内容についてはメールにて回覧済み）

・学術会議「イノベーション推進委員会」への提案について、同委員会より公表することの諾否等について連絡があった。返事の期限1月15日。→（メール回覧済み）

・科学技術振興機構（JST）より、J-EAST（国内文献の英文化データベース）事業の中止（平成18年度にて終了）に伴い、英文著者抄録の利用許諾の取り扱い変更について通知があった。地質学雑誌、地質学論集が該当するが、これまで年間約3万～4万円であった許諾利用料金収

入はほとんど0となる見込み。

現状：和文抄録の場合、原文のまま、英文は和訳し、和文は英訳して情報提供

変更後：和文抄録は原文のまま、英文抄録の場合本文が日本語以外の場合に限り和訳して情報提供。

- ・第7回子どものためのジオカーニバルの終了報告があった。参加者4000名（前年3300名）。
- ・第3回日本学術振興会賞の決定のお知らせがあった。地学関係の受賞者はなし。
- * UNESCO科学委員会委員の推薦について久田理事より説明を受けた。
- IGCP評価委員会委員の推薦依頼が来ている、3月31日締め切り
- 国際交流委員会で検討し、理事会で承認のうえ、推薦は久田が行う

会員関係（担当理事-中山）

1) 入会の承認

正会員（2名）：高須佳奈、椿原京子

院生割引会員（1名）：西川裕輔

準会員（1名）：坂 啓惟

2) 退会者（正6名）：田中館宏橘、松田あゆり、村田竹外、三浦三郎、長野正寛、遠藤満久

3) 逝去者（名誉1名、正1名）：秀 敬（1月6日）、島田昌郎（11月28日）

4) 12月末現在会員数

賛助34、名誉75、正4481（内、291院割）、学生42、合計名 4,632（昨年比 -139）

●2007年問題も含めて、会員の減少については会員委員会で対策を検討中。

*会員の逝去時などを含め、緊急時の対応のための連絡網（携帯電話）を作る必要があるとして、事務局で作成することとした。

地球惑星科学連合（久田連絡委員）

・学術会議地球惑星科学委員会地球惑星圈分科会では、地球惑星科学振興のための将来構想を検討しており、連合加盟の各学会に対して、将来構想、今後推進すべき課題に関する提案や声明についてのアンケート依頼があった。アンケートの締め切りは2月20日。

●研究企画委員会のまとめ、ビジョン委員会報告などを提出する。

・連合財務委員会の七山委員より、委員会の報告があった。特に話題となった点については次のとおりである。

連合の財政は辛うじて健全ではあるが、連合大会の参加費・投稿料などから賄われている現状では、将来的には不安定。特に下記の3課題実施のためには、連合の構成員である学協会が主体的な財政貢献をし、財政の基盤部分を確保する

仕組みの構築が必要。

1) 事務局の仕事量増加に伴う人件費の増加、2) 国際化対応のwebの改良、3) EGUと強調し国際誌の発行

学術会議関係報告（木村会長=連携会員）

- 昨年末より活動が開始された。
- 下からの提案を積極的にする必要がある。地質学会としても積極的に提言をする。

会計関係（担当理事-向山）

・一般会計状況について、順調であることが報告された。

・拡大インターネット・情報化合同委員会開催の経費について検討し、次の支出を行った。委員会の宿泊費の支出（旅費=20000円、宿代=約25000円、プラス会議費若干）

・会員から、シニア会費の制度について検討の要望があり、今後の検討課題とした。

・IUGS奈良会議に対し、支援補助金として20万円の支出をした。

・編集用のパソコンおよび周辺ソフトの更新をした。リース料金はこれまでより多少アップ。

・旧構造地質研究会の資金の移管について今年度中に移管するとの連絡があった（280万円）

●寄付金として受け入れ、引当金（構造地質部会）とし、予算に応じて使用することとした。数年様子を見てあまり長引かないようしたい。

・恒常的な寄付受け入れ制度について検討を開始する。

広報委員会（担当理事-大友）

インターネット運営小委員会（担当理事-坂口）

・拡大インターネット・情報化合同委員会を13日夕方から14日にかけて開催する。

2. 学術研究部会（部会長-久田、公文、増田）

行事委員会（久田委員長）

・講演要旨集のCD-ROM化についてメール審議の結果、冊子体の廃止については反対が多くあった。冊子と共にCDもあればよいとの意見もあった。

・2007年の総会の日程：5月20日（日）17:00～19:00で会場の申し込みを行った。

3. 編集出版部会（部会長-狩野、久田、宮下、Wallis）

地質学雑誌編集委員会（委員長-狩野 副委員長-久田、宮下=企画担当）

・今月の編集状況は以下の通りです（12月11現在）。

113-1：論1・短報3・ノート1・討論

2・口絵1. (40p) 校正中
113-2: 入稿準備中
・2006年度投稿論文総数102編 [論説70
(和文63・欧文7), 総説4 (和文4),
ノート3 (和文2・欧文1), 短報21
(和文21), 討論4 (和文4),] 口絵9
(和文5・欧文4)
投稿数昨年比 +17 査読中46編
特集号: 紀伊半島が進行中
・電子投稿システムの本運用を開始し, 学会HPにて画面を公開した. 現在, 1編
が査読中.

Island arc編集委員会 (担当理事-Wallis,
事務局長-竹内圭史・角替敏昭)

A. 編集状況
年間540 (~576) p
16巻1号Pictorial 1編, 宮崎特集論文
6編, 一般10編, 訂正1p, 計193p
見込み.
18年度では計画540pの20-25p減程度
を見込む.
2号 [06-01] Kuzumichev et al.
13p
[06-0022] Fukunari & Wallis:
LAR 570 19p
[05-19] Yun et al.
3号 (5月受理の特集が入る予定)

B. オンライン投稿
9ヶ月で投稿32編 (論文31口絵1) あり
好調. 藤岡特集及び板谷特集の投稿が始
まった. 受理3編 (論文2口絵1). 18編
が査読/再査読結果著者戻し (うちリジ
クト3編, うち2編は既掲載論文の再投
稿), 11編が査読/再査読中.
システムへの登録: 著者109名+査読者
64名+編集関係者63名. AE・EAB 53名
のうちオンライン編集経験済み30名

C. Island Arc賞選考作業
投票締め切りはすぎたが, まだ十分な返
答は届いていない.
投票期間を1月末まで延長し, EABメ
ンバーに催促のメールをだした.

D. その他
・オフィオライト特集は, ダウンロードが
多く利用されている.
・インパクトファクターは昨年を越えそ
うである.

Island arc連絡調整委員会 (委員長-会田,
担当理事-Wallis)
・科研費状況報告書を提出した. 発行状況
は順調.
現在までの発行ページ数
15巻4号まで342p. うち原著319p.
年度末発行予定ページ数
16巻1号まで534p. うち原著508p.
企画出版委員会 (担当理事-高橋)
・国立公園地質リーフレットの出版 (子
ども向け箱根火山 (学校教育版リーフ
レットNO.1・一般向け箱根火山) に
ついては, 年度内に原稿完成させる予

定である.
頒布等についても地域とタイアップし
て行けるよう, 神奈川県博・湿地研・
上杉会員等に作成の協力を得た. 第
二弾としては「上高地」を検討してい
る.

4. 普及教育事業部会 (部会長-高橋, 倉本)
地層名委員会 (委員長-天野)
・天野がIUGS奈良会議 (1月16日~)
に出席予定

5. その他
ジオパーク推進委員会 (担当理事, 値委員
長)
・1月15日に委員会を開催予定.

【以下, 評議員会の下の委員会】
法務委員会 (担当理事: 委員長-上砂)
・地質学会プライバシーポリシー策定につ
いて法務委員会を1月23日に地質学会事
務局で開催する.

選挙管理委員会 (委員長-閔 陽児)
・評議員選出のための投票が12月15日で終
了し, 12月18日に選挙管理委員会を開催
し, 開票した. (投票結果は別紙参照)
・理事選挙の立候補受付締め切りを1月12
日として, 新選出代議員に広報した.
15日以後, 理事立候補者の確認と投票準
備, 理事選挙投票終了後は評議員選出の
ための選挙管理委員会を開催し, 1月30
日までにすべての役員選出を終了する予
定.

○審議事項

1. 日韓交流および国際交流委員会について
(公文国際交流特任理事担当)
・日韓交流については, ニュース誌に公
表し, 2月15日締め切りで委員募集を
おこない, WG (3月理事会で承認)
を発足させる.
・ISLAND ARCと韓国地質学会国際誌と
の情報交換についても検討する.
・次回AOGS (2008) の開催国は韓国. 連
携を組む必要あり.
・ソウル大学留学生 (日本人) の協力申し
入れあり. 日本の若手との連携担当者と
なる可能性あり.
・タイ地質学会との関連 (AOGS)
・AOGSでのプレゼンス.
・公文が原案を次の理事会までに作成す
る.
・国際交流の戦略を委員会で検討するた
め, 国際交流委員会の強化をはかる.
・学会会員が関与しているアジアの仕事
についての情報を集約して紹介する必
要もある.

2. 札幌大会および秋田大会について
・札幌大会
(1) 組織体制
・理事会内に推進委員会
メンバーア:

4役+行事委員長+会計担当理事+地
学教育担当+地質情報展担当者+本部
事務局

・会合はMLで行う.

(2) 実務的準備

【予稿集】札幌大会では冊子体とし, CDは作
製しない. なお, CDの作製については今後
の実現にむけて情報強化委員会での検討を継
続する.

【札幌マラソン対策】日程 (9/9) がバッティ
ングしているので, 宿泊については早めの予
約が必要であることを会員に宣伝する. 非常
用として大学の宿泊施設を確保する.

【情報サービス】行事委員会からとして, 活
用できるメーリングリストを使って準備関連
情報を会員に流す.

【巡査案内書】札幌大会からは冊子体を作ら
ず, CD版のみを作成し, 12月号の付録とし
て全会員に配布する. 案内には班ごとにプリ
ントアウトして利用する.

(3) 就職支援

- ・原案作成のWGを作る (向山: 責任者,
上砂, 荒戸)
- ・原案は2月理事会で承認.

(4) 学校教育関係

- ・次年度の新理事が決まつたらできるだけ
早く担当候補者との引継ぎを行い, 地学
教育委員会, 実行委員会と連携して具体
的な検討に入る.

(5) alumni

- ・具体的に幾つかの大学に呼びかけを行
い, 他大学にも参加を呼びかける
(ニュース誌とメーリングリスト)
東北大, 広島大, 新潟大, 千葉大, 東大,
京都大, 九州大, 旧東京教育大, 筑波大,
北大, 名古屋, 秋田大など.

(6) 地質情報展

- ・連絡窓口: 斎藤眞

(7) 公開市民シンポジウム「地質で町おこ
し-ジオパークの試み」

- ・連絡窓口: 渡辺真人

●秋田大会

- ・岩鉱関係と早急に連絡を取り, 日程等の
確認と調整をする必要あり. その上で,
準備委員会にミッションの派遣をし, 3
月までにはコンタクトを取る必要があ
る.

2006年度 第9回理事会 議事録

2007年2月26日

日本地質学会 会長 木村 学

期日: 2007年2月10日 (土)

12:00~17:30

場所: 地質学会事務所

出席者: 木村会長, 仙副会長, 渡部常務理事

(早退2時半)・天野副常務理事(2時半出席)・上砂・大友・公文・倉本・中山・久田・宮下・向山 各理事、橋辺(事務局)
欠席理事:伊藤副会長, Wallis・狩野・高橋・増田
*成立員数(12/17)に対し、出席者12名、委任状4名、欠席者1名で、理事会は成立。

報告

1. 運営財政部会(部会長-上砂、中山、向山、大友)
総務委員会(委員長-上砂)
庶務関係(担当理事-上砂)
・GUPIより、GEOFORUM-3「地域観光資源とビジター産業」(2月3日11時から、東洋大学)の協賛依頼があった。依頼文書の不備等で多少異論もあったが、協賛を承諾した。
・田崎評議員より、ユネスコとIGCPの新しい方針「水」についてさまざまな「水」を研究している分野の方々に転送をとの依頼があり、環境地質部会へ検討依頼の連絡をした。
・水環境学会から年会(3月15日-17日、大阪産業大学)の案内があり、会員への情報提供としてHPおよびNewsに掲載した。
・UNESCO科学委員会委員の推薦について→公文理事から候補者→久田理事から推薦
次回理事会に提案の予定。

会員関係(担当理事-中山)

1) 入会の承認(ただし、入会年度は本人の希望により振り分ける。)

正会員(4名):加藤千茶子 友澤 悟
Kim Ji Young 洪 景鵬

院生割引会員(1名):芦萱 亮

準会員(3名):宮田真也 半田直人 小久保晋一

2) 1月末現在会員数

賛助34、名誉74、正4483(内、291院割)、学生42、合計名 4,633(昨年比 -138)

3) 1月24日、運営財政部会を開催し、2007年以降の会員減少問題について、会員種別と会費制度、専門家以外の一般趣味人、青少年など底辺拡大のための支部活動の活発化、賛助会員の増加など、今後の対策等について意見を交わした。

会員離れ傾向の実情調査の一環として、今年度末で退会予定の会員(現在70名程度)にたいし、簡単なアンケートを実施した。

地球惑星科学連合(久田連絡委員)

・学術会議地球惑星科学委員会地球惑星圈分科会では、地球惑星科学振興のための将来構想を検討しており、連合加盟の各学会に対して、将来構想、今後推進すべき課題に関する提案や声明についてのアンケートに対し、2002年の研究企画委員会報告ならびに2005年中期ビジョン委員

会の提言を送付した。

会計関係(担当理事-向山)

・旧構造地質研究会から残余資金の移管があった(280万円)。引当金の新設。
・産総研との共同研究契約について:来年度も引き続き契約することとした。
・奈良県の崩落事故調査団に対し、調査費(主に交通費)を支出した。

広報委員会(担当理事-大友)

ニュース誌編集小委員会(担当理事-大友)
・ニュース誌写真の投稿規程(案)について

インターネット運営小委員会(委員長-坂口有人)
・日本地質学会ホームページへの投稿規定(案)について

・拡大インターネット・情報化合同委員会(1月13、14日)報告。
HPのリニューアルについて

2. 学術研究部会(部会長-久田、公文、増田)

行事委員会(久田委員長)

1) 札幌大会関連

・発表申込みおよび参加登録申込みシステムについて、オンライン化委員会に検討を依頼した。
・北海道マラソン(9/9開催)に関連し、参加準備を促進するため、一部の予告記事を前倒しでおこなう。発表申し込み等は除いて、早めに旅行プランが立てられるような予告記事を4月号に掲載する。
・見学旅行案内書冊子版の発行の可能性について

当初の取り決めどおり、発行はCD-ROM版のみとし、冊子版の希望者が出了場合には、会場内にパソコン、プリンターの設置をして要望に応えられる準備をすること、また、外注によって簡易冊子の作成手配ができるよう、準備委員会と相談のうえ、配慮することを検討する。

2) 秋田大会の日程等については、現在のところ確定の報告はない。鉱物科学会関係者との話し合いも未定。久田、大友両理事が東北支部会に折に出席して話し合いを予定する。

国際交流委員会(公文 国際特任理事)

・日韓交流委員会委員の選出
2月22締め切りで委員の推薦を受ける。現在若干名あり。
・タイ地質学会会長(Mr. Araya Nakhonart、チュラロンコン大学)からの招待状

08年の同上大学地質学科の50周年記念シンポジウムへの地質学会会長の出席など、タイ地質学会との連携を目指す。公文理事からタイ地質学会に返事をだす。

3. 編集出版部会(部会長-狩野、久田、宮下、Wallis)

地質学雑誌編集委員会(委員長-狩野 副

委員長-久田、宮下=企画担当)

・今月の編集状況は以下の通りです(2月9日現在)。

113-2:論説2・短報1・ノート1・口絵1(40p)校正中

113-3:口絵1。ほか未定。

・2007年度投稿論文総数7編[論説3(和文3), 総説1(和文1), 短報3(和文3),]口絵1(和文1)※うち6件が電子投稿

投稿数昨年比 -4 査読中45編

・紀伊半島特集号は全9件のうち5件が受理、残り4件査読中。

・電子投稿システムの本運用の状況:概ね順調に運用されている。利用した査読者からいくつか軽微な指摘があり、対応できるものから順にJ-STAGE側に依頼し改善した。

Island arc編集委員会(担当理事-Wallis、事務局長-竹内圭史・角替敏昭)

1) 編集事務局に関する産総研との共同研究契約について、19年度も継続して契約をすることを理事会に要望した。

2) 2) 編集状況

・2007年間576(～最大620p)

・16巻1号Pictorial 1編、宮崎特集論文6編、一般8編、訂正1p、計209p見込み。18年度では計画540pに対し536p。

ページ数調整のため2編29pを2号に送った。

2号 受理原稿は一般4編(約62)p。もう2編ほど見込む。入稿期限は3月下旬。

3号 (5月受理の特集が入る予定)

・特集 藤岡特集:論文17編、うち8編受付済み。5月末時点の受理原稿で特集を編成し3号に掲載する。

板谷特集:論文13編、うち1編受付済み。

3) オンライン投稿

10ヶ月半で投稿43編(論文42口絵1)あり好調。1月に藤岡特集の投稿が始まった。

12編が査読/再査読結果著者戻し、21編が査読/再査読中。受付中4編。

システムへの登録:総数283名。著者138名+査読者74名+編集関係者67名(うちGuest Editor 3名)。AE・EAB 54名のうちオンライン編集経験済み30名

4) Online Early

16巻2号よりブラックウェル社WEBでの先行掲載を開始する。16巻1号から実施するよう交渉中。

Island arc連絡調整委員会(委員長-会田、担当理事-Wallis)

・科研費対策について2月5日に、竹内・角皆両編集事務局長、会田、橋辺で話し合った。

4. 普及教育事業部会(部会長-高橋、倉本)
地学教育委員会(委員長-阿部国広)

- ・連合に国際地学オリンピック対策委員会が設置され、2月1日、第1回の会合に阿部が参加した。なお、同委員会の副委員長として、地質学会からの委員推挙の要請があり、地学教育委員会としては、理事会の承認を得て久田理事を推挙した。
- *理事会として、久田理事の推挙を承認した。
- ・地球惑星科学連合「教育問題検討委員会」

5. その他

地質災害委員会（担当理事-天野）

- ・1月30日に発生した奈良県上北山村、国道169号線における岩石崩落事故に対し、応用地質学会関西支部と合同調査団を設置し、2月6日に現地調査を行った。調査団長は、千木良雅弘氏（応用地質学会関西支部長）、地質学会からは近畿支部の三田村宗樹氏（地質災害委員）と天野（地質災害委員長）、応用地質学会から藤田崇氏ほか3名が参加し、土木学会からも3名の参加があり、総勢9名の調査団となった。正式な調査報告は、おつてまとめる予定。
- ・緊急災害時における報道関係からの質問等に対しては、今後、支部単位で窓口担当者（複数）を指名し、対応に備えることとした、支部長に依頼中である。

ジオパーク推進委員会（担当理事、佃委員長）

- ・委員会開催（1月15日）報告。札幌大会、合同大会でシンポジウムを行う。委員会を他学会にも拡大することなどを検討している。

【以下、評議員会の下の委員会】

法務委員会（担当理事：委員長-上砂）

- ・平成18年12月19日に理事会から依頼の「日本地質学会プライバシーポリシー」（案）を策定するため1月23日に法務委員会を開催した。各学会のプライバシーポリシーを参考に、個人情報の保護に関する法律に沿って、地質学会のプライバシーポリシーの原案を作成し、メール会議などをを利用して別紙答申案を作成した。
- ・倫理規定策定委員会（委員長-松本 良）

オンライン化委員会（委員長-齊藤 真）

- ・札幌大会の発表申込みおよび参加登録申込みシステムについて検討し、行事委員会に答申した。

選挙管理委員会（委員長-閑 陽児）

- ・理事選挙の立候補者は7名で、定数どおりであったため全員を無投票当選とした。
- ・理事選出者を除く全国区の代議員から、得票順に階層別、支部などを考慮して40

名の評議員を選出した。

- ・選挙結果報告は、News誌2月号およびHPに掲載。

6. 4役会議審議内容

- ・08年度からの新任理事も決まったことで、次期の理事会構成について話し合った。
- ・札幌大会について、特に見学旅行案内書の冊子版について、札幌の担当者から出された要望について検討した。
- ・タイ地質学会との交流について
- ・地質学雑誌の出版形態の検討について
- ・HPのリニューアル関連

○審議事項

1. 科研費審査委員候補者の推薦について
 - ・理事のなかから推薦条件に適う10名程度の推薦を行うこととした。
2. 各賞選考委員会の下の選考検討委員会委員選出の件
 - ・小畠正明会員および松本 良会員を理事会推薦委員とすることとした。
3. 発表申込みおよび参加登録申込みシステムについて
 - ・講演申し込み→J-STAGEを使用する。
 - ・参加登録・巡検・懇親会等→近畿ツーリストのシステムを使用する。なお、事前登録と当日支払いの間の料金設定について、運営財政部会で早急に検討することとした。

4. 地質学会プライバシーポリシー（案）について
 - ・個人情報保護に関連し、会員名簿の作成等などで必要とされる、地質学会プライバシーポリシーの作成について、理事会から法務委員会に依頼した。それを受けた、法務委員会で検討した結果が答申された。
 - ・法務委員会の案について意見交換をした。これを受けた法務委員会は、3月の理事会までに最終答申を提示する。
 - ・評議員会で最終答申を審議し、総会で承認を受けることとする。

5. ニュース誌写真の投稿規程（案）、ホームページへの投稿規定（案）について
 - ・ニュース誌表紙写真の投稿規程が広報委員会より提示され、承認された。
 - ・ホームページへの投稿規程が広報委員会より提示され、承認された。

6. ホームページのリニューアルについて
 - ・メルマガ発行を承認した（2週間に1回）。4月より実施することとした。配信先については、専門部会、代議員、支部を通して名簿を作成することとした。
 - ・3月の理事会にウェブサイトの基本構造についてインターネット委員会より提案してもらい、具体的な検討することとした。

7. 地質学雑誌の発行改善について（宮下理事提案）

原稿不足により、自転車操業的な発行が改善されない状態が続いている。現在の論文投稿状況、若手研究者の研究環境からみて、今後改善するとは期待できない状況にある。

発行回数の維持、雑誌の性格、会員へのサービスなど、様々な問題点について意見交換した。評議員会等での十分な議論、会員への広報などが必要であり、理事会としても更に議論を深めることとし、継続審議とした。

8. その他

- 1) 次回（4月7日）評議員会議題
 - ・日本地質学会プライバシーポリシー
 - ・2006年度決算（案）および2007年度予算（案）
 - ・ホームページのリニューアル
 - ・地質学雑誌の出版について
 - ・各賞選考結果について
 - ・名誉会員候補者の推薦
 - ・その他

2006年度 第10回理事会 議事録

2007年3月27日

日本地質学会 会長 木村 学

期 日：2007年3月10日（土）

12:00～17:45

場 所：地質学会事務所

出席者：木村会長、伊藤副会長、佃副会長、天野副常務理事・上砂・Wallis・大友・狩野・公文・高橋・久田・宮下・向山 各理事、橋辺（事務局）

欠席理事：渡部常務理事・倉本・中山・増田
＊成立員数（12/17）に対し、出席者13名、委任状2名、欠席者2名で、理事会は成立。

報 告

1. 運営財政部会（部会長-上砂、中山、向山、大友）
総務委員会（委員長-上砂）
庶務関係（担当理事-上砂）
 - ・UNESCO科学委員会委員の推薦について、広く募集の呼びかけをおこなったところ、仲谷英夫会員、井内美郎会員の応募があり、久田理事から国内委員会へ推薦した。
 - ・以下のアンケートに応えた。
- 2) 学術会議：学協会の機能強化方策検討のための学術団体調査に回答
- 3) 筑波大学人文社会科学研究所文部科学省特別推進G：社会団体に関する特別調査に回答
- 4) 科学技術振興機構：会議開催予定、発行刊行物に関する調査に回答
- 5) 全地連より、土本地質団の新名称についてのアンケートがあり、応用地質部会、横田部会長の意見を参考に回答した。地

- 質学会としては、候補名称の「工学地質図」を支持した。
- ・科研費審査委員候補者データベース登録者の推薦については、下記のとおり推薦した。
天野一男, WALLIS Simon, 大友幸子, 狩野謙一, 倉本真一, 佃 栄吉, 久田健一郎, 藤本光一郎, 渡部芳夫(以上 9名)
 - ・学術会議IGU分科会より、国際地理学連合(IGU)の役員会開催に伴うレセプションへの出席要請があった。4月6日(金) 18:30より
 - ・日本粘土学会、第51回粘土科学討論会(9月12-14日)の共催依頼があり、例年通り承諾し、→news誌、HPに掲載
 - ・産総研と平成19年度の共同研究の継続契約を2月26日付で交わした。
研究課題：地質科学分野におけるオンライン化の将来動向に関する研究
研究費：H19年度分￥1,299,500(産総研規定の管理費を除く113万円全額を人件費に充当)
 - ・学術振興会より、平成20年度の特別研究員募集案内があった。→news誌、HPに掲載
・BP社より、2月2日にWiley社との合併が承認されたとの報告があった。
<外部の賞>
 - ・東レ科学振興会：18年度各賞の授賞式への招待 3月19日(月)→欠席
 - ・東レ科学振興会：19年度各賞の募集概要→HPに掲載
 - ・日本発明協会：19年度地方発明賞の募集案内 9日(月)

会員関係(担当理事-中山)

- 1) 入会の承認(ただし、入会年度は本人の希望により振り分ける。)
正会員(1名)：佐藤 明
院生割引会員(3名)：佐々木陵多 高橋 健一 入江美沙
- 2) 退会者(79名、3月末で退会)：青木 和子, 秋元 梓, 熱田雅信, 安彦宏人, 新井 徹, 安斎正人, 安藤善之, 飯泉克典, 家永浩平, 石橋 澄, 市川暢子, 出澤 茂, 伊藤通玄, 伊藤通義, 井上多津男, 井上友博, 井上陽一, 入佐純治, 岩田圭示, 岩根定晴, 鵜飼宏明, 内瀬戸信彦, 圓藤弘典, 尾芦裕子, 小野 洋, 小幡真弓, 加藤信一, 加藤法彦, 金山憲勇, 河原大輔, 菊地喜雄, 本田昌宏, 木谷清一, 栗谷将晴, 黒川 明, 黒川 将, 坂井栄信, 佐藤幸二, 島内哲哉, 島木健哉, 小豆政直, 杉山茂夫, 鈴木隆介, 鈴木雅博, 鈴木正哉, 瀬谷正巳, 添田雄二, 曽根大貴, 曽武川博道, 多井義郎, 高階義大, 高貫潤一, 高橋興世, 武居由之, 竹村貴人, 田中真治, 田中 尚, 田中芳則, 千葉 努, 円谷博明, 寺平 宏, 陶野郁雄, 富田克敏, 能田 成, 橋本義之, 早坂祥三, 林 衛, 原 衛, 針生真也,

広渡文利, 藤本善航, 松隈明彦, 松下芳浩, 宮下 治, 山田 晃, 山田正春, 山中寿朗, 山本和幸, 渡部 晟

- 3) 2月末現在会員数
賛助34, 名誉74, 正4482(内, 291院割), 学生44, 合計名 4,634(昨年比 -132)
- 4) 2月22日, 運営財政部会(会員)を開催し, 今後の会員増に資するため, 過去数年の入会状況について調査した。
4月の理事会で会員増加対策の原案を提示し, 検討する。

関連学会連合(担当理事-天野)

- ・地理関連学会連合
総会(3月19日(月)12時から)への出席要請があり, 天野理事が出席する。

地球惑星科学連合(久田連絡委員)

- ・地惑連合：国際地学オリンピック小委員会(久田委員) 報告
日本は第3回から参加する方向で検討する, 事務局の設置が課題, 本年韓国(第1回開催)での予備的な話し合いに熊野委員長と久田が出席する予定, 国内のサポート体制構築が重要である。

学術会議関係報告(木村会長=連携会員)

- ・IUGS分科会を申請中。
- ・地球惑星分科会：大学へのアンケート, 学協会の機能強化方策検討ためのアンケート実施。今後,これをもとに検討する。
- ・IGCP国内委員会(2/27)開催：委員長は土隆一氏から波田重熙氏に交代, 幹事は斎藤文紀氏となった。

会計関係(担当理事-向山)

- ・06年決算予想, 07年予算案について検討。06年決算予想では会費収入がかなり下回っている。07年度予算案は昨年度とほぼ同規模。
年度内の事業として箱根のリーフレットなどを見積もり予定。
- ・札幌大会の参加登録費などの個人費用負担について, 高知大会の反省を踏まえて検討した。

広報委員会(担当理事-大友)

インターネット運営小委員会(委員長-坂口有人)

ホームページのリニューアル(案)について検討結果の詳細が報告された。

基本的な構造は以下のようにする。

- ・システムの問題：フレーム構造をやめる
- ・担当管理者パスワードの問題：パスワードの共有をなくす。
- ・レイアウト, デザイン, コンテンツ情報は別にする(XHTML方式にする)
- ・サーバー⇒ サイト用データベース, 会員管理システム, メール(メルマガ) + 支部・部会データ,

・支部・部会管理者, 事務局・インターネット委員会がブラウザで管理コンテンツについて,これまでの検討内容の紹介があり, 会員にとって, また, 外部からの訪問者にとって魅力あるホームページになるよう, 内容を検討したことであった。

2. 学術研究部会(部会長-久田, 公文, 増田)

行事委員会(久田委員長)

- 1) 札幌大会関連
・就職活動支援プログラム案について向山委員から説明された。
開催日：9月8日(土), 午後に実施。
会場：北大内, 北大のキャリアセンターの支援を得る努力が必要。
協力：全地連の協力を得る。実施内容案を提示し, 担当者とすり合わせを行う。
参加社：地質学会賛助会員, 全地連加盟企業, 資源・エネルギー関係企業にも連絡。
- 2) Almuni(同窓会)の準備委員会よりの開催案については, 概ね了承されたが, 会費等について多少議論があり, 伊藤理事が準備委員会や北大生協との話しをつめることとした。
9月9日20:00-21:00(懇親会終了後)に実施する。
- 3) 準備委員会から, 見学旅行案内書の冊子作成について文書による要望が寄せられた。

前回の理事会で, 見学旅行案内書は地質学雑誌の補遺としてCD-ROM版の発行のみに限定したが, 札幌の準備委員会から, 冊子での発行を強く希望するとの要望書が寄せられた。これについて再度検討し, 今年度は高知大会並みの白黒版で500部を印刷することとした。経費的にはかなり厳しいので, 赤字を出さぬよう, 準備委員会としても販売努力をしてもらうよう要請することとした。昨年同様, 事前予約販売とする。

また, 編集に際しては, 露頭には, GPS情報を入れるよう要望する。編集・査読体制については, 昨年通りとする。

・地質情報展

9月7, 8, 9日に北大で実施する。全地連6, 7日開催から連続の行事となるのでジオウイークの設定や, 札幌駅のコンコースに案内等を出すことも検討してはどうか。

2) 秋田大会

- ・久田行事委員長が東北支部例会(17, 18日)の機会に説明に行くことを伝えた。東北支部総会(秋田大)に久田, 大友が参加して, 説明する。
- ・新学会, 鉱物科学会との連携開催について, 具体的な意見を交換していく。

専門部会連絡委員会

国際交流委員会(公文 国際特任理事)

- ・IGCP委員に仲谷英夫会員、井内美郎会員を推薦する。
- ・韓国地質学会総会の招待について、会長に代わり佃副会長の出席を要請。
- ・今後の交流の日韓窓口メンバーを提示する。

地質環境の長期安定性に関する委員会（委員長・吉田英一）

- ・札幌大会でシンポジウムを企画している。

3. 編集出版部会（部会長・狩野、久田、宮下、Wallis）

地質学雑誌編集委員会（委員長・狩野 副委員長・久田、宮下=企画担当）

- ・今月の編集状況は以下の通りです（3月9日現在）。

113-3：論説3・短報1・口絵1（約50p校正中）

113-4：論説3（約40-45p）ほか未定（入稿準備中）

2007年度投稿論文総数10編〔論説5（和文5）、総説1（和文1）、短報4（和文4）〕口絵1（和文1）※うち7件が電子投稿

投稿数昨年比 -4 査読中34編

- ・紀伊半島特集号は全9件のうち6件が受理。残り3件査読中。

Island arc編集委員会（担当理事-Wallis、事務局長-竹内圭史・角替敏昭）

【編集状況】

3月9日現在のIAR関係の各種状況

1. 編集状況

2007年16巻の年間契約ページ数576（～最大620）p

1号 Pictorial 1編、宮崎特集論文6編79p、一般8編127p、訂正1p、口絵3p 計209p見込み。

18年度では計画540pに対し536p。ページ数調整のため2編29pを2号に送った。

2号 一般7編106p予定。もう1編追加も検討。入稿期限は3月23日。

3号 一般2編30p、5月末受付。フィリピン海特集9-10編135pが入る予定。入稿期限は6月末。（一般分を2号4号に振り分けるか）

4号：一般6編90p+Index等2p総計572p

2. 特集 フィリピン海特集：論文17編、受付済み12編のうち筆頭藤岡3編を除く9編を査読中。

5月末時点の受付相当原稿で特集を編成し3号に掲載する。

板谷特集：論文13編前後、うち2編受付済み。08年1号見込み。

久田より特集の打診あり

3. オンライン投稿

07年2ヶ月余で投稿23編（うち特集12編）あり好調を維持。

12編が査読／再査読結果著者戻し、21編が査読／再査読中。受付中4編。システムへの登録：総数330名。著者175名+査読者88名+編集関係者67名（うちGuest Editor 5名）。

4. Island Arc Awardについて

選考検討委員会において候補者を決定し、選考委員会に報告した。

4. 普及教育事業部会（部会長・高橋、倉本）地学教育委員会（委員長・阿部国広）箱根の国立公園リーフレットは、今年度の予算で出版することで準備を急いでいる。

・地球惑星科学連合「教育問題検討委員会」

5. その他

ジオパーク推進委員会（担当理事、佃委員長）第4回ジオパーク推進委員会の報告。

【以下、評議員会の下の委員会】

名誉会員推薦委員会（伊藤副会長）

・1月末推薦締め切りの名誉会員候補推薦者の審議を開始した。

各賞選考委員会（委員長・酒井治孝）

・1月末に推薦を締め切り、各賞選考を開始した。

・地質学会賞、国際賞、小澤賞、櫛山賞の推薦があり、選考検討委員会を設置し諮問した。同委員会委員長は互選により木村会長となった。

委員氏名：木村学、齋藤靖二、加々美寛雄、鈴木和博、嶋本利彦、平朝彦、小川勇二郎、巽好幸、渡部芳夫、狩野謙一、石渡明、WALLIS Simon、小畠正明、松本良

法人化実行委員会（委員長・齊藤靖二）

・齋藤委員長からの報告を木村会長が説明した。（→木村会長）

法務委員会（担当理事：委員長・上砂）

・「日本地質学会プライバシーポリシー」（案）の修正について、メール会議などをを利用して検討し、答申の最終案を作成した。

6. 4役会議審議内容

1) 札幌大会について、同窓会、見学旅行案内書、就職支援、その他

2) Island Arc二重投稿問題について

○審議事項

1. 総会議案について

議案は原案通り了承された。news誌3月号に開催を会告、議案を掲載、議案の内容がまとまれば4月号に掲載。議案は原案通り

2. 新評議員会の開催について

日時：5月20日（日）19:00から約1時間（総会終了直後）

議題：議長の選出、各賞選考委員の選出（半数改選）

会場は総会会場を予定。

3. 札幌大会の参加登録費等の設定について
年会運営費の要となる参加登録費については、事前申し込みと当日参加、会員と非会員の差をはっきりさせ、会員であることのメリットが感得できるよう配慮した。以下の金額を了承した。

参加登録費：正会員=7,500（9,500）、院生割引=4,500（6,500）、名誉会員=500（500）、50年会員500（500）、準会員（非会員学部）=500（500）、非会員一般（院生含）=12,000（15,000）

予稿集別売り代：正会員=3,000（4,000）、院生割引=3,000（4,000）、名誉会員=3,000（4,000）、50年会員3,000（4,000）、準会員（非会員学部）=3,000（4,000）、非会員一般（院生含）=4,000（5,000）
懇親会：正会員=5,500（6,500）、院生割引=2,000（3,000）、名誉会員=2,000（3,000）、50年会員2,000（3,000）、準会員（非会員学部）=2,000（3,000）、非会員一般（院生含）=5,500（6,500）

※（）は当日支払い。単位は円。

4. 地質学会プライバシーポリシーについて
法務委員会からの最終答申については、理事会として承認。評議員会に議題として提出する。

5. ホームページのリニューアル（案）について

・ホームページリニューアル版構築費として一部費用を今年度予算から支出する。
・STLive社 C案（146万円）あるいはD案（169万円）を導入することとし、詳細は委員長が業者と具体的に交渉する。
・会員の情報の登録、修正や閲覧を、会員がHPを通じて行うということについては、総務部会（会員、会計）で早急に検討する。

・HPへの投稿規程案の概要について報告を受け、基本的な部分については了承した。内容の詳細は、法務委員会で検討し、次回理事会で決定する。

・支部・部会のURLを地質学会のドメインに統一するよう、支部、部会に依頼して了解を得る。

・札幌大会前に、新しいシステムに完全移行する。

6. 地質学雑誌の発行改善について（継続審議）

地質学雑誌への投稿者の減少、原稿不足の現状から、発行を隔月刊にすることなどについて議論した。現在の刊行の現状と議論の内容を、ニュース誌で会員に周知させる必要がある。

・自由な意見交換を行い、次のような意見が出た。

< Island Arcのハードコピーを全員に配布し、年間12冊の配布としたらどうか。

<会員サービスの低下についてどう考えるか。 Island Arcの配布ではサービスの低下と、とらえられないか？

<最大限の努力をして、これまでどおり、

12冊は確保すべきである。掲載論文の幅を広げる必要あり。
くいざれの学会においても実情は厳しい、各学会誌の統合の可能性も探ったらどうか。
<理事会、評議員会のみではなく、議論する場を広げる必要あり。
<学会のポリシーの見直しも必要。
<現実的に日本語論文は若い会員の業績に繋がらないという意見もあるが、日本語で論文を書くことはたいせつで必要なことでもある。

7. その他

- 1) Island Arcの二重投稿問題について、I.A.編集委員会より報告を受け、下記の処置について了承した。
 - ・対象となった3論文はリジェクトとする。
 - ・当該著者を筆頭とする論文は、今後5年間はIsland Arcへの投稿は禁止とする。
 - ・当該著者を本特集のfirst editorからは外す。
- 2) 事務局職員の勤続表彰規定について
 - ・運営財政部会長上砂理事より勤続表彰規定案が提案され、了承された。
 - ・副賞については、会計委員会で検討する。
- 3) 次回（4月7日）評議員会議題の追加の有無確認をし、次のように決定。
 1. 2006年度決算（案）および2007年度予算（案）、2. 各賞選考結果について、3. 名誉会員候補者の推薦、4. 日本地質学会プライバシーポリシー、5. 地質学雑誌の出版について、6. その他
- 4) AGUの若手の賞として故柵山雅則氏の名が候補となっていることについて、木村純一会員から、参考意見を求められた。
木村会員から、AGUに地質学会の「柵山賞」についての状況を説明、連絡していただしたこととし、以後はAGUの判断することとした。

なお、この機会に、英語名は「The Geological Society of Japan Sakuyama Masanori Award」、同じく「小澤賞」については、「The Geological Society of Japan Ozawa Yoshiaki Award」とすることとした。

2006年度 第11回理事会 議事録

2007年4月27日

日本地質学会 会長 木村 學

期 日：2007年4月7日（土）

10:00～12:30

場 所：北とぴあ 901会議室

出席者：木村会長、伊藤副会長、佃副会長、

渡部常務理事、天野副常務理事、上砂・Wallis・大友・公文・倉本・中山・久田・宮下・向山 各理事、三宅評議員会議長、新井田副議長、橋辺（事務局）

欠席理事：狩野・高橋・増田 各理事

*成立員数（12/17）に対し、出席者14名、委任状2名、欠席者1名で、理事会は成立。

○報告

1. 運営財政部会（部会長-上砂、中山、向山、大友）

総務委員会（委員長-上砂）

庶務関係（担当理事-上砂）

・筑波大学朝永振一郎記念「科学の芽賞」の後援依頼を了承した。

・富士学会第6回シンポジウム（6/3日）の後援依頼を了承した。

・科学教育研究協議会54回全国研究大会の後援依頼（8/3-5日）を例年通り了承した。

・事務局の勤続表彰制度について、具体的な表彰内容について検討した。

会員関係（担当理事-中山）

1) 入会の承認

正会員（1名）：工藤幸久

院生割引会員（1名）：藤原伸也

準会員（2名）：早川達也、森 政藏

2) 退会者（3月末にて）

向井正二郎、友杉貴茂、金子弘二、佐藤浩、久島紹樹、藤江 力、野池耕平、竹林慶謙、岩井隆昌、柏本尚之、橋本富美江、吉田春香、伊藤彰彦、富樫幸雄、山崎憲一、龜川敏暢

3) 逝去者（2名） 赤嶺秀雄（3月20日）、多井義郎（3月28日）

4) 3月末現在会員数

賛助34、名誉74、正4,289（内、282院割）、学生45、合計名4,442（昨年比 -80）

5) 3月27日に会員減少の歴止めと増加の対策について総務・会計担当を交え検討をおこなった。

6) 07年度50年顕彰会員（19名）

阿部 宏、石崎国熙、石田正夫、井上 茂、猪間明俊、大熊欽一、大八木規夫、沖村雄二、笠原芳雄、白井 亨、白波瀬輝夫、高橋 一、長谷川 正、藤田 崇、堀越 収、本多谷雄、松島義章、吉澤壯夫、吉羽興一

関連学会連合（担当理事-天野）

・地質科学関連学協会連合

「地質の日」提案発起人会を開催、5月10日を候補日と決めた。地質学会として実行委員会に委員を推薦する。委員の候補者を藤本光一郎（主）、斎藤 真（副）とし、本人の承諾を得た後に推薦することとした。

・地理関連学会連合

3月19日（月）連合総会出席の報告

地球惑星科学連合（久田連絡委員）

・木村会長から、連合の体制や学術会議への対応などについて報告された。

・国際地学オリンピック小委員会（久田委員）報告

科学オリンピックに来年から地学も参加することとなり、JSTから準備金がでる。

4月に韓国で開かれる第1回の地学オリンピックは視察のみ、日本は第3回から参加する予定。

学術会議関係報告（木村会長=連携会員）

・木村会長から分科会の活動などについて報告があった。

会計関係（担当理事-向山）

・06年決算案、07年予算案について説明

・国際賞受賞者の招待に関し、旅費等の手当については、各賞検討委員会からの要請に応えることとした。

・今後の会員減少、会費減少の見通しなどをデータに基づいて検討した結果を説明した。

広報委員会（担当理事-大友）

ニュース誌編集小委員会（担当理事-大友）

・ニュース誌写真の投稿規定およびホームページへの投稿規定（案）を策定

インターネット運営小委員会（委員長-坂口有人）

・ホームページのリニューアル進行状況報告

・会員情報の閲覧、修正プログラムの採用について提案があり、これについては総務

部会で、引き続き検討を進めることとした。

2. 学術研究部会（部会長-久田、公文、増田）

行事委員会（久田委員長）

1) 札幌大会関連

・就職活動支援プログラム案、その他について

・札幌教育大学に後援依頼を出した

2) 2008年、秋田大会の開催日は9月20-22日に決定、新しく発足する鉱物科学会との共同開催の日程については、現在岩鉱学会と鉱物学会で検討中。

3) 2009年は、西日本支部に開催を依頼、岡山大学での開催が決定した旨、西田支部長から連絡があった。

3. 編集出版部会（部会長-狩野、久田、宮下、Wallis）

地質学雑誌編集委員会（委員長-狩野 副委員長-久田、宮下=企画担当）

今月の編集状況（4月5日現在）。

113-3：論説3・短報1・口絵1（50p発行済み）

113-4：論説3（約40p）（校正中）

113-5：論説4（入稿準備中）

2007年度投稿論文総数26編 [論説12 (和文12), 総説7 (和文7), 短報6 (和文5欧文1), ノート1 (和文1)] 口絵3 (和文2 欧文1)) ※うち16件が電子投稿
投稿数昨年比 + 5 査読中42編
・紀伊半島特集号は全9件のうち8件が受理。残り1件査読中。
・地学教育関連の特集号が投稿された

Island arc編集委員会 (担当理事-Wallis, 事務局長-竹内圭史・角替敏昭)

1. 編集状況

2007年16巻の年間契約ページ数576 (～最大620) p
1号 Pictorial 1編, 特集6編, 一般8編, 訂正1p+白紙, 計210p.
18年度では計画540pに対し537p.
2号 一般7編104p入稿済み。前半4編はOnline Earlyで公開済み。
3号 5月末受理のフィリピン海特集9-10編が入る予定。入稿期限は6月末。
計画1号: 一般8編127p+特集6編79p+口絵3p+白紙=210p
2号: 一般7編104p+Editorial (2)p=(106)p見込み
3号: 一般2編30p+フィリピン海特集9編135p=165p
4号: 一般6編90p+Index等2p=92p 総計573p/契約576p

2. 特集

フィリピン海特集: Guest Editors小原・徳山・石渡・Stern
11編投稿済み, 9編受理を見込む。3号掲載予定。

板谷特集: GE板谷・Sajeev・Wallis

2編投稿済み, 全15編予定。17-1号掲載を見込む。

(坂井特集): GE坂井

全13編, 紙投稿済み。内容確認中, 特集をやめ一般論文とする見込み。

久田特集: GE久田・Yumul

全28編予定。分量が非常に大きいため扱いを検討中。

3. オンライン投稿

07年3ヶ月で新規投稿22編 (特集12編, 一般10編) あり好調を維持。

システムへの登録: 総数340名。著者173名 + 査読者98名 + 編集関係者68名 (うちGuest Editor 6名)。

4. Publisher's Report 2006の説明 (抜粋)

- 2006年におけるIARの大きな変化は、カバーデザインの変更とpictorial sectionの導入。
- 2005年のインパクトファクターは1.167と過去最高になった。2006年の値は現在計算中。pseudo impact factorは計算できるので、おって連絡する。
- オンラインでの論文のダウンロード数は24,372件であり、前年比52%の増加となった。アクセスの上位10位はすべて14-4, 15-1のオフィオライト特集。

5. 今後の科研費出版助成金について検討した。

- 平成19年度より直接出版費の見積書が必要となる。競争入札を行い、最も安く入札した業者の金額をもとに交付申請書を作成しなければならない。
- IARの場合、2009年以降は競争入札を行わないと科研費が交付されない可能性がある。この問題については今後継続して検討する。

6. Island Arc賞について

- Island Arc賞の賞状はブラックウェル社が作成することを確認。

7. その他

- BlackwellとWileyは今年2月に正式に合併した。日本のオフィスは初夏頃に移転する。

8. アイランドアーク誌への二重投稿について、経過報告があった。

Island arc連絡調整委員会 (委員長-会田, 担当理事-Wallis)

- アイランドアーク科研費平成18年度の実績報告書 (総ページ560p.) を提出した。
- 平成19年度科研費申請が採択された(370万円)。

企画出版委員会 (担当理事-高橋)

- 箱根リーフレットの作成に当たり、神奈川県博に協力依頼状を出した。

5. その他

地質災害委員会 (担当理事-天野)

- 地球惑星連合大会の「能登半島地震」緊急セッションの共同提案者として参加することとした。

【以下、評議員会の下の委員会】

名誉会員推薦委員会 (伊藤副会長)

- 名誉会員候補者として1名の推薦があつた。選考のうえ、評議員会に推薦することとした。

各賞選考委員会 (委員長-酒井治孝)

- 各賞選考結果を評議員会に諮る。
- 地質学会賞1名、国際賞2名、柵山賞1名、論文賞2件、研究奨励賞2名、学会功労賞1名、学会表彰1名

法人化実行委員会 (委員長-齊藤靖二)

- 齊藤委員長からの報告 (→木村会長)

現状は、旧法による文科省の認可手続きを待ちが続いている。文科省に対し、今後の見通しの問い合わせなども行っているが、返事がない。

平成20年から実施される新法律では、一般社団法人及び一般財団法人となった後、公益性についての審査を受けて、公益性が認められれば、税制の優遇などがある公益社団法人及び公益財団法人となることができる。旧法で法人となっている団体の公益性が自動的に認められるの

かどうかについては今のところ不明とのことであるが、今後の審査を考慮すると、地質学会としては旧法での認可に期待したい。

法務委員会 (担当理事: 委員長-上砂)

Webサイトの投稿規程案について内容を検討し、修正案を作成した。

○審議事項

- 2007年度事業計画案について検討し、評議員会に提出することとした。

- 札幌大会、見学旅行下見費用の負担について準備委員会からの申し出を検討した。

現状では、案内者の申し出による下見代の全額を負担できるという状況ではなく、案内者が遠方の場合、下見の回数や人手なども工夫していただくことしたい。

- 札幌大会においては、予算上は30万円を計上し、この範囲内で各案内者にたいし応分の支給をしていただく。どのように支給するかについては、見学旅行担当者に任せる。

- 事務局の勤続表彰制度の具体的な表彰内容、勤続年数に応じて褒賞およびリフレッシュ休暇などについて、総務部会案を了承した。

- 評議員会議事進行の確認をした。

2006年度 第4回 定例評議員会議事録

2007年5月2日

日本地質学会 議長 三宅 康幸
副議長 新井田清信

日 時: 2007年4月7日 (土)

13:00—17:45

場 所: 北とぴあ 901会議室 (東京都北区王子1-1, 京浜東北線 王子駅下車1分)

出席者: 木村 学会長 伊藤谷生副会長 佃栄吉副会長

(評議員27名) <留任> 阿部国広 安間恵 磯崎行雄 永広昌之 納谷友規 新妻信明 保柳康一 三宅康幸 矢島道子 山路敦 脇田浩二

<新任> 浅野俊雄 足立勝治 安藤寿男 石垣忍 石渡明 井龍康文 岡孝輔 小山内康人 紺谷吉弘 酒井治孝 徐垣 新井田清信 針金由美子 松岡篤 松田博貴 丸山茂徳

(理事10名) 渡部芳夫 天野一男 上砂正一 大友幸子 宮下純夫 公文富士夫 倉本真一

中山俊雄 久田健一郎 向山栄

(事務局) 橋辺菊惠

欠席者 評議員 (委任状7名): 荒戸裕之 国安稔 柴正博 田近淳 井内美郎 加藤進 渡辺真人

欠席者 評議員 (委任状なし6名): 会田信

行 板谷徹丸 田崎和江 翼 好幸 榆井
久 横山俊治
理事（4名）：狩野謙一 高橋正樹 Simon
WALLIS 増田富士雄
*立員数（21/40）に対し、出席27名、委任状7名で、評議員会は成立。
*はじめに、岡 孝雄、針金由美子 両評議員を書記に選出。

報告事項

I 理事会報告

1 運営財政部会

1) 総務委員会

庶務関係（担当理事-上砂）

- ・学術会議地球惑星科学委員会（主催），YPEシンポジウム「国際地球惑星年2007-2009」（国際惑星地球年開催宣言式典）（1月22日14時-16時、東京大学理学部1号館、小柴ホール）を協賛した。
 - ・日本原子力学会より、原子力総合シンポジウム2007開催（5月末予定）の共催依頼（主催学術会議），を了承した。運営委員として高橋正樹氏を推薦。
 - ・GUPI（地質情報活用機構）のGEOFORUM-3「地域観光資源とビタービー産業」（2月3日11時、東洋大学）を協賛した。
 - ・日本粘土学会、第51回粘土科学討論会（2007年9月12-14日）の共催を承諾した。
 - ・UNESCO科学委員会から、IGCP日本委員会のメンバーに対し、委員推薦依頼があり、地質学会として募集の呼びかけ、仲谷英夫会員、井内美郎会員の応募があり国内委員会へ推薦した。
 - ・以下のアンケートに応えた。
 - 「わが国における海洋研究船のあり方に関する提言案」（文部科学省宛、同シンポジウムワークショップ世話人作成）に対するアンケートは、会長が関係の方々と意見交換を行い、慎重に検討した結果、全面的に賛成との回答をした。
 - 学術会議：学協会の機能強化方策検討のための学術団体調査に回答
 - 全地連より、土木地質図の新名称についてのアンケートに、応用地質部会の横田部会長の意見を参考に回答した。地質学会としては、候補名称のうち「工学地質図」を支持した。
 - 平成19年度の共同研究の継続契約を産業技術総合研究所と交わした。
- 研究課題：地質科学分野におけるオンライン化の将来動向に関する研究
研究費：¥1,299,500

関連学会連合（担当理事-天野）
地質科学関連学会連合
地質学会も参加する「地質の日」発起委員会により地質の日が5月10日（ライマンによる北海道地質図発行日）に制定される。

地理学関連学会連合

地理学関連学会連合は解散が決定。改変後の学会連合と地質学会のかかわり方について意見交換があった。

地球惑星科学連合（木村会長、久田連絡委員）

- ・国際地学オリンピック小委員会報告（久田委員）

日本は第三回から国際地学オリンピックに参加の方針。科学技術振興財團が事務局となる。

会員関係（担当理事-中山）

前回から今回までの入退会はか

①入会

正会員（7）：高須佳奈、楮原京子、加藤千茶子、友澤悟、Kim Ji Young、洪景鵬、佐藤明

院生割引（1）：西川裕輔、芦萱亮、佐々木陵多、高橋健一、入江美沙

準会員（1）：坂啓惟、宮田真也、半田直人、小久保晋一

②退会者 98名

06/11月-12月退会 6名：田中館宏橋、松田あゆり、村田竹外、三浦三郎、長野正寛、遠藤満久

3月末退会（92名〔正88、正割4〕）：青木和子、秋元梓、熱田雅信、安彦宏人、新井徹、飯泉克典、家永浩平、石橋澄、市川暢子、出澤茂、伊藤通玄、伊藤通義、井上多津男、井上友博、井上陽一、入佐純治、岩田圭示、岩根定晴、鵜飼宏明、内瀬戸信彦、圓藤弘典、尾芦裕子、小野洋、小幡真弓、加藤信一、加藤法彦、金山憲勇、河原大輔、菊地喜雄、木田昌宏、木谷清一、栗谷将晴、黒川明、黒川将、坂井栄信、佐藤幸二、島内哲哉、島木健哉、小豆政直、杉山茂夫、鈴木隆介、鈴木雅博、鈴木正哉、瀬谷正巳、添田雄二、曾根大貴、曾武川博道、高階義大、高貴潤一、高橋興世、武居由之、竹村貴人、田中真治、田中尚、田中芳則、千葉努、円谷博明、寺平宏、陶野郁雄、富田克敏、能田成、橋本義之、早坂祥三、林衛、原衛、針生真也、広渡文利、藤本善航、松隈明彦、松下芳浩、宮下治、山田晃、山田正春、山中寿朗、山本和幸、渡部晟、向井正二郎、友杉貴茂、金子弘二、佐藤浩、久島紘樹、藤江力、野池耕平、竹林慶謹、岩井隆昌、柏本尚之、橋本富美江、吉田春香、伊藤彰彦、富権幸雄、山崎憲一、甕川敏暢

③逝去（4）：名誉会員；秀敬（1月6日）、島田昱郎（11月28日）、赤嶺秀雄（3月20日）、多井義郎（3月28日）

④除籍者：99名（03年からの会員滞納者、07月末にて除籍）

⑤会員の動態（2007年3月31日現在）

	賛助会員	名誉会員	正会員(内院生割引)	学生会員	合計
2007.3.31	34	74	4294(287)	45	4447
2006.11.30	34	75	4484(290)	42	4635
増・減	0	-1	-190(-3)	+3	-188

⑥今年度末で退会予定の会員88名にたいし、簡単なアンケートを実施した。

・退会理由（回答39名、複数回答可）：高齢10名、定年退職9名、所属学会整理18名、会費が負担18名、転職・専門変更など7名、興味・意欲喪失6名、その他（病気など）5名。

⑦会員減少の歯止めと増加策の対策

以下の対策が検討されていると報告された。

- ・若手にたいしては就職支援イベントの実施（札幌大会）
- ・中高齢層にたいしては定年後の活躍の場（地質ガイドなど）の提供、地質学雑誌に社会人向けのページ（ニュース・総説など）や教師特集号を取上げる。
- ・その他、会費自動引落の奨励のための割引制度や、入会時の推薦者をなくすなど検討する。

会計関係（会計委員長-佐々木和彦、担当理事-向山）

・国際地質科学連合の理事会（IUGS-EC、07年1月16日～20日、奈良市）開催にあたり、開催経費の援助要請があり、20万円を支出した。

・旧構造地質研究会残余財産（370万円）の移管を受けた。来年度以降構造地質部会の引当金とする。

・札幌大会参加登録費等について、高知大会での反省を踏まえて検討した。

・06年度決算案および07年度予算案の検討

2 広報委員会（担当理事-大友）

・ニュース誌写真の投稿規定およびホームページへの投稿規定（案）を策定

・メールマガジン準備開始：6月初旬～7月下旬に試験運用、札幌大会の9月には本格運用を開始したい。

News誌編集小委員会（担当理事、委員長-大友）

インターネット運営小委員会（委員長-坂口有人、担当理事-大友）

・ホームページのリニューアル進行中。5/20総会においてデザインを公開可能に、9月からは新HPへの切り替え開始。会員の個人情報の書き込み・変更・登録も検討。

2 学術研究部会

1 行事委員会（担当理事-久田）

・札幌大会について

シンポジウム13件、セッション26（定番22+トピック4）となった。

今後のスケジュール：予告記事 News誌
5月号（5月末），発表申し込み締め切り，
ランチョン・夜間集会申し込みの締め切り
は7月3日とする。

地質学会の開催日初日が北海道マラソンと重なっているため，旅行宿泊については早めの手配が望まれる。そのためNews誌4月号に関連の情報を予め掲載する予定。近畿日本ツーリストの参加登録申込み，旅行の手配等の窓口（HP）の開始は，News誌5月号の発行に先立ち，5月10日ごろを予定している。

9月9日懇親会後に聞く出身大学別同窓会（Alumni）の実施要領が示される。

就職支援プログラムあり。札幌駅コンコースを利用し，出張展示を行うことも検討中。この時期に札幌で開催される一連の地学行事をつなげて，Geo-weekの提案

- ・2008年，秋田大会の開催日は9月20-22日と決定，新しく発足する鉱物科学会との共同開催については1日を共催日とし，日程の範囲で両学会の並行開催となる。
- ・2009年は，西日本支部に開催を依頼，岡山大学での開催が決定した旨，西田支部長から連絡があった。鉱物科学会との共同開催を検討する。

2) 専門部会連絡委員会（担当理事-天野）

- ・構造地質部会（部会長-高木秀雄）：3月18日和歌山県田辺市において普及講演会を開催した。また，06年度末に旧構造地質研究会の財産を地質学会に正式に移管した。

3) 國際交流委員会（担当理事-公文）

- ・韓国地質学会（07年9月）への招待，今後の交流の覚書を交わすこととした。
 - ・タイ地質学会会長（Mr. A. Ray a Nakhanart, チュラロンコン大学）からの招待状
- 08年の同上大学地質学科の50周年記念シンポジウムへの地質学会会長の出席など，タイ地質学会との連携を目指す。

4) 研究委員会

- (1) 南極地質研究委員会（委員長-廣井美邦）
本年11月に出発する第49次観測隊には，小山内康人（九州大学大学院比較社会文化研究院），馬場壯太郎（琉球大学教育学部），豊島剛志（新潟大学理学部），中野伸彦（九州大学大学院比較社会文化研究院），外田智千（極地研）が参加予定。また，同行者として総研大大学院生1名を派遣する予定。調査対象地域は東南極セールロングネ山地中央部。今回は，航空機を用いて南アフリカのケープタウンから直接調査地にアクセスする計画で，調査期間は2008年2月までの予定。

(2) 地質環境の長期安定性に関する研究委員

会（委員長-吉田英一）

札幌大会でシンポジウムを「地質環境の将来予測と地層処分:予測科学としての地質学」開催。

3 編集出版部会

- 1) 地質学雑誌編集委員会（担当理事，編集委員長-狩野，副委員長-久田，宮下：企画部会担当）
今月の編集状況（4月5日現在）。
113-3：論説3・短報1・口絵1（50p発行済み）
113-4：論説3（約40p）（校正中）
113-5：論説4（入稿準備中）

2007年度投稿論文総数26編〔論説12（和文12），総説7（和文7），短報6（和文5欧文1），ノート1（和文1）〕口絵3（和文2欧文1）〕※うち16件が電子投稿
投稿数昨年比 +5 査読中42編
・紀伊半島特集号は全9件のうち8件が受理。残り1件査読中。
・地学教育関連の特集号が投稿された

2) 企画出版委員会（担当理事-高橋）

- ・箱根火山リーフレットは，神奈川県立博物館，温泉地学研究所の会員の協力得て，子供向けおよび一般向けとも入稿間近。

3) Island Arc連絡調整委員会（委員長-会田信行）

- ・アイランドアーク科研費平成18年度の実績報告書（総ページ560p.）を提出した。
- ・平成19年度科研費申請が採択された（370万円）。

4) Island Arc編集委員会（編集事務局長-竹内圭史・角替敏昭，担当理事-WALLIS）

- ・二重投稿問題の経過報告がなされ，注意喚起の文章をニュース誌に掲載する予定。

1. 編集状況

2007年16巻の年間契約ページ数576（～最大620）p

1号 Pictorial 1編，特集6編，一般8編，訂正1p+白紙，計210p。
18年度では計画540pに対し537p。

2号 一般7編104p入稿済み。前半4編はOnline Earlyで公開済み。

3号 5月末受理のフィリピン海特集9-10編が入る予定。入稿期限は6月末。

年間計画 1号：一般8編127p+特集6編79p+口絵3p+白紙=210p

2号：一般7編104p+Editorial (2)p= (106) p見込み

3号：一般2編30p+フィリピン海特集9編135p=165p

4号：一般6編90p+Index等2p=92p 総計573p/契約576p

2. 特集

フィリピン海特集：Guest Editors小

原・徳山・石渡・Stern

11編投稿済み，9編受理を見込む。3号掲載予定。

板谷特集：GE板谷・Sajeev・Wallis

2編投稿済み，全15編予定。17-1号掲載を見込む。

（坂井特集）：GE坂井

全13編，紙投稿済み。内容確認中，特集をやめ一般論文とする見込み。

久田特集：GE久田・Yumul

全28編予定。分量が非常に大きいため扱いを検討中。

3. オンライン投稿

07年3ヶ月で新規投稿22編（特集12編，一般10編）あり好調を維持。
システムへの登録：総数340名。著者173名+査読者98名+編集関係者68名（うちGuest Editor 6名）。

4. Publisher's Report 2006の説明（抜粋）

- ・2006年におけるIARの大きな変化は，カバーデザインの変更とpictorial sectionの導入。
- ・2005年のインパクトファクターは1.167と過去最高になった。2006年の値は現在計算中。

pseudo impact factorは計算できるので，おって連絡する。

- ・オンラインでの論文のダウンロード数は24,372件であり，前年比52%の増加となつた。アクセスの上位10位はすべて14-4, 15-1のオフィオライト特集。

5. 今後の科研費出版助成金について検討した。

- ・平成19年度より直接出版費の見積書が必要となる。競争入札を行い，最も安く入札した業者の金額をもとに交付申請書を作成しなければならない。
- ・IARの場合，2009年以降は競争入札を行わないと科研費が交付されない可能性がある。この問題については今後継続して検討する。

6. Island Arc賞について

- ・Island Arc賞の賞状はブラックウェル社が作成することを確認。

7. その他

- ・BlackwellとWileyは今年2月に正式に合併した。日本のオフィスは初夏頃に移転する。
- ・Island Arc編集委員長（石渡・Wallis）は2000年の本誌9巻3号特集「カザフスタン北部コクチエタフ岩体の岩石テクトニクス的特徴」に関連して，同特集の掲載論文の多くは本誌の中で最も被引用数が多く（ISIによる2005年中の引用データ），学界に大きなインパクトを与えたと判断され，編集責任者（J. G. Liouおよび板野昇平氏）へ謝辞を送付した。

4 普及教育事業部会

- 1) 地学教育委員会（委員長-阿部国広）
 - ① 地球惑星科学連合「教育問題検討委員会」（委員 阿部国広）

2) 生涯教育委員会（委員長・柴 正博、担当理事・高橋）

・地質学会札幌大会で「地質学の社会教育・普及へ研究者に求められるもの」というシンポジウムを開催する。内容は、研究者が所属する団体を通して、また研究者個人で、地質学の社会教育・普及に関してできることや求められているものは何か？を、いくつかの事例を紹介していただき、議論したいと考えている。

3) 地質基準委員会（委員長・新妻信明）

第二次地質基準策定委員会は、専門部会から推薦された三田村宗樹・三宅康幸委員を加え、前回の評議員会に提案した「第二次地質基準（案）」について検討を加え、「第二次地質基準（最終案）」を策定した。同委員会は「第二次地質基準説明書編集委員会」として「第二次地質基準説明書」の執筆・編集・出版に当たる。第一回説明書編集委員会は5月9日に地質学会事務局で開催する。説明書では、最新の地質学の成果を紹介するとともに地質体の形成過程と土本地質的性質の対応を系統的に紹介する計画である。安間了委員を中心として進められている「海洋底調査の基本—海の地質基準」出版計画は、掘削船「ちきゅう」の定常運航開始前の刊行を目指し編集を進めている。原稿執筆は90%程度終了し、編集作業が進行しており、4月末日を目標に共立出版社への入稿準備をしている。

5 その他（理事会関係の委員会等の報告）

1) 地質災害委員会（担当理事・天野）

・1月30日に発生した奈良県上北山村、国道169号線における岩石崩落事故に対し、応用地質学会関西支部と合同調査団を組織、2月6日に現地調査を行った。報告記事はHPに掲載済み、News誌4月号にも掲載予定。
調査団長：千木良雅弘氏（応用地質学会関西支部長）、地質学会：近畿支部、三田村宗樹氏（地質災害委員）、天野（地質災害委員長）、応用地質学会：藤田崇氏ほか3名、土木学会：3名の参加、
・緊急災害時における報道関係からの質問等に対しては、今後、支部単位で窓口担当者（複数）を指名し、対応に備える。
・地球惑星科学連合大会で「能登半島地震」の緊急セッションを行う共同提案者となつた。
金沢・富山・信州大学などの調査チームが、情報をアップロードした。

2) ジオパーク設立推進委員会（委員長・佃栄吉）

・各地での動きと推進委員会の活動状況について報告された。
・産総研の地質ニュースで「ジオパーク特集号」の発行が予定されている。
・関連学会・省庁による「日本ジオパーク委員会」の設立を実現し、プレス・自治

体・博物館・学会への広報を強化する予定。

II 各種委員会報告（評議員会関係）

1. 各賞選考委員会（委員長・酒井治孝）

・地質学会賞、国際賞、小澤賞、樋山賞については、以下の選考検討委員会を設置し選考を諮問した。同委員会委員長は互選により木村会長となった。

委員氏名：木村 学、齋藤靖二、加々美寛雄、鈴木和博、嶋本利彦、平 朝彦、小川勇二郎、巽 好幸、渡部芳夫、狩野謙一、石渡 明、WALLIS Simon、小畠正明、松本 良

・アイランドアーク賞については、同編集委員会に選考を諮問した（平朝彦委員長）。

・07年度各賞の受賞候補を以下のように選出した。

日本地質学会賞（1件）

磯崎行雄「日本列島地体構造の基本骨格の解明とP-T境界大量絶滅事件の研究」

日本地質学会国際賞（2件）

Allan White「レスタイルモデルによるIタイプ・Sタイプ花崗岩のタイプ分けとその成因」

David H. Green「マグマ生因論および地球リソースアの進化に関する実験岩石学・地球化学的研究」

樋山雅則賞（1件）

青矢睦月「収束プレート境界のテクトニクス」

アイランドアーク賞（1件）

Graciano P. Yumul Jr., Carla B. Dimalanta, Rodolfo A. Tamayo Jr. and Rene C. Maury: Collision, subduction and accretion events in the Philippines: A synthesis. Island Arc, no.12, 77-91.
日本地質学会研究奨励賞（2件）

金丸龍夫（共著者 高橋正樹）：帶磁率異方性からみた丹沢トーナル岩体の貫入・定置機構。地質学雑誌、第111巻第8号、458-475.

小林祐哉（共著者 大塚 勉）：美濃帯左門岳ユニットの堆積相と堆積環境。地質学雑誌、第112巻第5号、331-348.
日本地質学会論文賞（2件）

小原泰彦:Mantle process beneath Philippine Sea back-arc spreading ridges :A synthesis of peridotite petrology and tectonics. Island Arc, 15, 119-129.

植田勇人・宮下純夫:Tectonic accretion of a subducted intraoceanic remnant arc in Cretaceous Hokkaido, Japan, and implications for evolution of the Pacific northwest. The Island Arc, 14, 582-598.

日本地質学会功労賞（1件）

戸間替修一氏（北海道立地質研究

所）：35年にわたる薄片等試料作成による地域地質研究への貢献

学会表彰（1件）

北中康文氏（写真家）：写真集「日本の滝」①東日本661滝、②西日本767滝（山と渓谷社）の出版。

小藤賞：推薦がなく、検討の結果、該当なし。

小澤賞：選考対象はあったが、検討の結果、該当なし。

2. 名誉会員推薦委員会（担当理事・委員長・伊藤副会長）

・名誉会員候補者として、小坂丈予会員を選出した。

・前年度評議員会で承認された候補者の小西健二会員をあわせて総会に推举する。

3. 法人化実行委員会（委員長・齊藤靖二）

・法人化申請書類は文部科学省に提出済で待機中であるとの現状報告がなされた。

4. 法務委員会・倫理規定策定委員会（委員長・担当理事・上砂）

・理事会からの諮問により、日本地質学会プライバシーポリシー（案）を策定。

・HPの投稿規程案について、内容の検討をした。

5. オンライン化委員会（委員長・斎藤 真）

・札幌大会の発表申込みおよび参加登録申込みシステムについて検討し、行事委員会に答申した。発表申し込みはJ-stageを利用することとし、事前の参加登録をはじめ各種の申し込み等については、費用払い込みの便宜と事務局の負担軽減などから近畿日本ツーリストに委託し、発表申し込みとは窓口を分けることにした。

III 選挙管理委員会（委員長・関 陽児）

・2007年度の代議員選挙、理事選挙、評議員選挙を実施した。選挙結果についてはHP,News誌にて報告した。

IV その他

1. 学術会議関係（木村会長）

・分科会等の活動などについて報告された。

2. IUGSおよびIYPE関係（担当理事・佃副会長）

・国際地質科学連合の理事会（IUGS-EC）を07年1月16日（火）～20日（土）奈良市において開催。

・2007年1月22日、学術会議地球惑星科学委員会主催で、シンポジウム「国際惑星地球年2007-2009」国際惑星年開催宣言式典を開催した。

3. IGCP専門委員会（田崎委員）

V 理事会審議事項（主なもの）報告

1. 札幌大会について

・理事会内に推進委員会を設置：4役+行事委員長+会計担当理事+地学教育担当+地質情報展担当者+本部事務局

- ・就職支援プログラムの設置、全地連に協力要請、9月8日（午後）北大にて開催。参加会社：地質学会賛助会員各社、全地連関係各社（資料のみの参加も可）。プログラム：全地連からの業界の説明紹介、JABEE委員会からJABEEの説明紹介、参加各社による数分間のプレゼン（合計1時間程度）および各社ごとにカウンターで個別説明。
- ・Geo-weekの提案
北海道支部より、ジオフェティバル（道立理科教育センターほか；9月2日予定）に始まり全地連「技術e-フォーラム」（情報地質学会・応用地質学会連系で札幌開催）、産総研「地質情報展」（9月7-9日）、地質学会大会（9月9-11日）が続く期間を「Geo-week」とする提案（共同宣伝・広報の実務は北海道支部担当）があり。
- ・Alumni（同窓会）の準備委員会よりの開催案については、概ね了承。
9月9日20:00-21:00（懇親会終了後）に実施する。
- ・見学旅行案内書の冊子体の発行について、準備委員会から強い要望があり、検討の結果、今年度は高知大会並みの白黒版で500部を印刷することとした。準備委員会にも販売努力を要請し、昨年同様、事前予約販売とする。
- ・参加登録費等年会個人負担金額の決定
- ・発表申込みおよび参加登録申込みシステムについての承認
- 2. 国際交流、特に韓国地質学会、タイ対地質学会について
- 3. 科研費審査委員候補者データベース登録者の推薦について、下記のとおり推薦した。
天野一男、WALLIS Simon、大友幸子、狩野謙一、倉本真一、佃 栄吉、久田健一郎、藤本光一郎、渡部芳夫（以上9名）
- 4. 各賞選考委員会の下の選考検討委員会委員として小畠正明会員、松本 良会員を推薦した。
- 5. 2006年度決算（案）について（→評議事項）
- 6. 2007年度事業方針（案）、予算案の検討（→評議事項）
- 7. 地質学会プライバシーポリシー（案）の最終答申を承認。（→評議事項）
- 8. ニュース誌写真の投稿規程（案）およびホームページへの投稿規定（案）の承認
広報委員会案について基本的な部分を了承した。内容の詳細は、法務委員会に検討を依頼。
- 9. ホームページのリニューアルについて
 - ・インターネット委員会での検討結果について、了承した。
 - ・札幌大会前に、新しいシステムに完全移行する。
 - ・会員の情報の登録、修正や閲覧を、会員がHPを通じて行うということについて

は、総務部会（会員、会計）で早急に検討する
・支部・部会のURLを地質学会のドメインに統一するよう、支部、部会に依頼して了解を得る

10. 地質学雑誌の刊行改善について（→評議事項）
地質学雑誌への投稿者の減少、原稿不足の現状から、発行を隔月刊にすることなどについて議論した。現在の刊行の現状と議論の内容を、ニュース誌で会員に周知させる必要がある。
11. 法人化の現状について
12. 総会議案の検討
13. 評議員会審議事項について
13. 新評議員会の開催について

評議事項

1. 2006年度決算（案）および2007年度予算（案）

2006年度の決算では、会費収入が予定より大幅に減少したこと、今年度事業持越しの経費を次年度事業準備金として積み立てたこと、2007年度の収支予算では、会員の減少傾向などから収入の伸びが期待できないので、やむを得ず引当金積立を削るなどした措置等について議論のあったのち、決算案と予算案は承認された。

2. 各賞選考結果について

提案のあった各賞候補を一括して承認した。

国際賞受賞者による講演会、シンポジウムなど特別プログラムの実施について行事委員会に要望があった。

なお、酒井委員長より、各賞選考に関する以下の提言と要望が報告された。

- 1) 賞への推薦数の増加のため各賞の推薦方式の見直し、抜本的改善が必要。
- 2) 審査期間がほぼ一ヶ月であるのは短いので期日の見直しが必要。
- 3) 各賞の対象と定義、その評価基準の明確化をはかる。
- 4) 國際賞の定義、評価基準の見直しをはかる。

以上の提案に関して、選考期間や選考基準の見直し、推薦件数を増やす工夫などの議論があり、今後各賞選考委員会の議論を経て評議委員会で検討することとなった。

3. 名誉会員候補者の推薦

推薦委員会より提案された小坂丈予会員を、名誉会員候補者として総会に推挙することを承認した。

4. 日本地質学会プライバシーポリシー

・示された原案では、どの条項までがプライバシーポリシーの内容を示しているのかわかりにくくなっているため、第5条の「プライバシーポリシーの変更につい

て」でうたっている変更の対象が不明確になっている。この点を書き改めることを前提として承認した。

5. 地質学雑誌の出版について

地質学雑誌編集委員会の宮下企画部会長から、日本語論文投稿件数の減少、1論文当たりのページ数現象などの傾向が一貫して継続していることなど、地質学雑誌発行の隔月化にせざるをえない実態がリアルに説明された。それに対して、「原稿をとつくる努力が必要」、「会員減少の問題が発生する」「大学以外の民間企業・中高齢層などに役に立つことを載せているか」、「専門部会毎にレビュー的なものを含めて特集を組む」、「ニュース誌を地質学雑誌から分離する事情が今はいはずで統合すればよい」、「文化として日本語で書ける媒体をもっていることは重要」「どの会員もよりよい情報を享受することが必要である」「査読中の論文が著者から返ってこないことが問題」などの意見が出された。木村会長からは「地質学雑誌に限らず、日本の地質学（学会）全体に関わるトータルな情報をどう手に入れ、どう扱うか問題であり、会員の各年齢層での会員動向を踏まえて、戦略として地質学雑誌・ニュース誌をどう取り扱うかが重要である」との考えが示された。全体として、当学会の今後の鍵を握る重要な事項があるので、今後も議論を継続することになった。

6. その他

- 1) 高等学校における地学教育に関する現状について（提案者井龍評議員）
- ・高校理科教育における地学の軽視がはなはだしい。また理科総合A、Bの履修状態についても問題が多い。これらに関する地質学会としての対応について問題提起がなされた。白熱した議論があったのち、今後実態内容を共有しながら議論を継続することになった。

以上

<追加報告>

07年度～08年度 日本地質学会監事の委嘱について

4月13日に理事会から表記についてメールで報告があった。

* 今年度の選出の監事1名は選挙ではなく、外部の専門家に会長が委嘱する（選挙細則第4条2項）こととし、前年度に引き続き下記の山本氏に委嘱することになった。選挙で選ばれた役員とともに5月の総会に諮る。

2007年度～2008年度 監事

司法書士 山本正司氏

（神奈川県相模原市

山本司法書士事務所）

預金口座振替依頼書 自動払込利用申込書(収加)

私は、SMBCファイナンスサービス株式会社から請求された金額を私名義の下記預金口座から預金口座振替によって支払うこととしたいので、預金口座振替規定を確約のうえ依頼します。

収納代行会社	SMBCファイナンスサービス株式会社 (旧株式会社三井ファイナンスサービス)	振替日	6日・23日(金融機関休業日の場合は翌営業日)
(フリガナ) 申込人名		申込人住所	〒 □

民間金融機関または郵便局のうちどちらか一つをご指定ください。

民間 金融 機 関	金融機関コード	支店コード	預金種目 (どちらかに○印)	口座番号 (右詰めでご記入ください。)	民間金融機関 捨印	
	銀 信 用 組 合	行 庫 舎 組 合	本 支 出 張	店 店 所		1. 普通 2. 当座
(フリガナ) 口座名義人					金融機関 お届け印	
法人の場合は、社名、代表者 役名、氏名を省略せざる記入ください。					印	
郵 便 局	(フリガナ) 口座名義人					郵便局 お届け印
	法人の場合は、郵便局へお届けの社名、代表者 役名、氏名を省略せざる記入ください。				印	
種目コード	契約種別コード	通帳記号	通帳番号(右詰めでご記入ください。)			
166	301	0	の			
払込先口座番号	00110-5-58830		払込先 加入者名	SMBCファイナンスサービス株式会社		

〈収納企業使用欄〉

収納企業名	日本地質学会		料金等の 種類	会費等
契約者番号	委託者コード		顧客コード	
	18476000	00000		

一預金口座振替規定一 ※郵便局払いは除く。

- 銀行(金庫・組合)に請求書が送付されたときは、私に通知することなく、請求書記載金額を預金口座から引落しのうえ支払ってください。この場合、預金規定または当座勘定規定にかかるわらず、預金通帳、同払戻請求書の提出または小切手の提出はありません。
- 振替日において請求書記載金額が預金口座から払戻すことのできる金額(当座貸越を利用できる範囲内の金額を含む。)をこえるときは、私に通知することなく、請求書を返却してもさしつかえありません。
- この契約を解約するときは、私から銀行(金庫・組合)に書面により届けます。尚、この届出がないまま長期間にわたり会社から請求がない等相当の事由があるときは、特に申出をしない限り、銀行(金庫・組合)はこの契約が終了したものとして取扱ってさしつかえありません。
- この預金口座振替についてかりに紛議が生じても、銀行(金庫・組合)の責めによる場合を除き、銀行(金庫・組合)には迷惑をかけません。

金融 機 関 使 用 欄	(不備返却事由)		
	1.預金(貯金)取引なし 3.印鑑相違		
	2.記載事項等相違 店名、預金種目、口座番号、 通帳記号、通帳番号、口座名義		
	4.その他()		
	備考		
検印	印鑑照合	受付印	

印
局
日
時

(民間金融機関・郵便局へのお願い)

この預金口座振替依頼書・自動払込利用申込書に不備がありましたら、不備返却事由欄の該当項目に○印をつけて速やかに右記不備返却先へご返送ください。

◎書類の流れ お客様→収納企業→SMBCファイナンスサービス→金融機関

(不備返却先)

SMBCファイナンスサービス株式会社 〒108-6350
東京都港区三田3-5-27 ☎03-5444-1533

裏面のりしろ①

101-0032

東京都千代田区岩本町
二丁目八一五 井桁ビル内

日本地質学会

御中

80円
手
切
貼

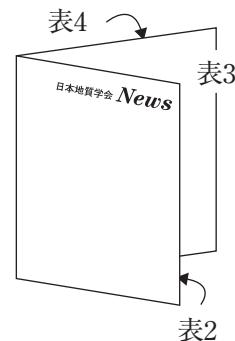
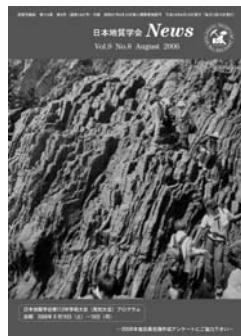
裏面のりしろ③

裏面のりしろ②

広告募集

News誌に広告を掲載しませんか.

News誌の掲載広告を募集しています。学会の直接取り扱いになりますので、カラー印刷・掲載サイズなどご相談に応じます。ぜひご利用ください。



<広告掲載価格表>

	価格(モノクロ)	版下作成	カラー
表4	60,000	+ 10,000	+ 10,000
表2	50,000	+ 10,000	-
表3	40,000	+ 10,000	-
普通	35,000	+ 5,000	-

(単位:円)

申込・問い合わせ：日本地質学会事務局
電話 03-5823-1150 FAX 03-5823-1156
e-mail ; main@geosociety.jp

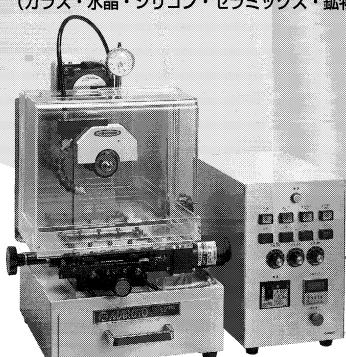


研究室のミニ工場

マルトーの ラボ・ファクトリープラン3点セット

小型 精密 操作簡単 低価格

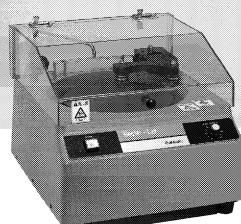
(ガラス・水晶・シリコン・セラミックス・鉱物・金属材料などの加工)



カッティング 連続・浅切込みができる ステップカッター [MC-170]

- 試料へのダメージが少ない
- 最小切込み量 10 μm/pass
- 最大加工能力 H25 × L40mm
- 設置面積 W550 × L450mm
- 本体価格 178万円～

小さな機械だが
なり役に立つ



ポリッシング 精密鏡面研磨機 ドクターラップ [ML-180]

- 組織検査用試料のラッピング・ポリッシング
- アクセサリー豊富
- 研磨試料サイズ φ1～φ100mm
- 設置面積 W400 × L400mm
- 本体価格 45万円～



コアリング 微小径コア抜き取り機 ミニピッカー [MG-5N]

- 主軸回転数 4000～12000r/min
- 加工能力 φ1～φ6mm×30mm
- 設置面積 W600 × L400mm
- 本体価格 125万円～

材料を 切る・削る・磨く そして 測る 技術で奉仕する

<http://www.maruto.com>



本社／〒113-0034 東京都文京区湯島1-1-10 東京(03)3251-0727(代表) FAX: 東京(03)3251-2478
福岡連絡事務所／〒815-0033 福岡市南区大橋1-21-5 岩田ビル 福岡(092)512-2755 FAX: 福岡(092)561-4288

新シリーズ登場！

国立公園地質リーフレットたんけんシリーズ1

「箱根火山たんけんマップー今、生きている火山」

小・中学生向けの国立公園地質リーフレットが新登場。
さあ！フィールドたんけんに出かけよう！



編集：日本地質学会国立公園地質リーフレット1「箱根火山」編集委員会

発行：日本地質学会

A2版両面フルカラー印刷。
箱根火山の観察ポイントを
たんけんマップにわかりやすく
まとめました。
ハンディタイプで、野外での観察に最適です。教材としてもぜひ
ご活用下さい。

お問い合わせは、
学会事務局まで。



地質調査の新しい時代へ……

GeoClino デジタルクリノメーター

税込価格 ¥49,800

走向/傾斜を1回の操作で同時測定

※ 写真は実物大です



GSI ジーエスアイ株式会社

〒310-0805 茨城県水戸市中央2-8-37 茨城県味噌会館2F
TEL: 029-302-5238 FAX: 029-302-5248

お問い合わせはこちらから
<http://www.gsinet.co.jp>